

平成26年度 神戸大学データ資料集



データと資料が語る
神戸大学の今の姿

目次



表紙写真：鶴甲第1キャンパス（国際文化学研究科等）



写真：模擬法廷棟「ラ・クール」

概要

1. 概要・ランキング … 1

教職員

2. 教員 … 4
3. 職員 … 6

教育

4. 学生定員 … 7
5. 学部一般選抜志願状況 … 9
6. 入学状況（学部） … 12
7. 入学状況（研究科） … 14
8. 学位授与状況（授与率） … 16
9. 進路・就職状況 … 18
10. 資格試験合格状況 … 24
11. 学生生活状況 … 26
12. 教育プログラムの採択状況 … 29

研究

13. 研究論文 … 30
14. 科学研究費 … 34
15. 日本学術振興会特別研究員 … 37
16. 研究プログラムの採択状況 … 38
17. 文化勲章等受章者一覧 … 40

産学官連携

18. 産学官連携状況 … 41
19. 国内の大学等との連携協定 … 42
20. 連携大学院実施状況 … 43
21. 教育関係共同利用拠点 … 44

国際

22. 留学 … 45
23. 海外大学との交流状況 … 48
24. 研究者等交流状況 … 50

病院

25. 附属病院 … 51

附属学校

26. 附属学校 … 54

学内施設

27. 学内施設等 … 55

社会貢献

28. 公開講座等 … 56

1.概要・ランキング

1-1.神戸大学の概要

平成26年5月1日現在

区 分		入学定員	入学者数	総定員	在籍者数				
学生等数	学部	2,697	2,764	10,693	11,849	(4,044)			
	大学院	修士・博士前期課程	1,233	1,272	2,462	2,767	(871)		
		博士・博士後期課程	377	312	1,221	1,571	(558)		
		専門職学位課程	149	149	378	350	(80)		
	合計	4,456	4,497	14,754	16,537	(5,553)			
	外国人留学生数	学部生 (内数)	104	大学院生 (内数)	756	研究生等	236	計	1,096
附属学校	学級数		在籍者数 <small>(注1)</small>						
	55		1617 (72)						
区 分		教員数 <small>(注2)</small>	附属学校教諭 <small>(注3)</small>	その他職員数	計				
教職員数	合計	1,611	128	1,869	3,608				
	(女性教職員数)	(263)	(53)	(1,161)	(1,477)				
	女性比率	16.3%	41.4%	62.1%	40.9%				
予算規模		平成26年度 約672億円 (うち運営費交付金 約204億円)							

※ () 内は女子を内数で表す。また、教職員数については、休職者を除く現員数。
 注1：在籍者数の () は、帰国子女数を内数で示す。 注2：役員及び特別顧問を含む。 注3：再雇用教員を含む。

1-2.主要キャンパス

	六甲台地区	本部、人文学・国際文化学・人間発達環境学・法学・経済学・経営学・理学・工学・シラム情報学・農学・国際協力研究科、経済経営研究所、附属図書館など	約44ha
	楠地区	(医学研究科、病院など)	約5ha
	深江地区	(海事科学研究科、乗船実習科など)	約11ha
	名谷地区	(保健学研究科)	約3ha
	住吉地区	(附属中等教育学校)	約3ha
	明石地区	(附属幼稚園・小学校など)	約3ha
	大久保地区	(附属特別支援学校)	約2ha
	加西地区	(食資源教育研究センター)	約40ha

1-3.神戸大学の位置【規模】

[規模の比較(国立大学間)]

学部数

順位	大学名	学部数
1	北海道大学	12
2	神戸大学	11
2	大阪大学	11
2	岡山大学	11
2	広島大学	11
2	九州大学	11
7	東北大学	10
7	東京大学	10
7	京都大学	10
10	筑波大学	9
10	千葉大学	9
10	新潟大学	9
10	名古屋大学	9
10	長崎大学	9
10	鹿児島大学	9

(2014)

学部入学定員

順位	大学名	入学定員
1	大阪大学	3,255
2	東京大学	3,063
3	京都大学	2,866
4	九州大学	2,555
5	神戸大学	2,547
6	北海道大学	2,485
7	東北大学	2,396
8	広島大学	2,358
9	千葉大学	2,322
10	新潟大学	2,247
11	岡山大学	2,198
12	名古屋大学	2,107
13	筑波大学	2,088

(2014)

大学院数

順位	大学名	大学院数
1	京都大学	18
1	九州大学	18
1	北海道大学	18
4	大阪大学	16
4	東北大学	16
6	東京大学	15
7	神戸大学	14
7	名古屋大学	14
9	広島大学	11
10	鹿児島大学	10
11	千葉大学	9
11	山口大学	9

(2014)

大学院入学定員

順位	大学名	入学定員	入学定員(M)	入学定員(P)	入学定員(D)
1	東京大学	4,931	2,824	395	1,712
2	京都大学	3,664	2,215	324	1,125
3	大阪大学	3,031	2,009	80	942
4	東北大学	2,721	1,773	120	828
5	九州大学	2,681	1,731	165	785
6	筑波大学	2,396	1,651	66	679
7	北海道大学	2,385	1,575	130	680
8	名古屋大学	2,325	1,525	70	730
9	東京工業大学	2,151	1,544	40	567
10	神戸大学	1,759	1,233	149	377
11	広島大学	1,555	1,017	48	490
12	千葉大学	1,237	936	40	261
13	岡山大学	1,146	810	65	271

(2014)

学部・大学院入学定員

順位	大学名	入学定員
1	東京大学	7,994
2	京都大学	6,530
3	大阪大学	6,286
4	九州大学	5,236
5	東北大学	5,117
6	北海道大学	4,870
7	筑波大学	4,484
8	名古屋大学	4,432
9	神戸大学	4,306
10	広島大学	3,913
11	千葉大学	3,559

(2014)

教員(常勤)

順位	大学名	教員数
1	東京大学	2,423
2	大阪大学	1,957
3	京都大学	1,927
4	東北大学	1,759
5	九州大学	1,528
6	筑波大学	1,490
7	北海道大学	1,462
8	名古屋大学	1,263
9	広島大学	1,201
10	神戸大学	1,122
11	岡山大学	931

※教授・准教授・講師のみの値。(2013)

事務職員(常勤)

順位	大学名	職員数
1	東京大学	1,513
2	京都大学	1,363
3	大阪大学	1,183
4	東北大学	1,036
5	九州大学	1,011
6	北海道大学	861
7	筑波大学	732
8	名古屋大学	668
9	神戸大学	600
10	広島大学	571
11	千葉大学	523

※附属病院看護師を含む。(2013)

運営費交付金

順位	大学名	金額(百万円)
1	東京大学	81,126
2	京都大学	54,156
3	大阪大学	46,545
4	東北大学	45,819
5	九州大学	41,807
6	筑波大学	40,549
7	北海道大学	36,327
8	名古屋大学	31,951
9	広島大学	25,260
10	東京工業大学	21,779
11	神戸大学	20,401

※未滿は切り捨て。(2014)

出典)

1. 学部・大学院数、入学定員については、「**全国大学一覧(平成26年度)**」により確認した。
※学部入学定員の上位13大学を**大規模13大学**と定義する。以下同じ。
2. 教職員数については、朝日新聞出版「**大学ランキング2015年版**」により確認した。
3. 運営費交付金については、「**平成26年度 国立大学法人運営費交付金 予定額**」により確認した。

1-3.神戸大学の位置【教育】

[教育の比較(国立大学間)]

教員一人当たりの学生数(大規模13大学間)

順位	大学名	人
1	東北大学	6.6
2	筑波大学	7.5
3	東京大学	8.2
4	北海道大学	10.0
5	大阪大学	10.1
6	広島大学	10.5
7	名古屋大学	10.8
8	京都大学	12.0
9	九州大学	12.6
10	神戸大学	13.0
11	岡山大学	13.4
12	千葉大学	15.7
13	新潟大学	15.9

※少ない順

(2013)

校舎面積

順位	大学名	m
1	東京大学	1,067,070
2	京都大学	717,072
3	北海道大学	649,403
4	神戸大学	537,824
5	大阪大学	531,618
6	新潟大学	520,298
7	名古屋大学	513,593
8	広島大学	513,194
9	岡山大学	498,046
10	筑波大学	469,779
11	東北大学	449,782
12	信州大学	430,494
13	九州大学	425,896

(2013)

学生一人当たりの校舎面積(大規模13大学間)

順位	大学名	m
1	東京大学	76.1
2	北海道大学	57.0
3	京都大学	53.4
4	名古屋大学	52.0
5	新潟大学	51.2
6	岡山大学	50.2
7	広島大学	49.2
8	筑波大学	48.0
9	神戸大学	45.3
10	東北大学	40.9
11	九州大学	36.1
12	大阪大学	34.2
13	千葉大学	26.4

※低い順

(2013)

女性教員数

順位	大学名	人
1	筑波大学	220
2	大阪大学	207
3	東京大学	197
4	京都大学	147
5	名古屋大学	142
6	東北大学	139
6	九州大学	139
6	千葉大学	139
9	広島大学	133
10	神戸大学	127
11	北海道大学	111
12	お茶の水女子大学	104
13	岡山大学	98

※常勤の教授・准教授・講師の合計

(2013)

外国人教員数

順位	大学名	人
1	大阪大学	80
2	九州大学	73
3	東北大学	72
4	東京大学	70
5	筑波大学	67
6	神戸大学	41
7	東京外国語大学	38
8	広島大学	37
9	京都大学	34
9	北海道大学	34
11	岡山大学	30
11	山口大学	30
13	名古屋大学	29

※常勤の教授・准教授・講師の合計

図書館蔵書数

順位	大学名	蔵書数
1	東京大学	9,266,963
2	京都大学	6,697,788
3	九州大学	4,161,315
4	東北大学	3,993,399
5	大阪大学	3,934,272
6	北海道大学	3,831,786
7	神戸大学	3,727,529
8	広島大学	3,411,315
9	名古屋大学	3,195,432
10	一橋大学	2,632,282
11	筑波大学	2,584,633
12	岡山大学	2,136,102
13	金沢大学	1,843,184

(2012)

入学率(大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	京都大学	99.69%
2	東京大学	99.52%
3	名古屋大学	98.20%
4	大阪大学	97.03%
5	東北大学	95.89%
6	北海道大学	95.54%
7	九州大学	95.48%
8	神戸大学	94.98%
8	岡山大学	94.98%
10	広島大学	94.08%
11	筑波大学	93.98%
12	新潟大学	92.48%
13	千葉大学	90.76%

(2013)

標準修業年限卒業率(大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	大阪大学	73.7%
2	京都大学	75.1%
3	神戸大学	75.7%
4	東京大学	78.2%
5	筑波大学	80.8%
6	北海道大学	83.8%
7	九州大学	84.0%
8	千葉大学	84.7%
9	広島大学	85.5%
10	名古屋大学	87.6%
11	岡山大学	90.9%
12	東北大学	91.9%
13	新潟大学	92.0%

※低い順

(2012)

企業が「評価」する大学ランキング

順位	大学名	全体順位
1	京都大学	1
2	神戸大学	2
3	筑波大学	4
4	一橋大学	5
5	徳島大学	6
6	九州大学	9
7	名古屋大学	10
8	東京工業大学	11
9	大阪大学	12
10	千葉大学	18
11	名古屋工業大学	21
12	茨城大学	23
13	東京大学	25

(2014)

出典)

1. 教員一人当たりの学生数、校舎面積、学生一人当たりの校舎面積、女性教員数、外国人教員数、図書館蔵書数、入学率、標準修業年限卒業率については朝日新聞出版「**大学ランキング2015年版**」により確認した。
2. 「企業が「評価」する大学ランキング」については日経HR「**受験から就職まで 親とのかしこい大学選び2015年版**」により確認した。

1-3.神戸大学の位置【研究】

【研究の比較（国立大学間）】

科学研究費補助金

順位	大学名	配分総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	23,183,151	9,567
2	京都大学	14,512,164	7,530
3	大阪大学	11,877,930	6,069
4	東北大学	10,482,745	5,959
5	名古屋大学	7,606,310	6,022
6	九州大学	7,603,001	4,975
7	北海道大学	6,445,660	4,408
8	東京工業大学	4,699,890	6,509
9	筑波大学	3,972,280	2,665
10	広島大学	3,147,963	2,621
11	神戸大学	3,044,160	2,713
12	千葉大学	2,369,770	2,781
13	岡山大学	2,230,410	2,395

※小数点以下切り捨て (2012)

共同研究（民間企業）

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	京都大学	3,937,614
2	東京大学	3,867,943
3	大阪大学	2,406,742
4	東北大学	2,290,884
5	九州大学	1,327,275
6	東京工業大学	1,190,930
7	名古屋大学	1,071,538
8	名古屋工業大学	860,838
9	北海道大学	773,380
10	神戸大学	496,981
11	広島大学	483,559
12	千葉大学	399,107
13	筑波大学	383,774

※小数点以下切り捨て (2012)

共同研究（中小企業）

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	東京大学	763,377
2	東北大学	347,791
3	九州大学	218,427
4	名古屋大学	187,449
5	大阪大学	151,182
6	筑波大学	134,466
7	京都大学	126,341
8	東京農工大学	109,861
9	北海道大学	109,523
10	東京工業大学	94,472
11	神戸大学	94,138
12	信州大学	81,071
13	鳥取大学	68,015

※小数点以下切り捨て (2012)

共同研究（外国企業）

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	東北大学	227,702
2	東京工業大学	107,726
3	東京大学	71,307
4	神戸大学	61,700
5	大阪大学	49,103
6	九州大学	44,567
7	広島大学	36,790
8	名古屋大学	32,497
9	三重大学	18,066
10	京都大学	16,807
11	名古屋工業大学	15,976
12	東京農工大学	14,458
13	山形大学	7,671

※小数点以下切り捨て (2012)

出典

- 科学研究費補助金、外部資金については、朝日新聞出版「**大学ランキング2015年版**」により確認した。
- 共同研究（民間企業）、共同研究（中小企業）、共同研究（外国企業）、受託研究（民間企業）については文部科学省「**平成24年度大学等における産学連携等実施状況**」により確認した。
- 学術論文（量）については、Thomson Reuters社のデータベース「**InCites Global Comparisons**」にて確認した。なお、数値は2009年から2013年までの累計を記している。
- 学術論文（質）についてはThomson Reuters社のデータベース「**InCites Global Comparisons**」にて確認した。なお、定義は下記の通りである。
 （被引用インパクト＝被引用数÷論文数）
 「世界全体の 相対被引用インパクト」
 →各大学の「Impact Relative to World」の数値を記載している。
 A大学の世界における平均被引用数を、世界全体での平均被引用数で割ったもの。

外部資金

順位	大学名	総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	40,018,939	16,516
2	京都大学	26,572,445	13,789
3	大阪大学	18,379,105	9,391
4	東北大学	17,078,297	9,709
5	九州大学	16,830,311	11,014
6	名古屋大学	9,688,088	7,670
7	東京工業大学	8,743,447	12,110
8	北海道大学	7,117,384	4,868
9	筑波大学	5,335,850	3,581
10	神戸大学	4,485,406	3,997
11	広島大学	3,616,991	3,011
12	熊本大学	3,367,403	4,852
13	東京医科歯科大学	3,230,972	8,284

※奨学寄附金、受託研究費、共同研究費の計 (2012)

受託研究（民間企業）

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	東京大学	339,329
2	京都大学	282,471
3	大阪大学	243,646
4	名古屋大学	242,207
5	東京工業大学	239,812
6	九州大学	182,900
7	三重大学	155,583
8	熊本大学	137,063
9	神戸大学	115,788
10	東北大学	113,997
11	信州大学	89,409
12	鹿児島大学	76,466
13	北海道大学	71,327

※小数点以下切り捨て (2012)

学術論文（量）（大規模13大学間）

順位	大学名	総論文数	総被引用数
1	東京大学	37,387	306,494
2	京都大学	28,335	202,561
3	大阪大学	22,386	164,439
4	東北大学	22,138	137,080
5	九州大学	15,414	82,614
6	名古屋大学	14,839	106,944
7	北海道大学	14,825	81,837
8	筑波大学	9,609	64,321
9	広島大学	8,181	56,310
10	神戸大学	6,902	42,585
11	岡山大学	6,786	45,323
12	千葉大学	6,302	35,541
13	新潟大学	4,148	21,644

(2009-2013)

学術論文（質）（大規模13大学間）

順位	大学名	相対被引用 インパクト
1	東京大学	1.539
2	大阪大学	1.379
3	名古屋大学	1.353
4	京都大学	1.342
5	広島大学	1.292
6	筑波大学	1.257
7	岡山大学	1.254
8	東北大学	1.163
9	神戸大学	1.159
10	千葉大学	1.059
11	北海道大学	1.036
12	九州大学	1.006
13	新潟大学	0.980

※小数点第四位以下切り捨て (2009-2013)

1-3.神戸大学の位置【国際】

【国際の比較（国立大学間）】

世界大学ランキング（大規模13大学間）

①QS社・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	31
2	京都大学	36
3	大阪大学	55
4	東北大学	71
5	名古屋大学	103
6	九州大学	126
7	北海道大学	135
8	筑波大学	198
9	神戸大学	294
10	広島大学	314
11	千葉大学	491-500
12	岡山大学	501-550
13	新潟大学	651-700

(2014/2015)

②QS社・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	10
2	京都大学	12
3	大阪大学	13
4	東北大学	18
5	名古屋大学	20
6	北海道大学	23
7	九州大学	24
8	筑波大学	34
9	神戸大学	43
10	広島大学	47
11	千葉大学	62
12	岡山大学	88
13	新潟大学	122

(2014)

③THE誌・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	23
2	京都大学	52
3	大阪大学	144
4	東北大学	150
5	名古屋大学	201-225
6	北海道大学	301-350
6	筑波大学	301-350
6	九州大学	301-350
9	広島大学	401+
9	神戸大学	401+
9	岡山大学	401+
9	千葉大学	401+
9	新潟大学	401+

(2013-2014)

④THE誌・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	1
2	京都大学	7
3	大阪大学	15
4	東北大学	16
5	名古屋大学	29
6	筑波大学	42
7	北海道大学	48
8	九州大学	50
9	広島大学	74
10	神戸大学	88
11	岡山大学	94
12	千葉大学	98
13	新潟大学	101+

(2013-2014)

⑤上海交通大学・世界大学学術ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	21
2	京都大学	26
3	大阪大学	78
4	北海道大学	101-150
4	名古屋大学	101-150
4	東北大学	101-150
7	九州大学	151-200
8	神戸大学	201-300
8	筑波大学	201-300
10	千葉大学	301-400
10	広島大学	301-400
12	岡山大学	401-500
13	新潟大学	501+

(2014)

外国人留学生数

順位	大学名	人数（人）
1	東京大学	2,486
2	九州大学	1,553
3	大阪大学	1,446
4	筑波大学	1,427
5	京都大学	1,421
6	名古屋大学	1,359
7	東北大学	1,160
8	東京工業大学	1,080
9	北海道大学	1,079
10	神戸大学	854
11	広島大学	806
12	千葉大学	736
13	横浜国立大学	689

※学部留学生+大学院留学生 (2013)

国際共著論文（大規模13大学間）

順位	大学名	国際共著論文数 (本)	比率 (%)
1	東京大学	11,957	31.98%
2	京都大学	8,347	29.46%
3	東北大学	6,899	31.16%
4	大阪大学	6,086	27.19%
5	名古屋大学	4,392	29.60%
6	北海道大学	3,984	26.87%
7	九州大学	3,853	25.00%
8	筑波大学	2,903	30.21%
9	広島大学	2,312	28.26%
10	岡山大学	2,145	31.61%
11	神戸大学	1,748	25.33%
12	千葉大学	1,611	25.56%
13	新潟大学	1,133	27.31%

(2009-2013)

出典

- 世界大学ランキングについては各発表機関のHPにて確認した。
 なお、「-」についてはその順位グループに属していることを示しており（例：201-300は201位から300位のグループ）、「+」についてはランク外であることを示している（例：401+は400位まで発表のランキングにてランクインしなかった大学）。
- 外国人留学生については、朝日新聞出版「**大学ランキング2015年版**」により確認した。
- 国際共著論文についてはThomson Reuters社のデータベース「**InCites Global Comparisons**」にて確認した。なお、共著論文数の数値は2009年から2013年までの累計を記している。

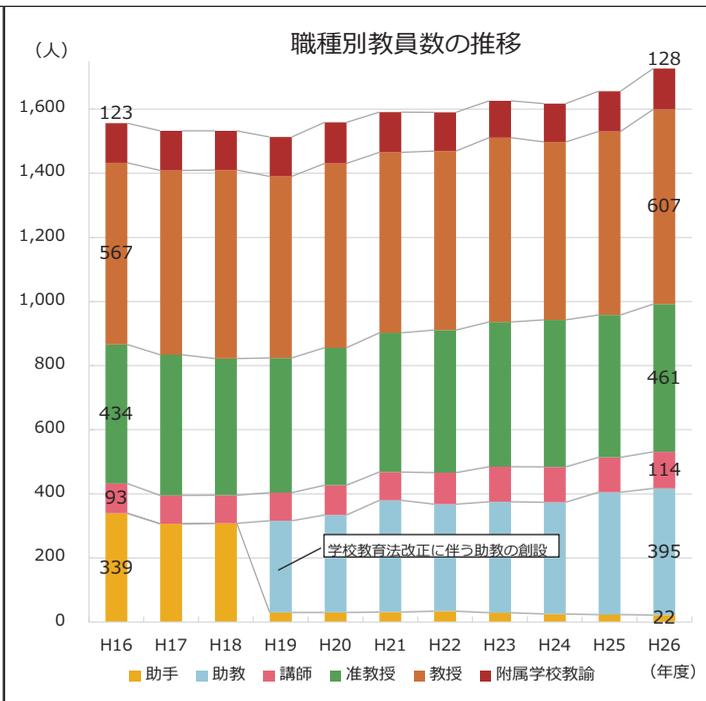
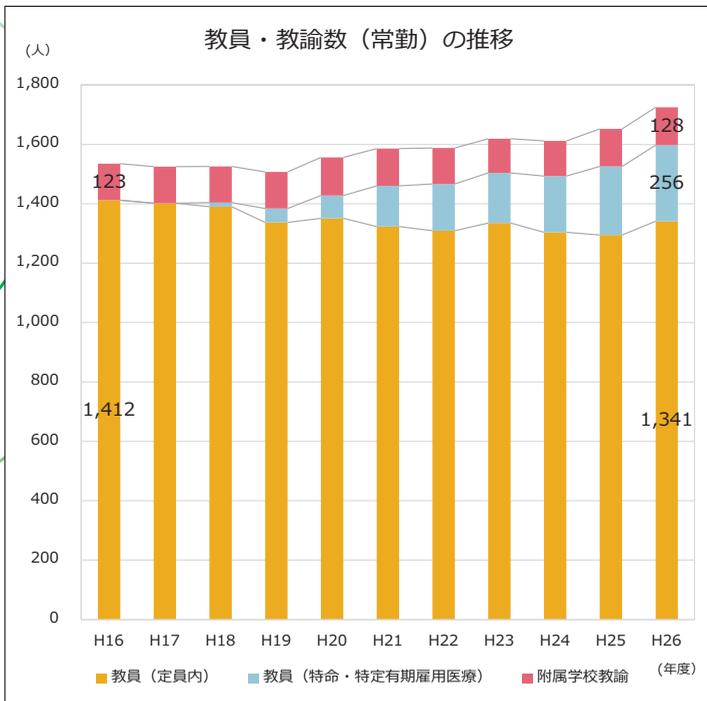
2. 教員

2-1. 教員数の推移等

法人化時より常勤教員（定員内）が減り、特命教員及び特定有期雇用医療教員が増えている。

◆教員◆（神戸大学）

各年度5月1日現在

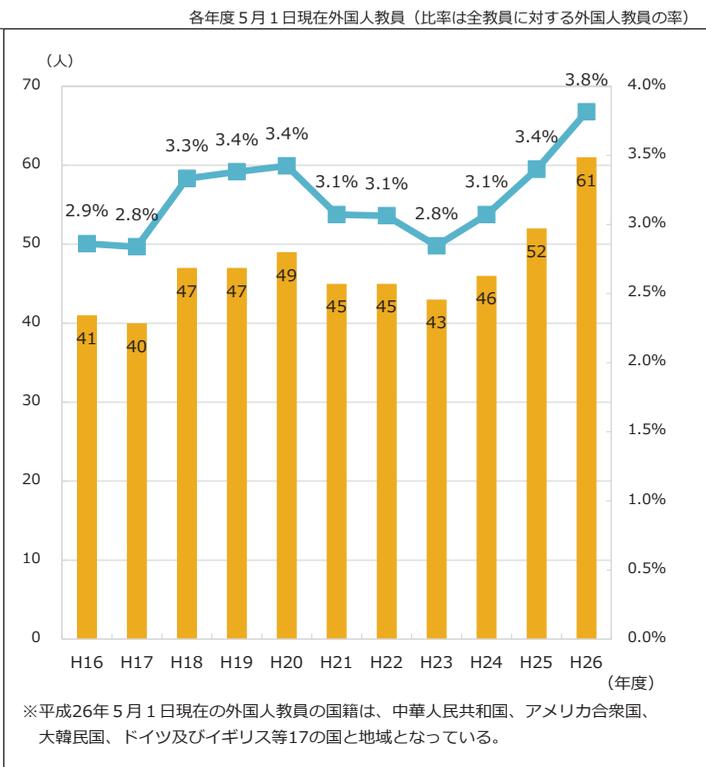
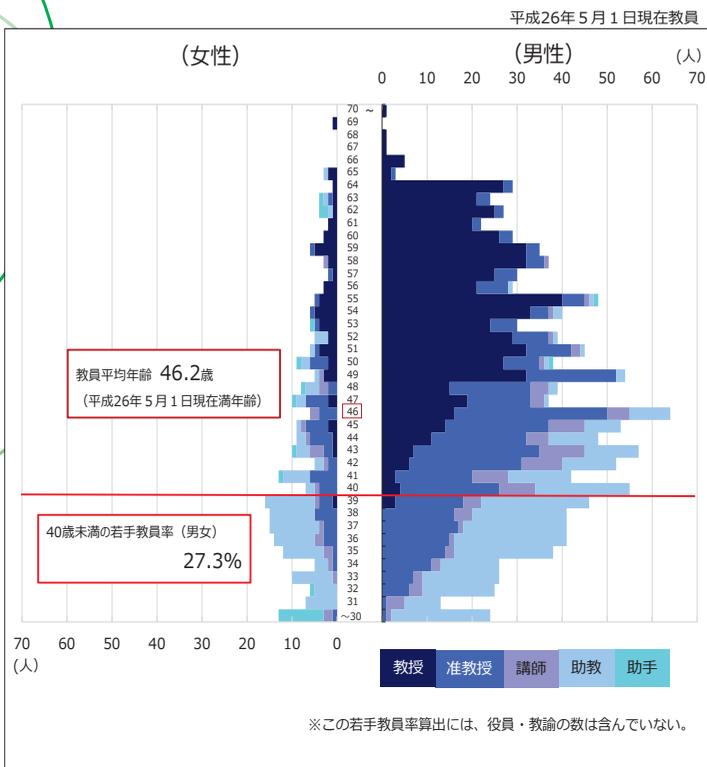


注）左図は休職者を含まない現員数を、右図は休職者を含む数値を記載しているため、総数は一致しない。

昨年度45.9歳であった教員の平均年齢は、定年延長の影響から46.2歳へ上昇した。また、外国人教員については、人数・割合ともに近年増加傾向にある。

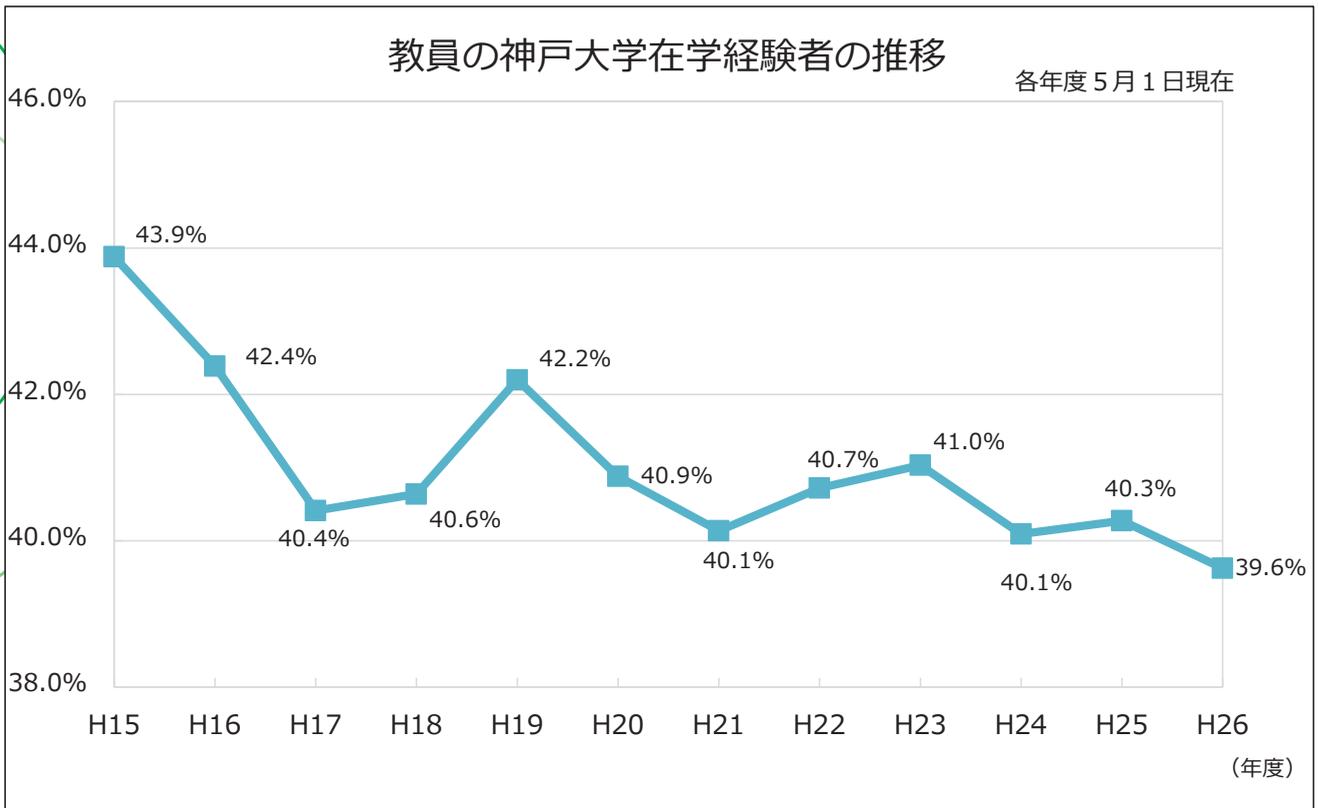
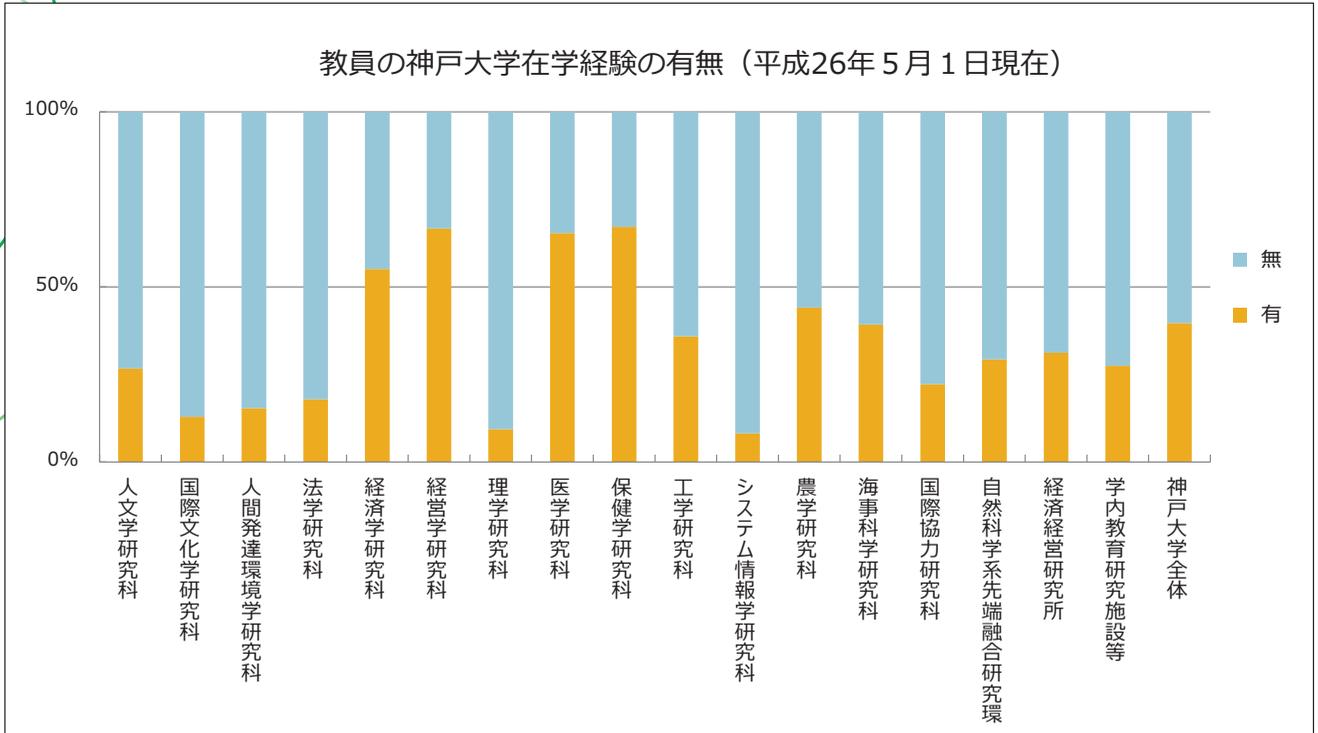
◆男女別・年齢別・職種別教員数◆ （神戸大学）

◆外国人教員数・外国人教員比率の推移◆ （神戸大学）



2-2.教員の神戸大学在学経験者

教員の公募による幅広い人材の採用が進み、神戸大学に在学経験のある教員数は全体的に減少傾向にある。



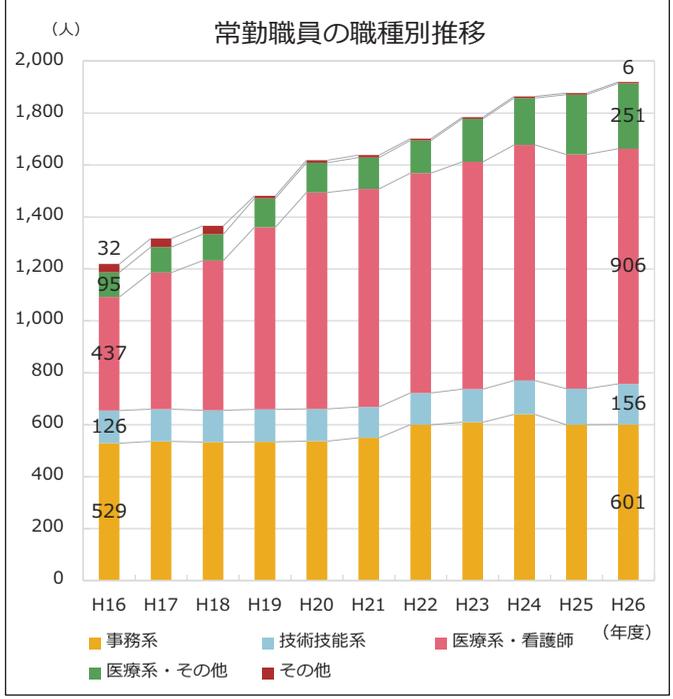
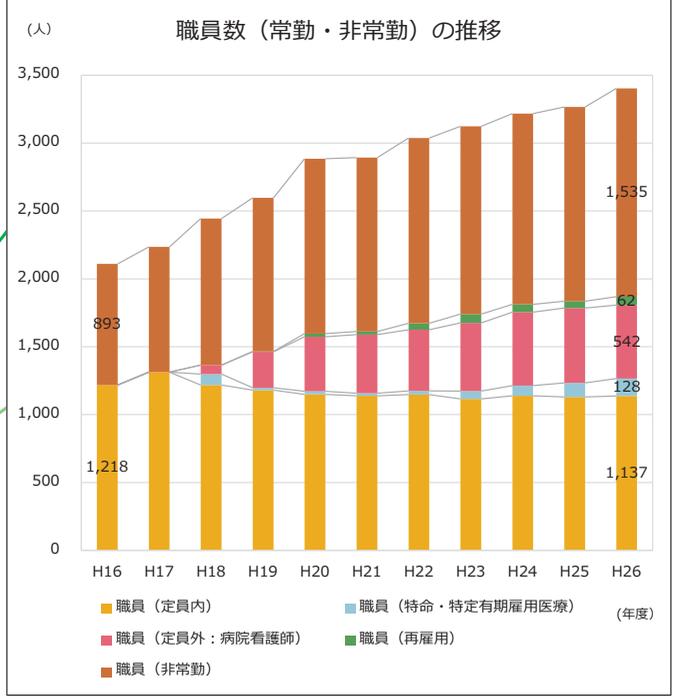
3. 職員

3-1. 職員数の推移

法人化時より常勤職員（定員内）が減り、非常勤職員が増えている。また、職種別では特に看護師の数が増えている。

◆職員◆（神戸大学）

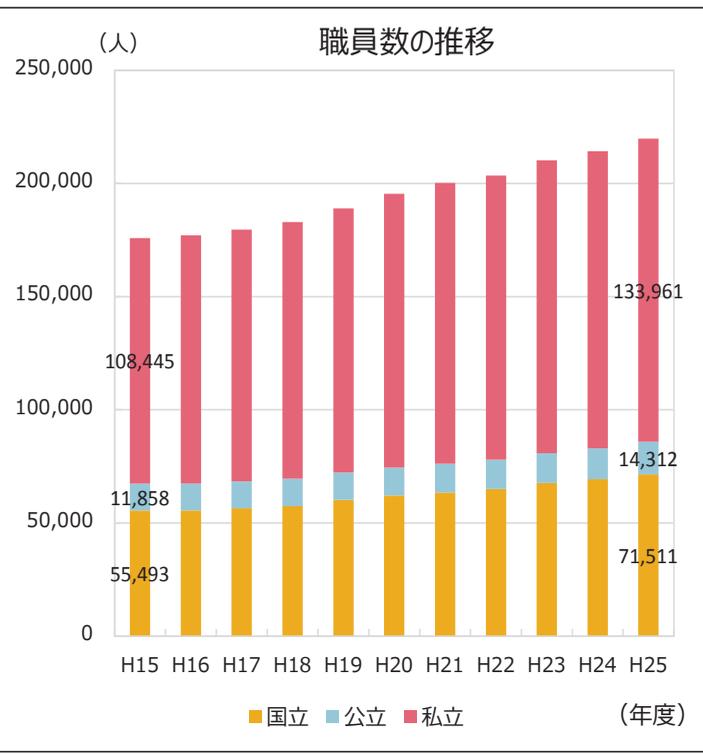
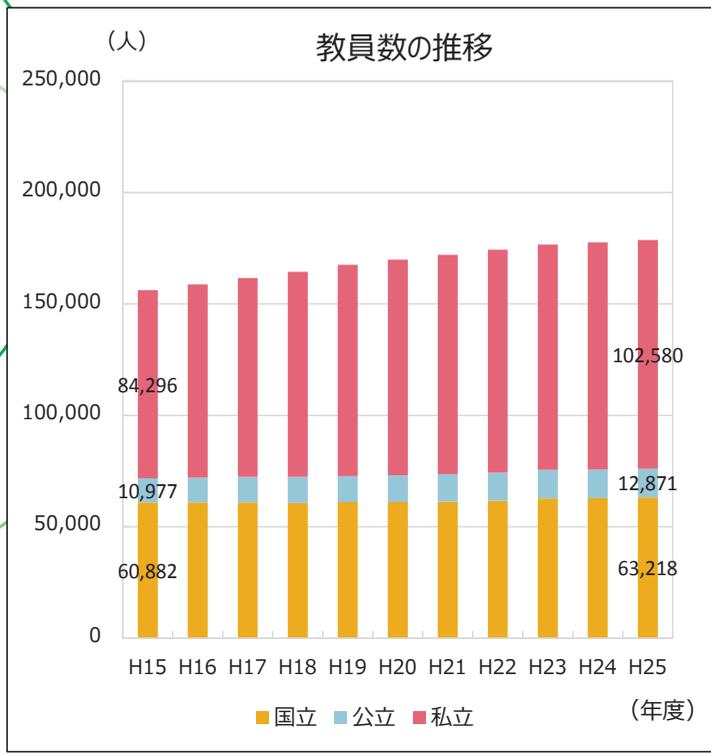
各年度5月1日現在



注）左図は休職者を含まない現員数を、右図は休職者を含む数値を記載しているため、左右のグラフで常勤職員の総数は一致しない。

3-2. 【参考】国公立大学の教職員数の推移

各年度5月1日現在



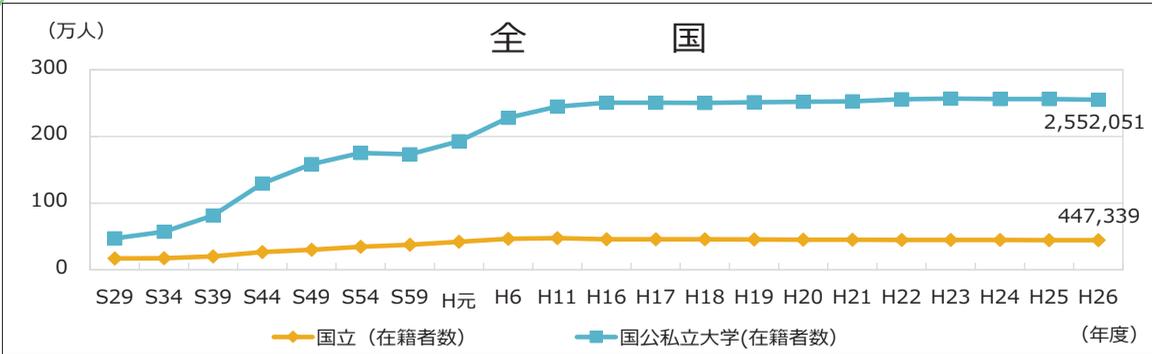
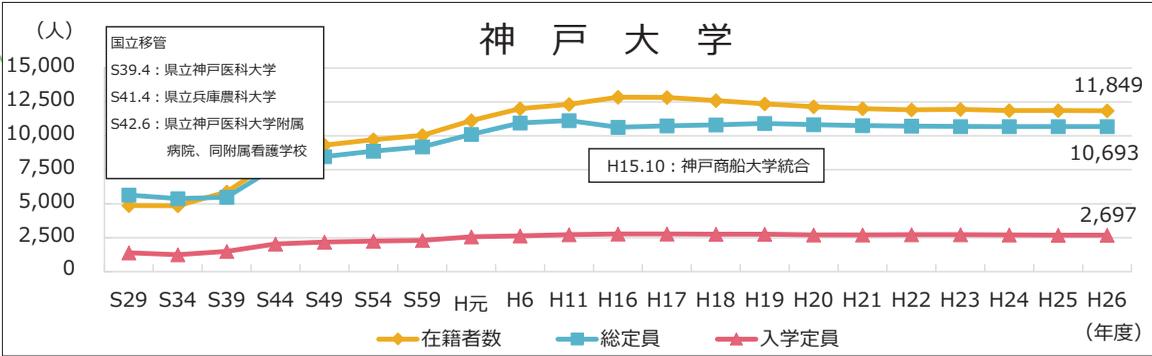
※出典：文部科学省 学校基本調査より作成

4. 学生定員

総定員に対する在籍者数の比率は、学部及び修士・博士前期課程においては約1.1倍、博士・博士後期課程においては約1.3倍となっている。

4-1. 学生定員の推移【学部】

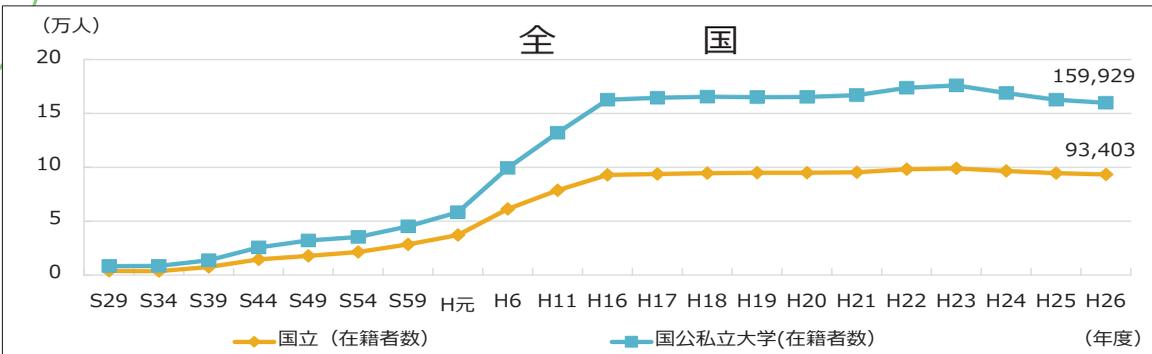
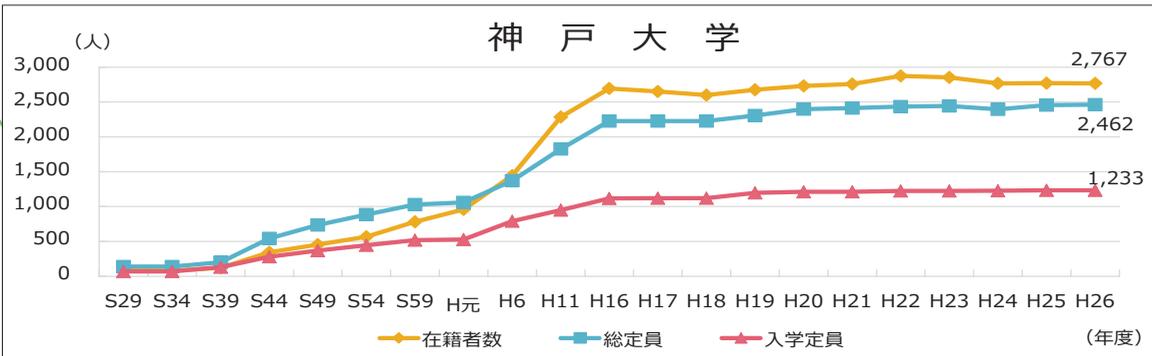
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

4-2. 学生定員の推移【修士・博士前期課程】

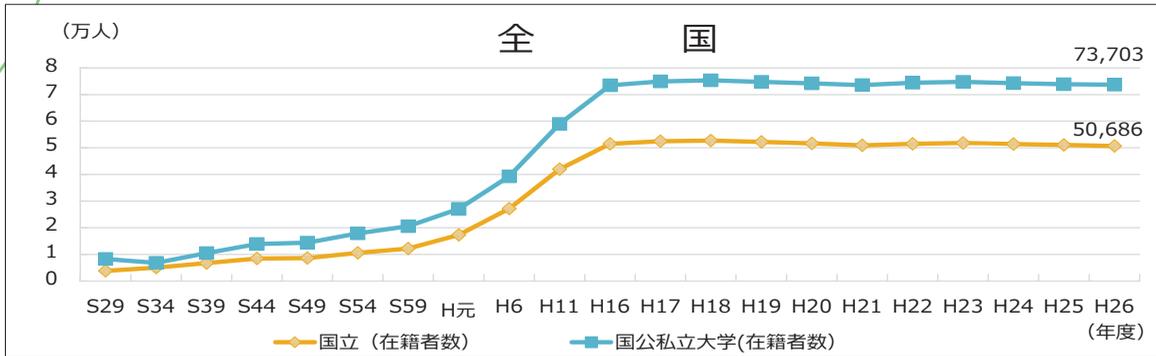
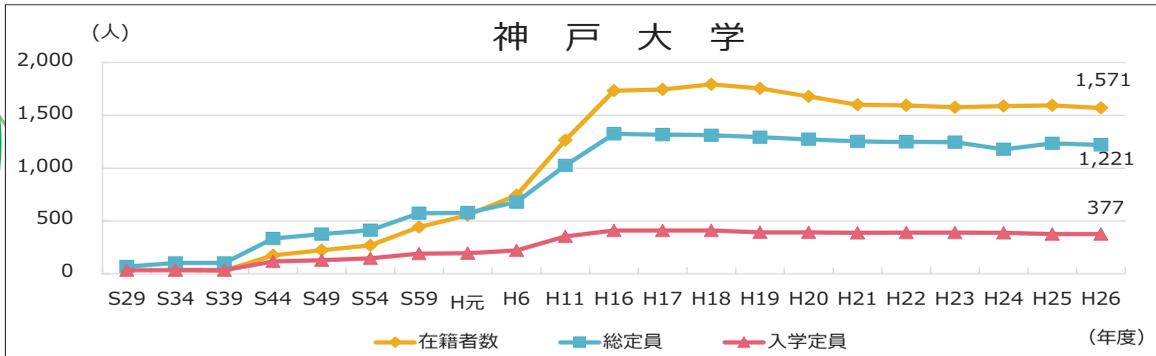
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

4-3. 学生定員の推移【博士・博士後期課程】

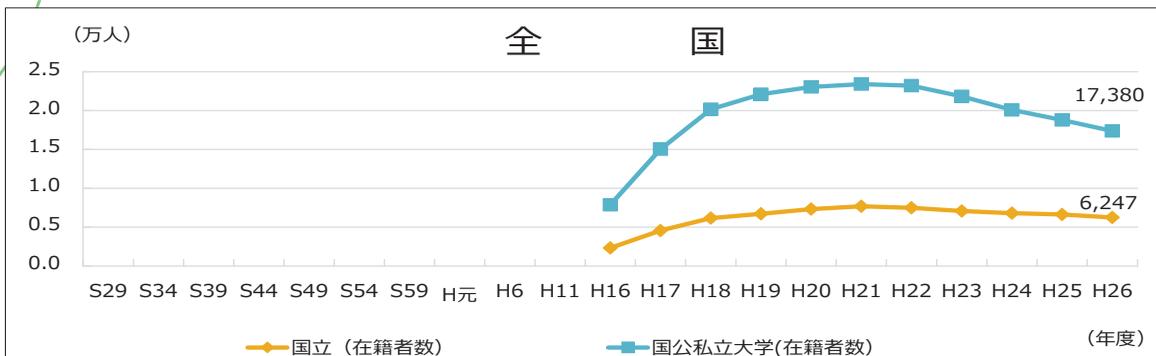
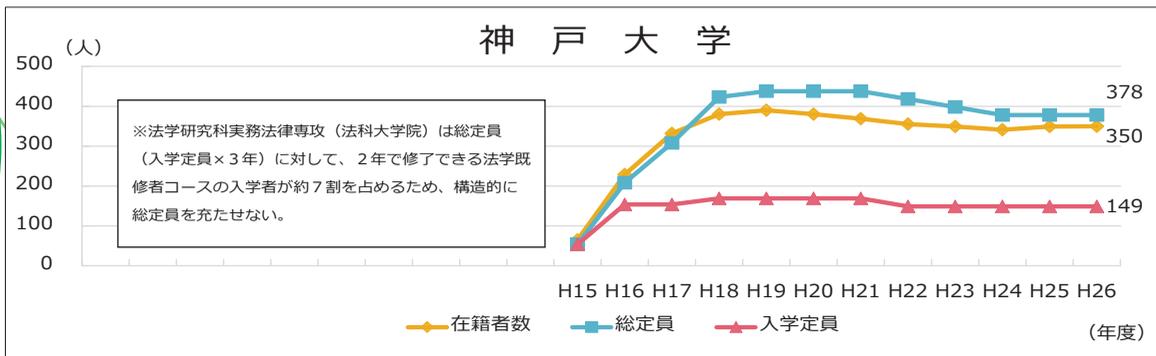
各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

4-4. 学生定員の推移【専門職学位課程】

各年度5月1日現在



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

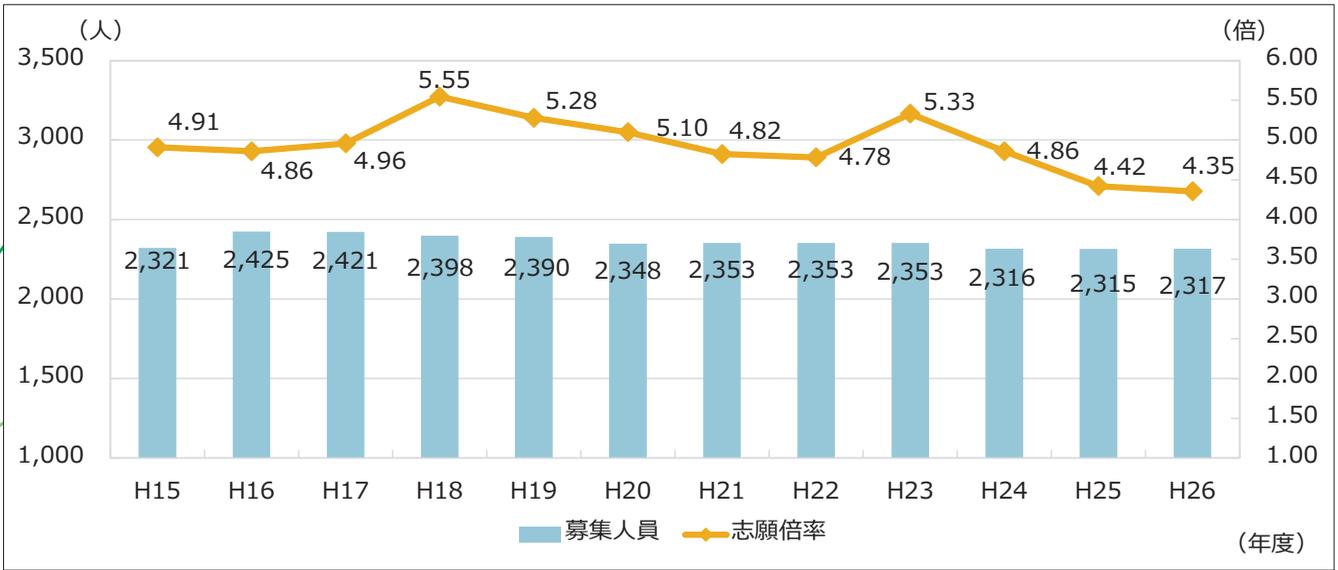
5.学部一般選抜志願状況

5-1.学部一般選抜志願状況（推移）

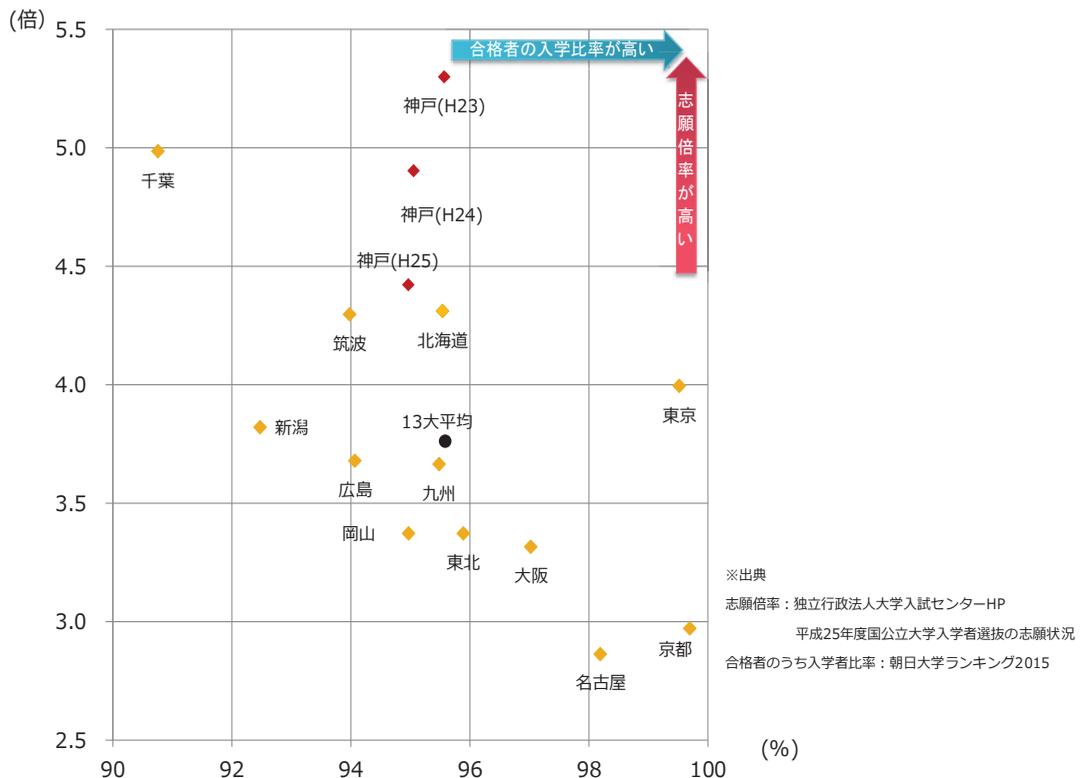
神戸大学の学部一般選抜における志願倍率は毎年度4倍以上を確保している。

◆神戸大学◆

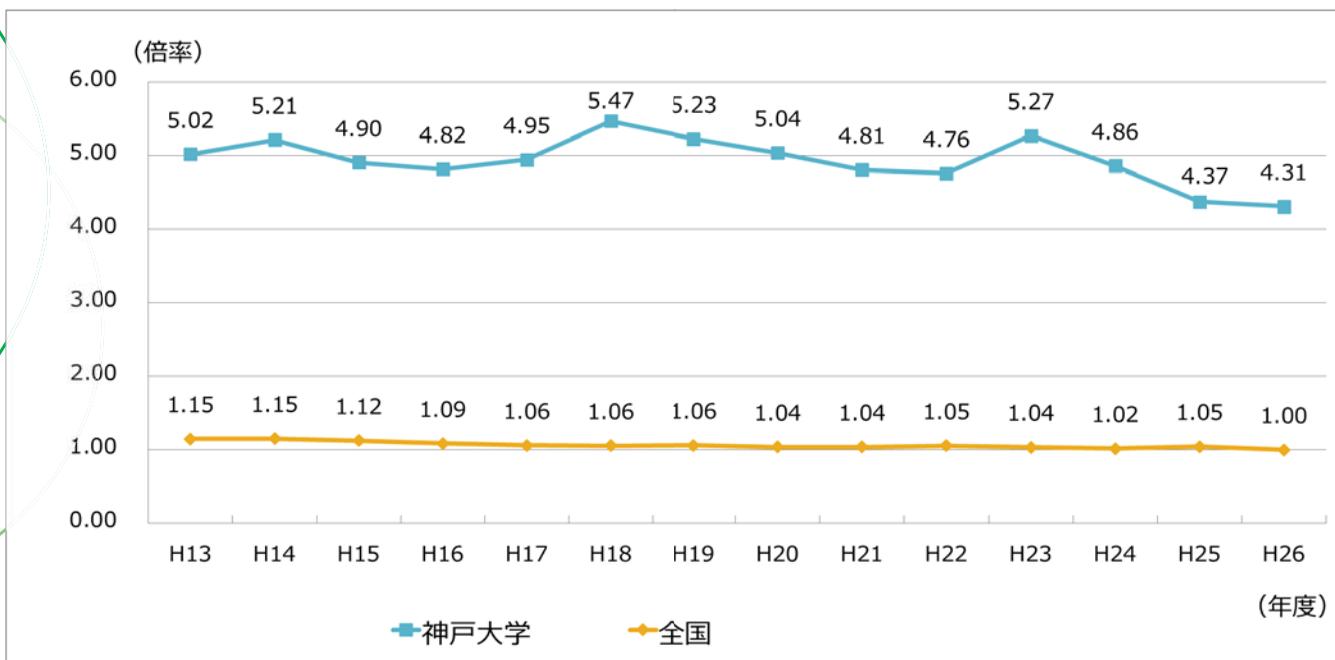
各年度5月1日現在



5-2.大規模13大学の志願倍率および合格者のうちの入学者比率分布図（平成25年度入試）



5-3.入学定員に対する志願者数の比率（推移）

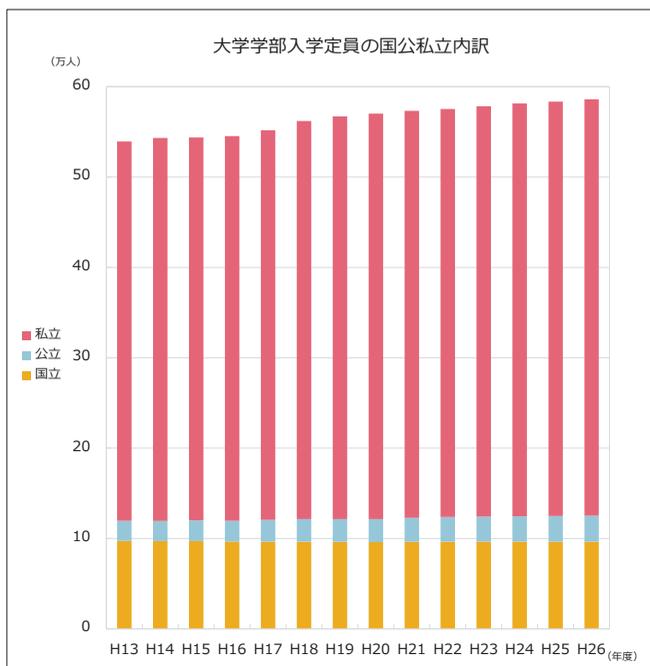
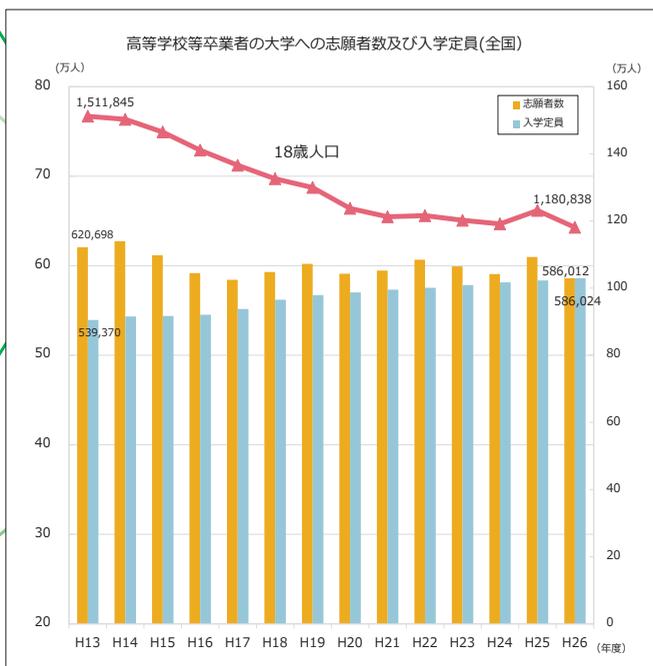


計算方法：志願者数÷入学定員（いずれも編入学を除く）

神戸大学 志願者数：学部志願者数（一般選抜・推薦・AO入試等も含む、H13～26年度）

全国 志願者数：学校基本調査 高等学校（全日制・定時制・通信制）及び中等教育学校（後期課程）卒業者の大学への入学志願状況（H13～26年度）
 入学定員：全国大学一覧より作成（H13～26年度）

5-4. 【参考】全国の大学への志願者数及び入学定員



出典

志願者数：学校基本調査 高等学校（全日制・定時制・通信制）及び中等教育学校（後期課程）卒業者の大学への入学志願状況より作成

入学定員：全国大学一覧より作成

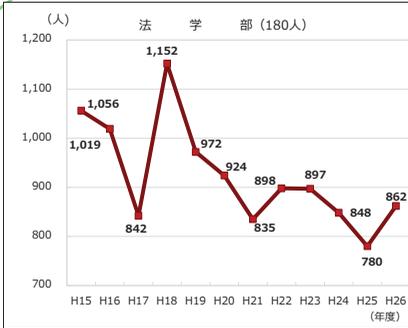
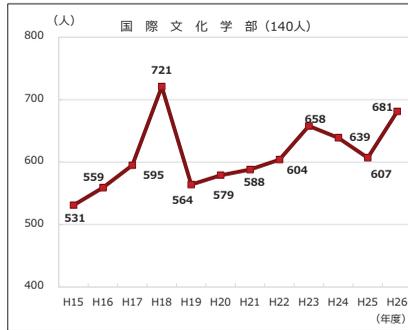
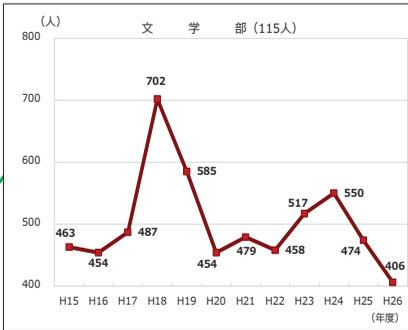
18歳人口：文部科学省ホームページデータより作成（3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数により算出）

5-5.学部毎の一般選抜状況

学部毎に分けてみると、経済・経営学部においては近年の一般選抜の後期日程の廃止により志願者数が減少している傾向が見られるものの、文系学部全体では、募集人員に対して安定した志願者数を確保できていると言える。

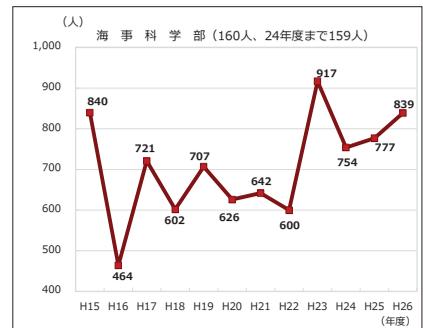
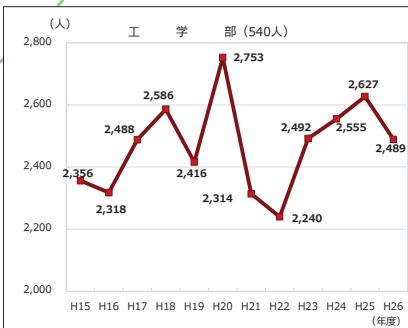
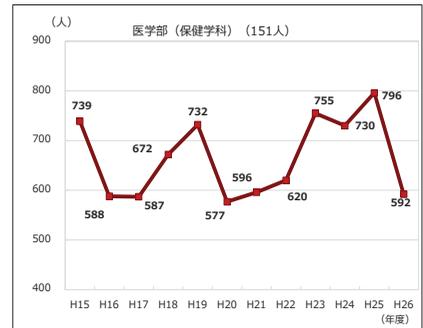
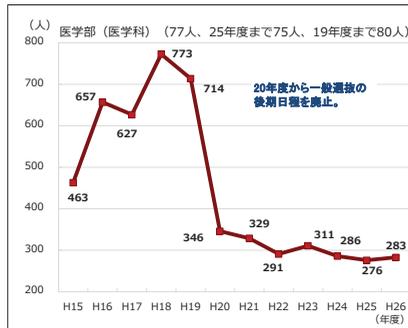
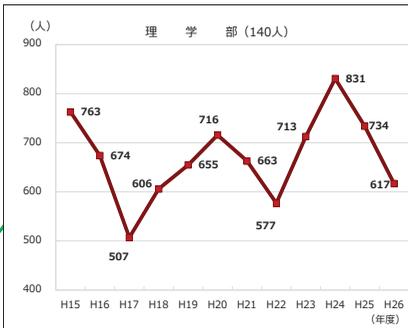
◆神戸大学（文系学部）◆

*学部名欄の（ ）書きは、募集人員を表す。



医学部医学科においては、平成20年度から一般選抜の後期日程を廃止したため志願者数が半減したが、その後は募集人員に対して安定した志願者数の確保ができています。また、平成25年度に学科改組を行った海事科学部においては、2年連続で志願者数が増加している。

◆神戸大学（理系学部）◆

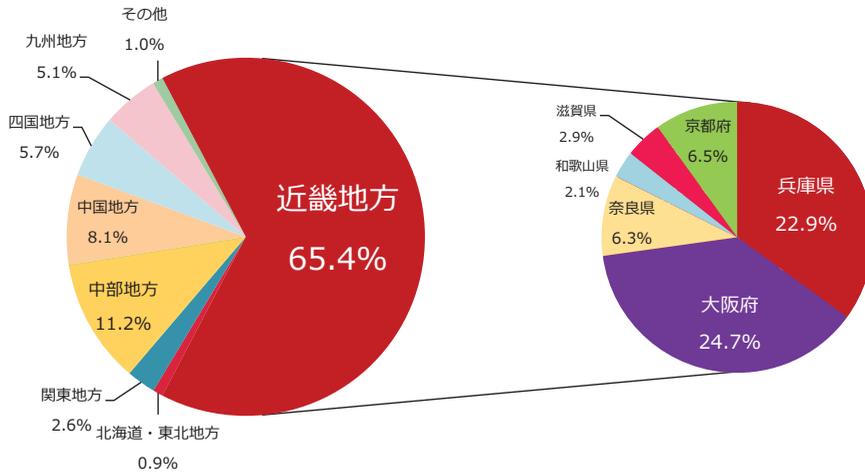


6.入学状況（学部）

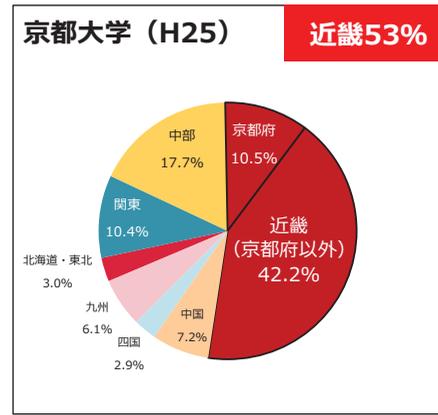
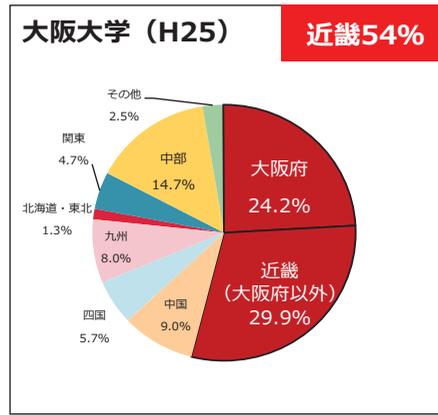
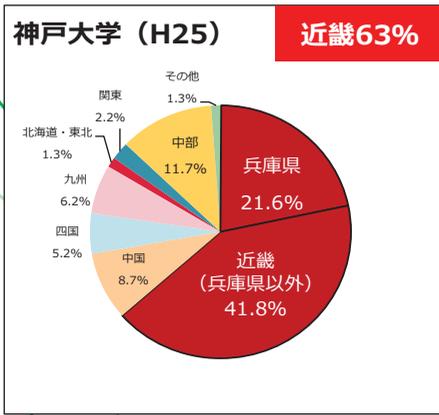
6-1.出身地域別入学者状況

神戸大学では所在県又は近隣地域の出身者がおよそ6割を占めている。他地域の大規模大学でもおおむね同様の傾向が見られる。

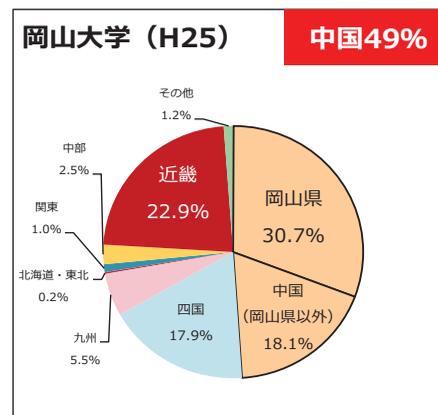
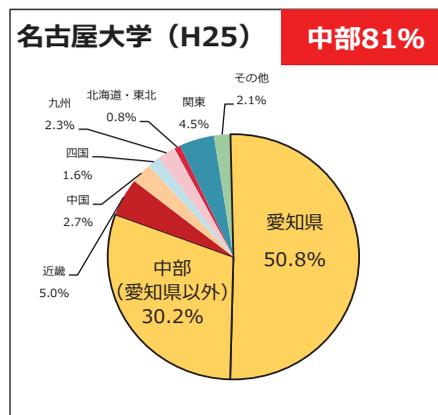
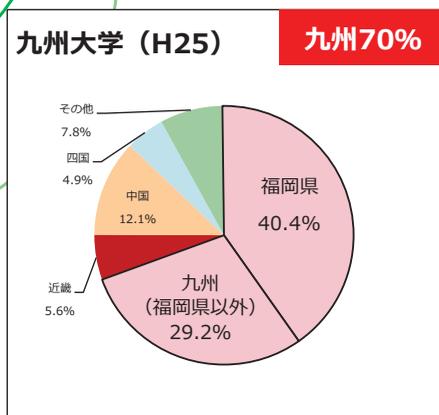
◆神戸大学◆（H26）



- 【北海道・東北地方】 北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 【関東地方】 群馬県、茨城県、千葉県、栃木県、埼玉県、東京都、神奈川県
- 【中部地方】 新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、岐阜県、愛知県、静岡県、三重県
- 【近畿地方】 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 【中国地方】 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 【九州地方】 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 【四国地方】 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 【その他】 外国の学校、検定等



※外国学校出身者のための選考を除く。



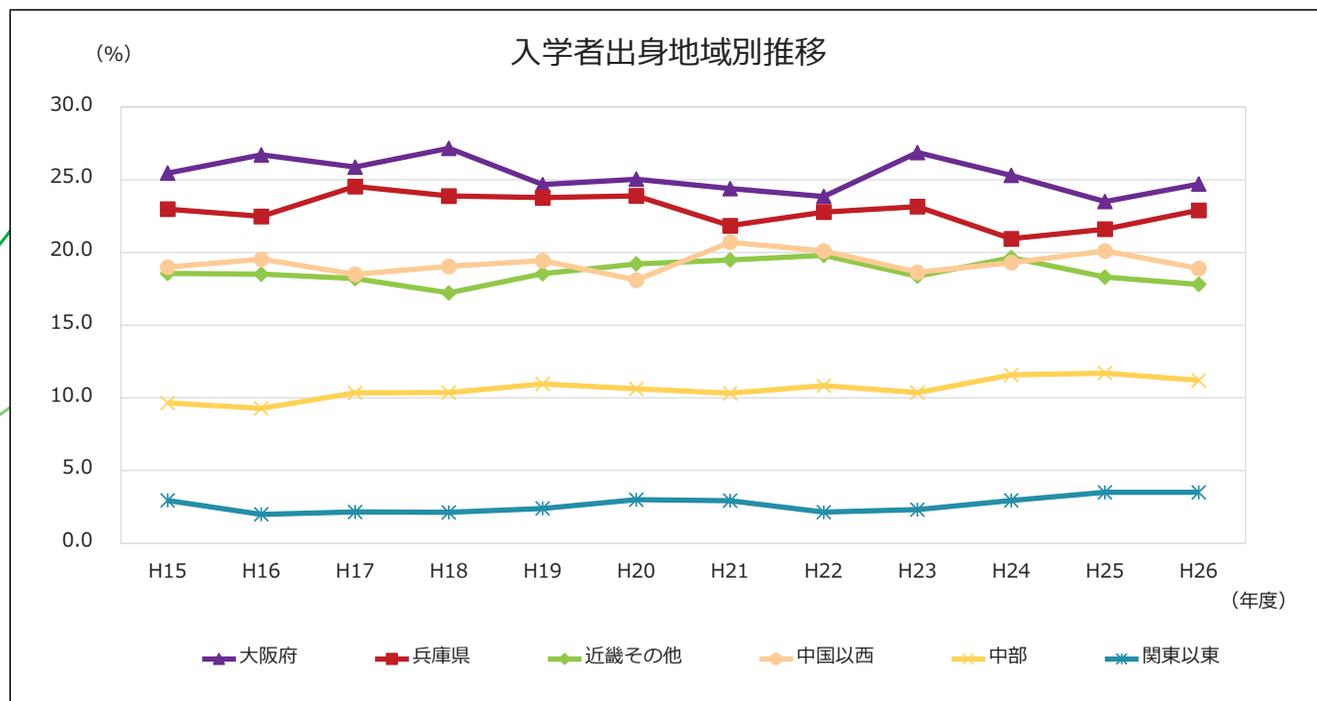
※「その他」には、北海道・東北地方、関東地方、中部地方を含む。

※出典：各大学HP公表資料より作成

6-2.出身地域別入学者状況の経年推移

入学者の大半が近畿地方以西の出身であるが、平成24年度より「神戸大学のミリヨク」シンポジウムを東京都で開催しており、関東以東の割合が若干ながら増加傾向にある。

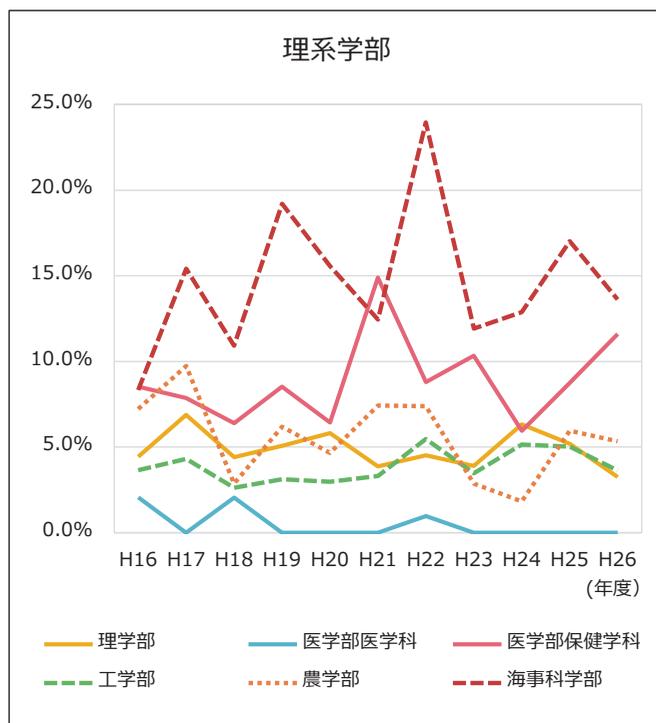
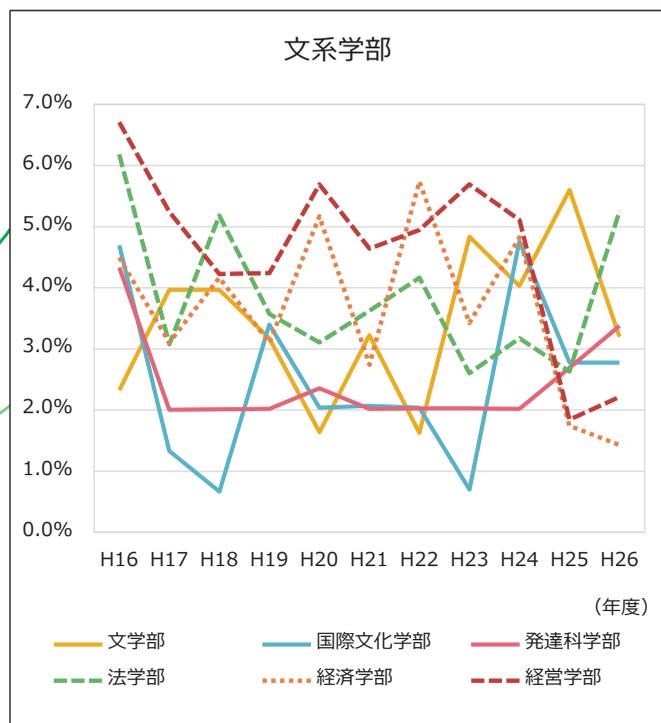
◆神戸大学◆



6-3.入学辞退率の推移

神戸大学全体では、医学部医学科を除き、理系学部の方が概ね入学辞退率は高い。特に 海事科学部では平成17年度以降毎年10%を超えている。

◆神戸大学◆



7.入学状況（研究科）

7-1.大学院入学状況

◆神戸大学◆

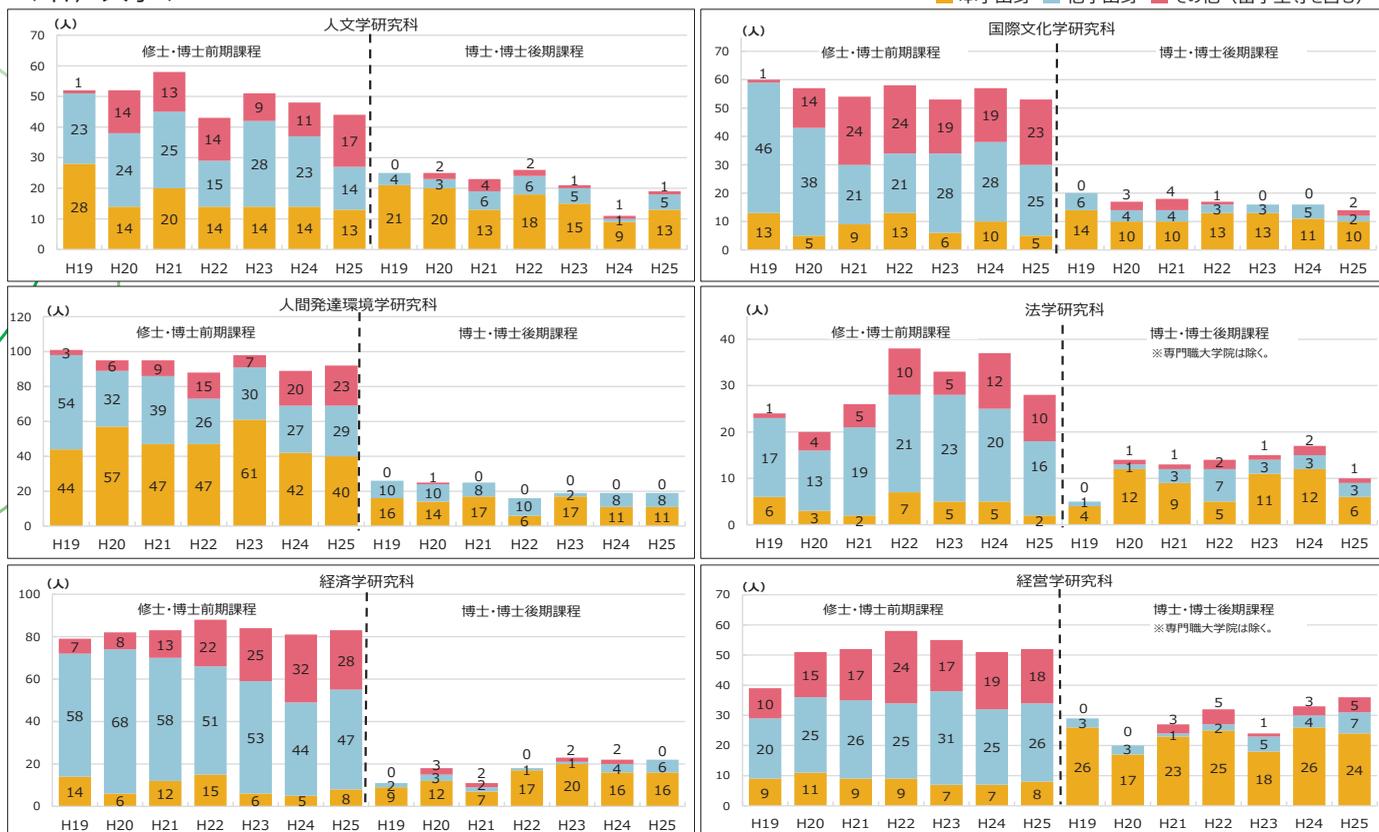


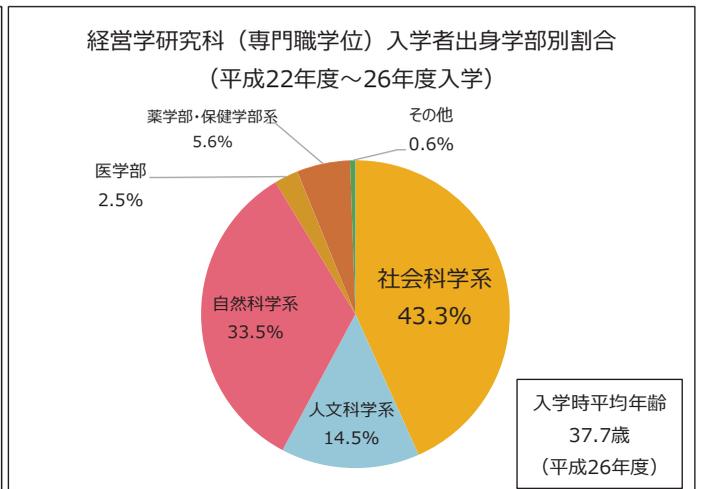
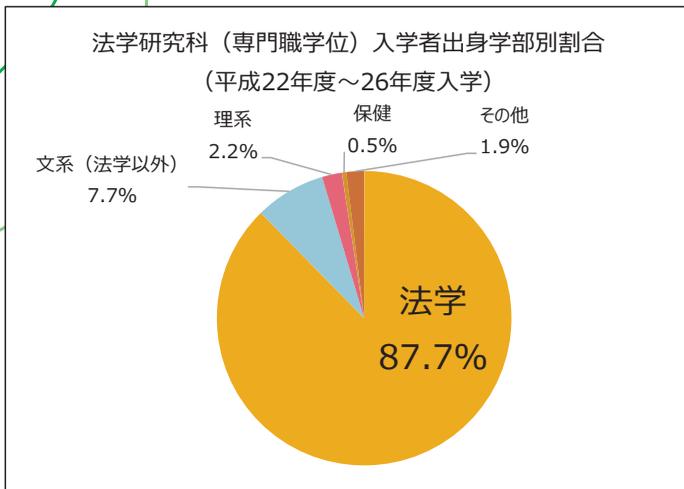
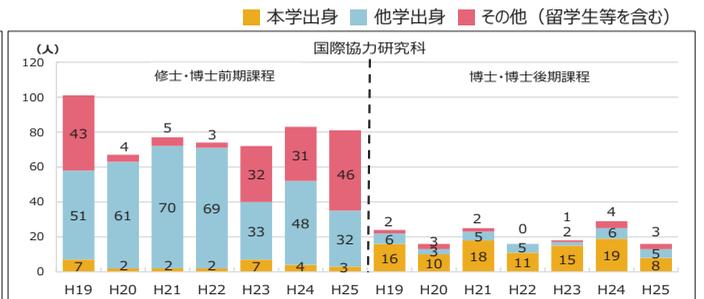
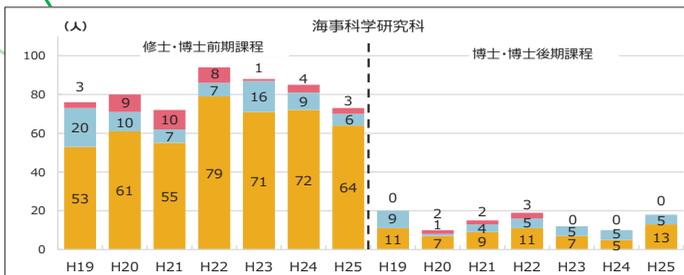
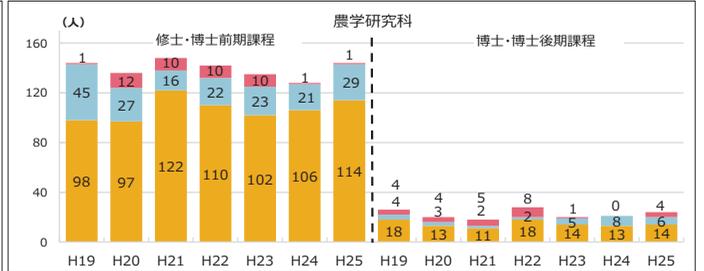
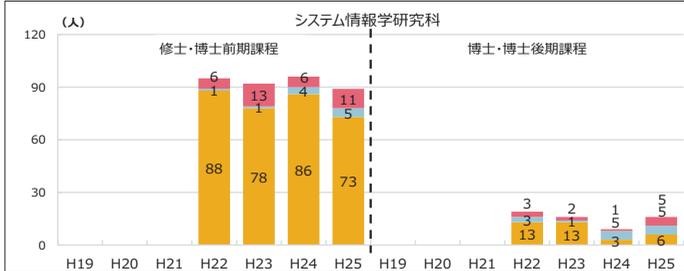
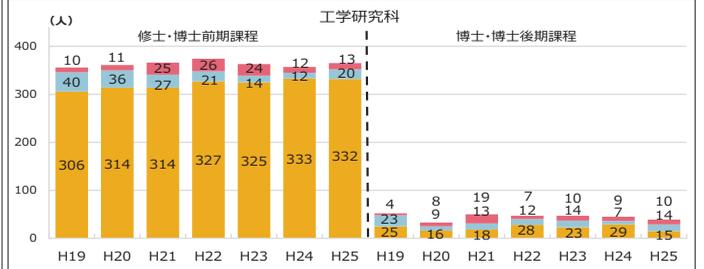
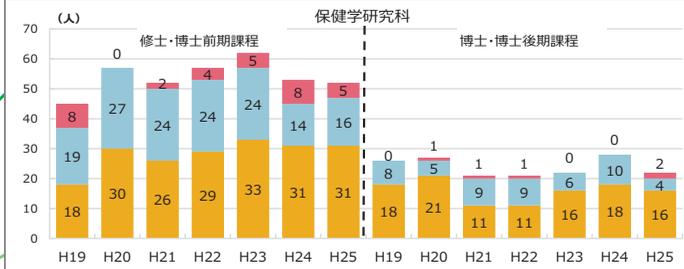
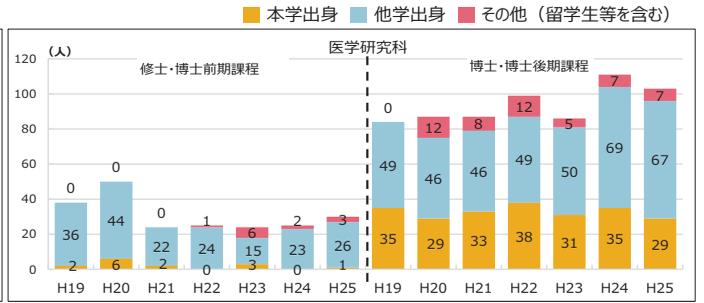
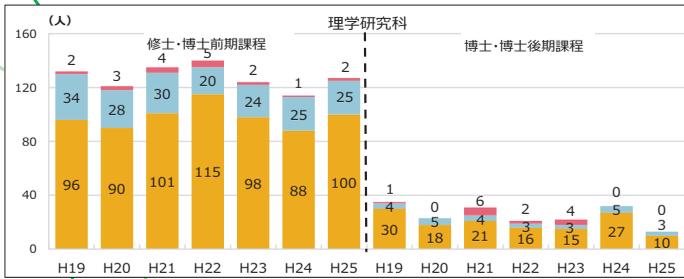
7-2.大学院入学状況（研究科別・出身大学別）

自然科学系の研究科においては博士前期課程に本学出身の学生がそのまま進学するケースが多いが、人文・社会系及び医学系の研究科においては多くの他学出身者が入学している傾向が見られる。

◆神戸大学◆

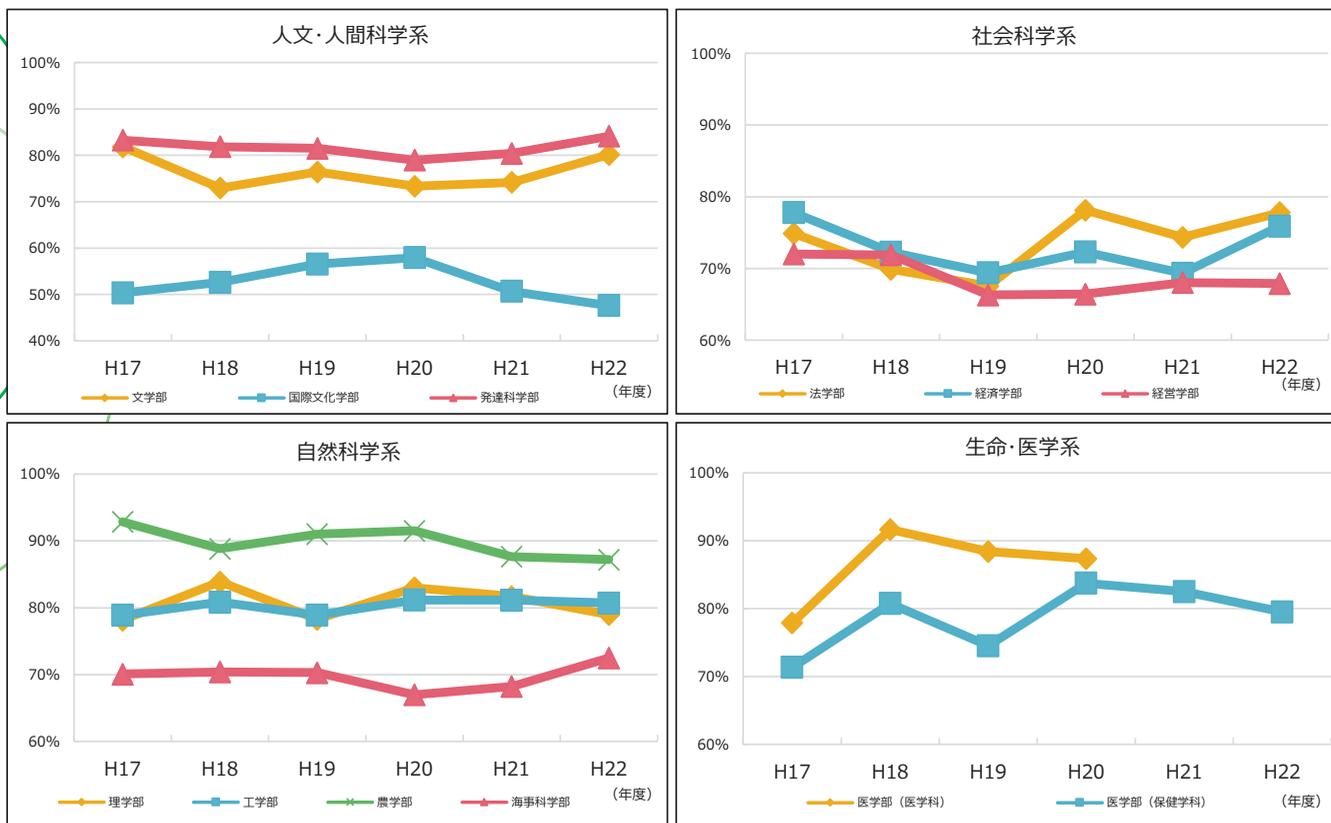
■ 本学出身 ■ 他学出身 ■ その他（留学生等を含む）





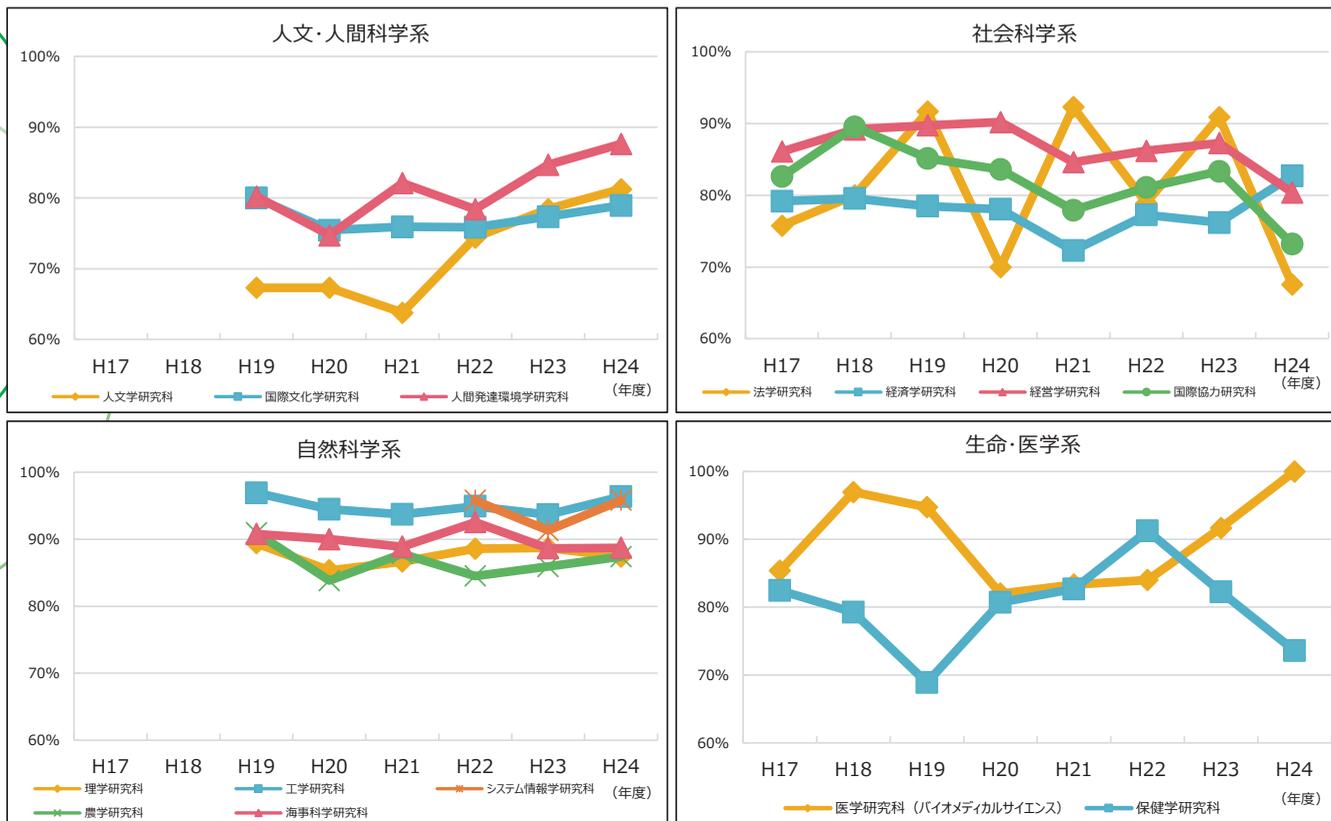
8.学位授与状況（授与率）

◆神戸大学◆学士課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



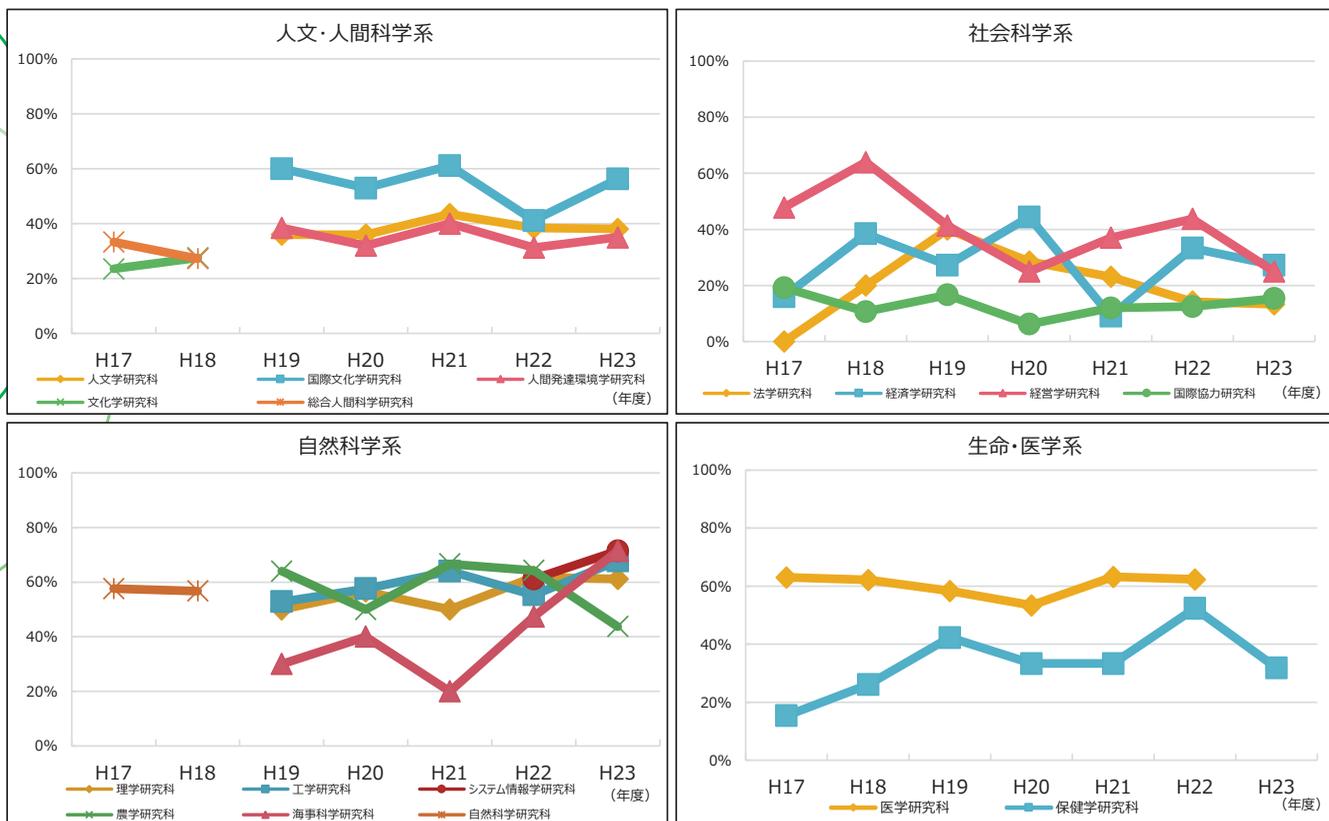
※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた値を示している。

◆神戸大学◆修士・博士前期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



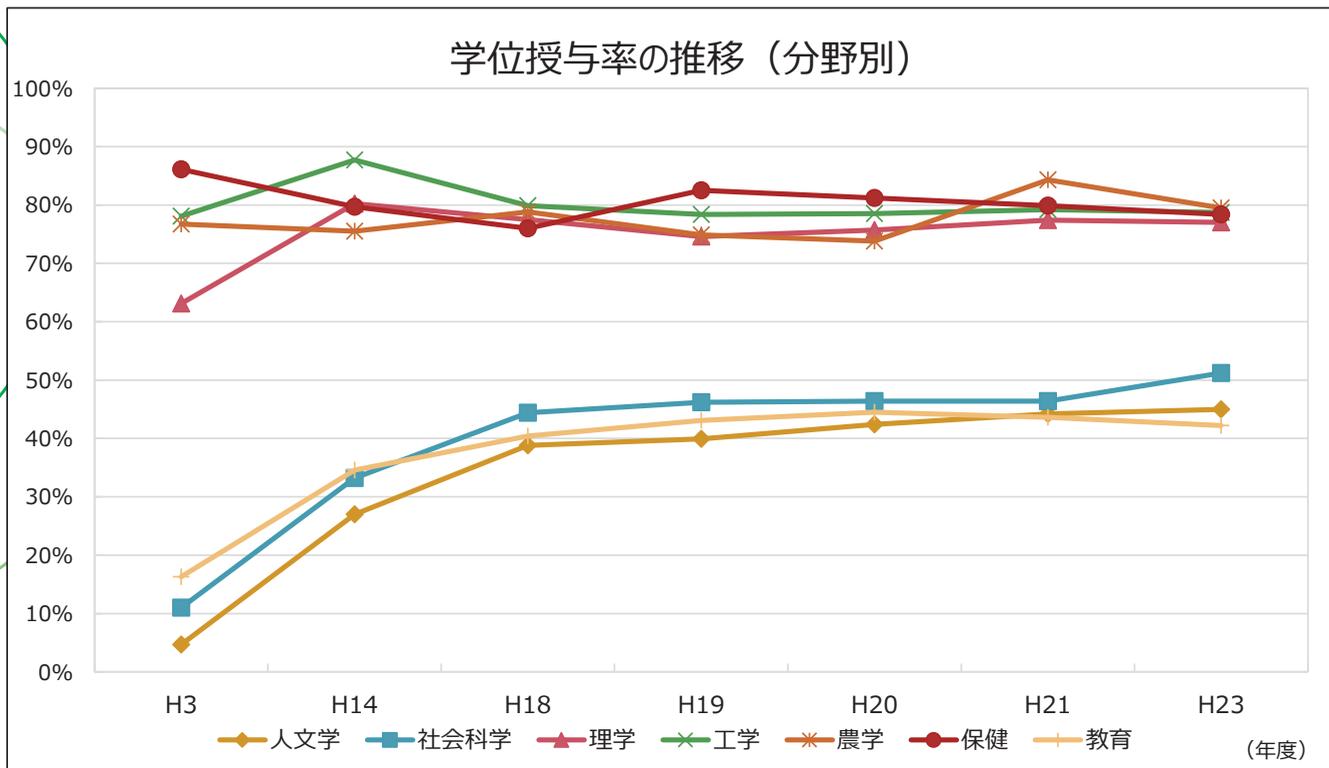
※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた値を示している。

◆神戸大学◆博士・博士後期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた値を示している。

◆全 国◆(当該年度の課程博士授与率)



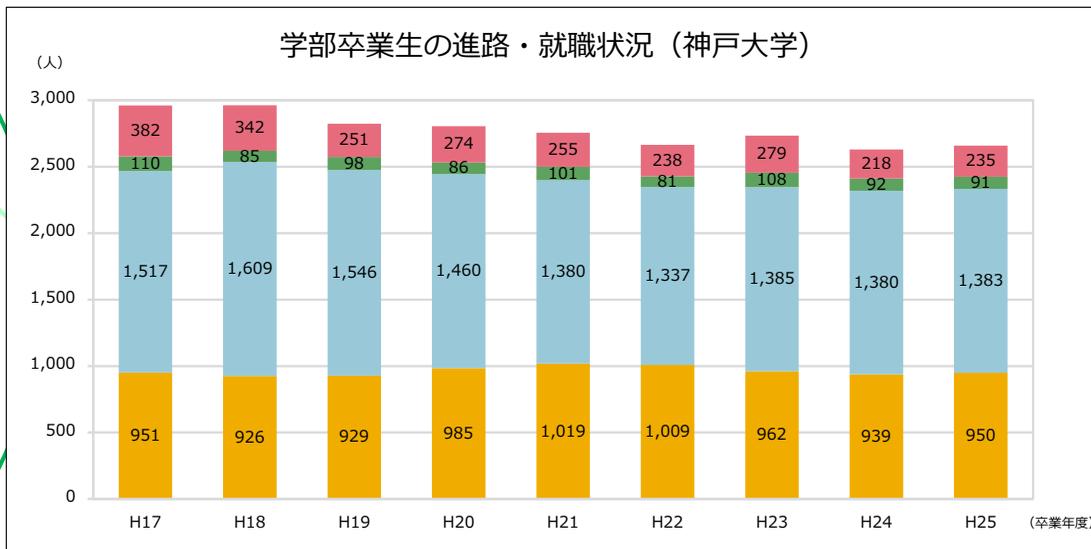
出典 文部科学省 「各大学院における「大学院教育振興施策要綱」に関する取組の調査結果について」より作成

※当該年度の課程博士授与数/当該年度から標準修業年限前の博士課程入学者数 (入学者のうち最終的に課程博士を授与される割合の推計値。)

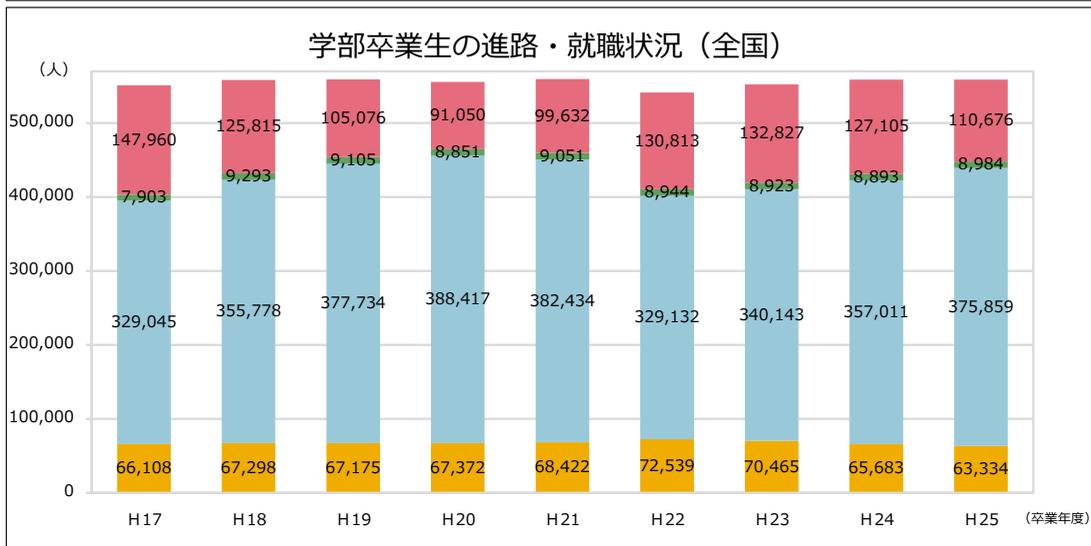
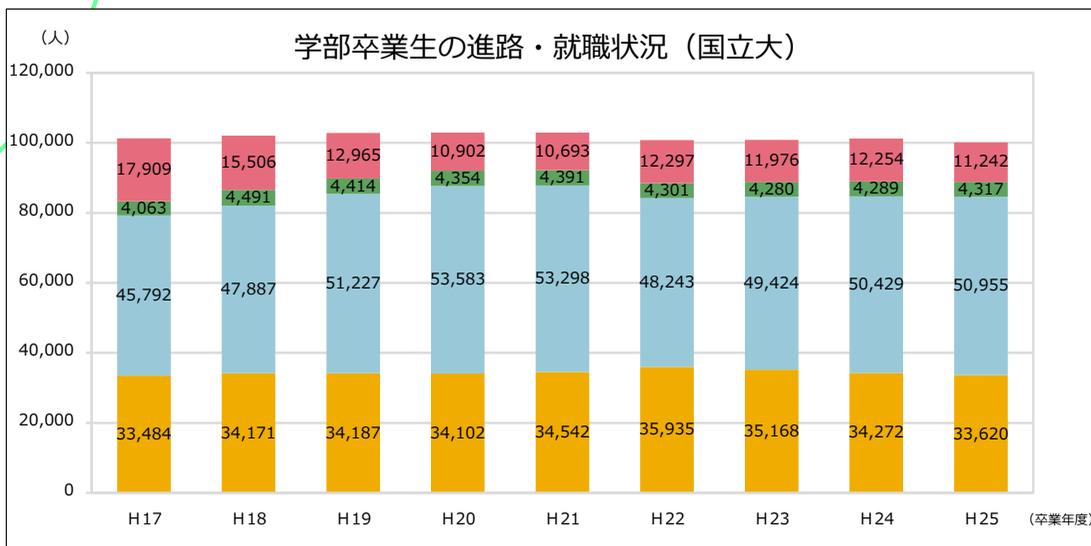
9.進路・就職状況

9-1.学部卒業生の進路・就職状況

■進学者 ■就職者 ■臨床研修医 ■その他



※夜間主コース卒業生についても計上



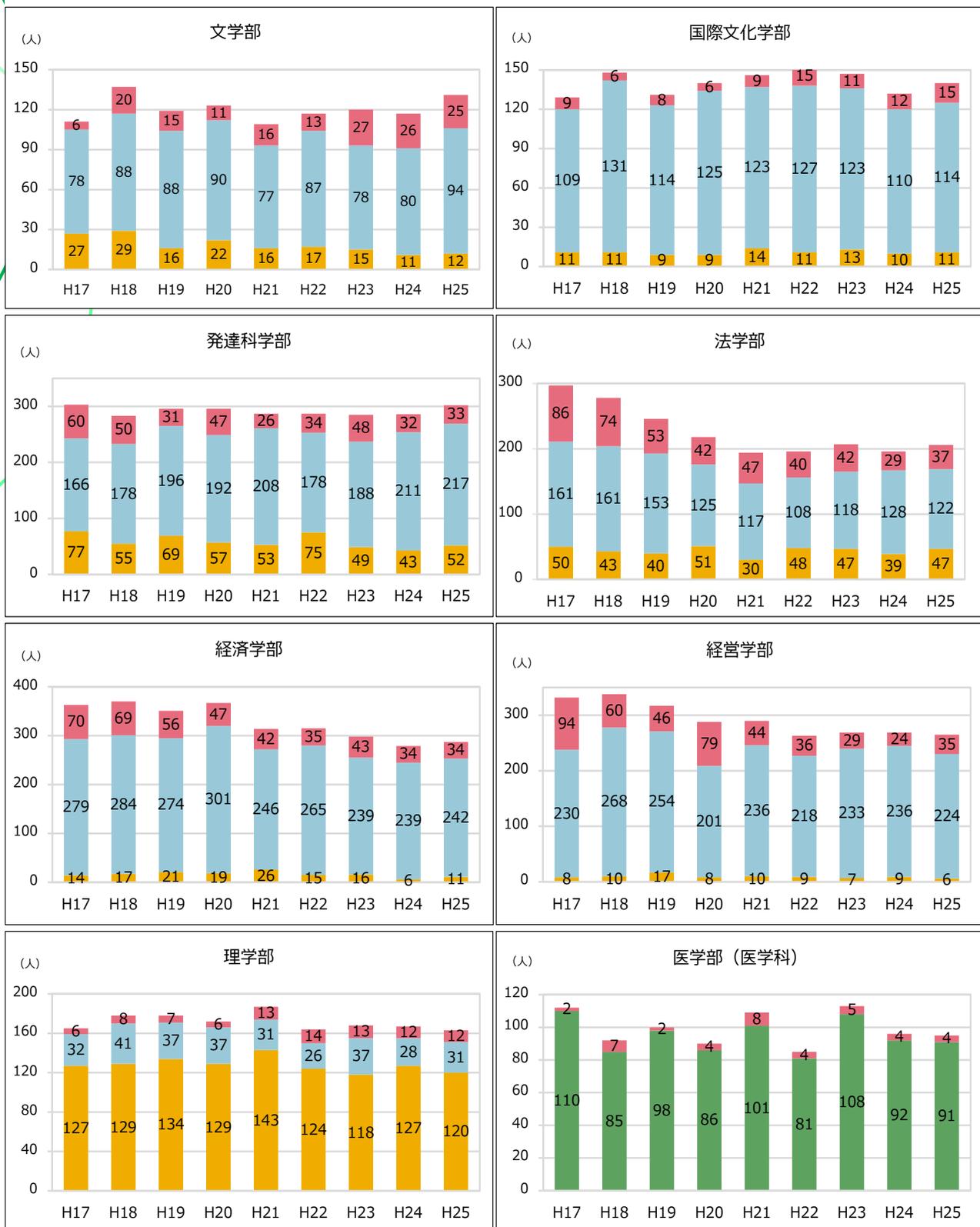
出典：文部科学省 学校基本調査より作成

9-2.学部卒業生の進路・就職状況【学部別】

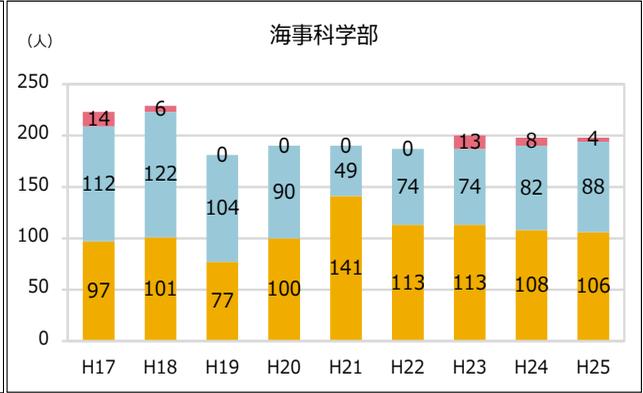
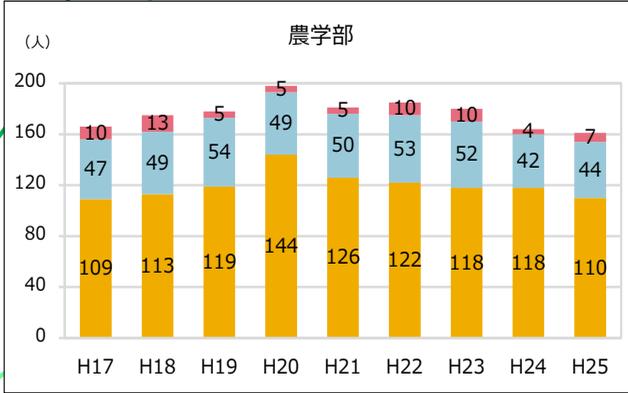
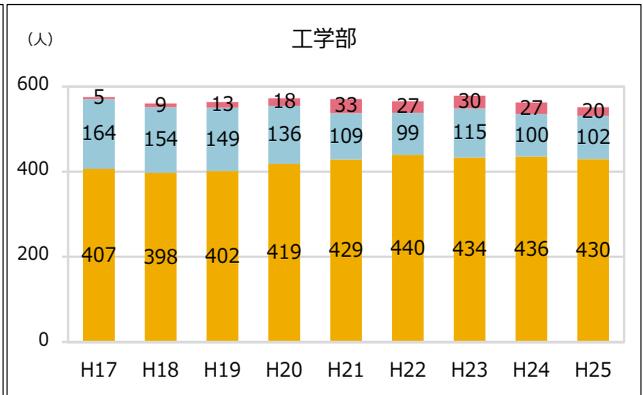
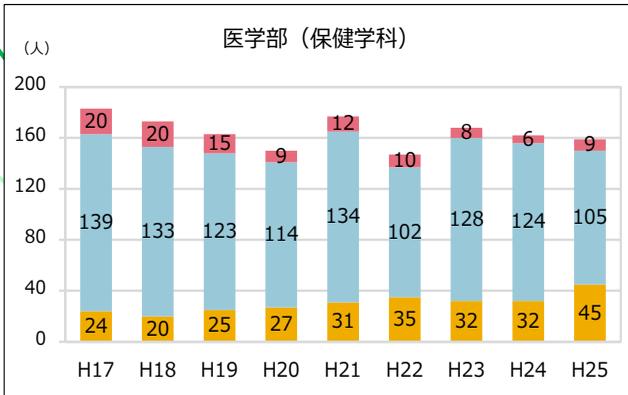
学部では、文系においては就職する学生が多く、理系においては医学部や海事科学部を除き、進学する学生が多い。

◆神戸大学◆（学部・卒業年度）

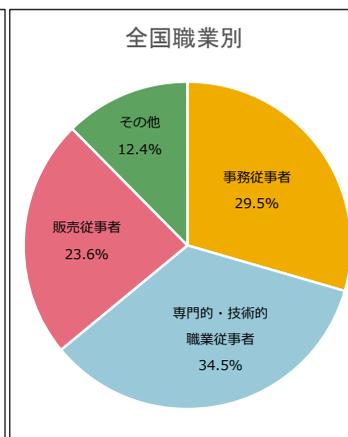
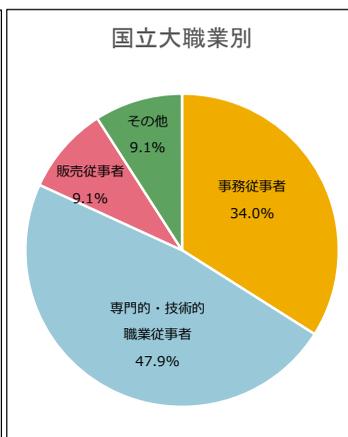
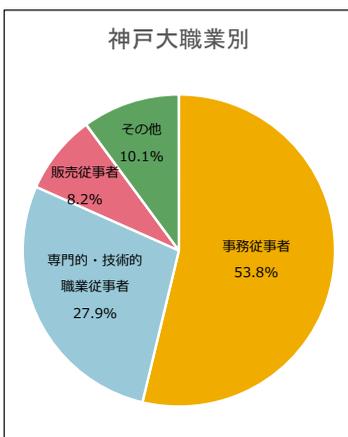
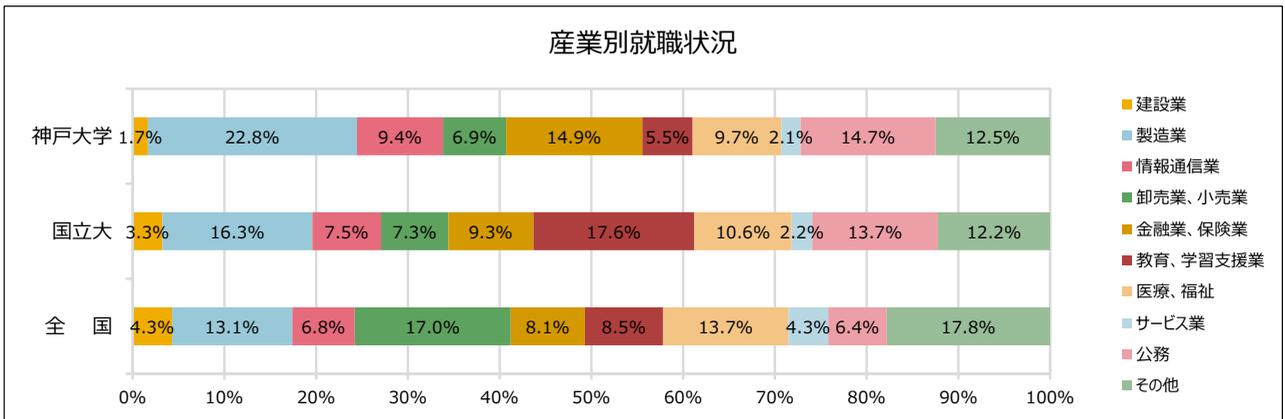
■進学者 ■就職者 ■臨床研修医 ■その他



■進学者 ■就職者 ■臨床研修医 ■その他



9-3.学部卒業生の産業別・職業別就職状況



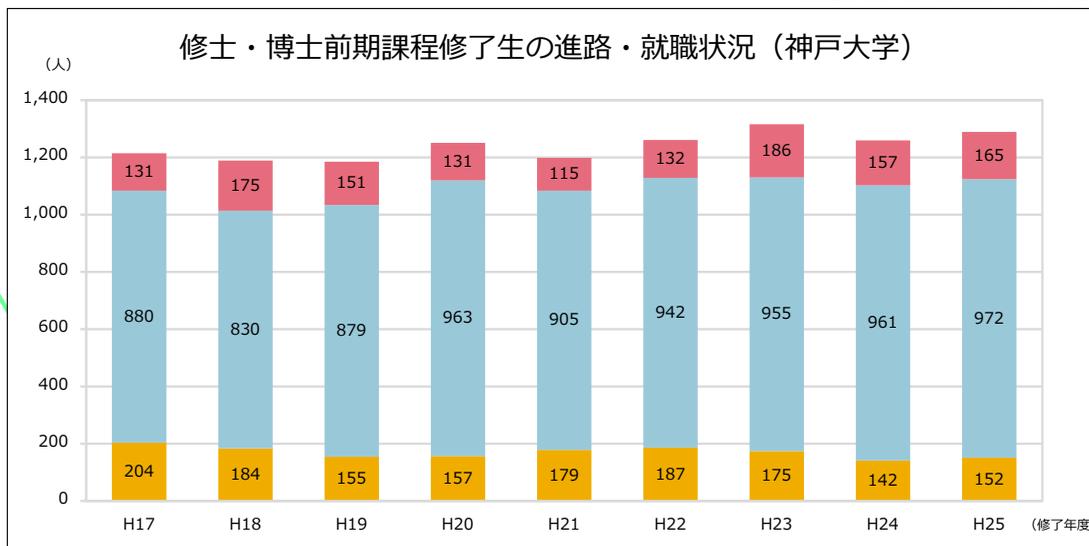
出典：
神戸大・国立大については、大学基本情報から作成。
全国については、文部科学省「学校基本調査」から作成。

※H24年度調査（H23年度卒業生対象）における統計に基づく。

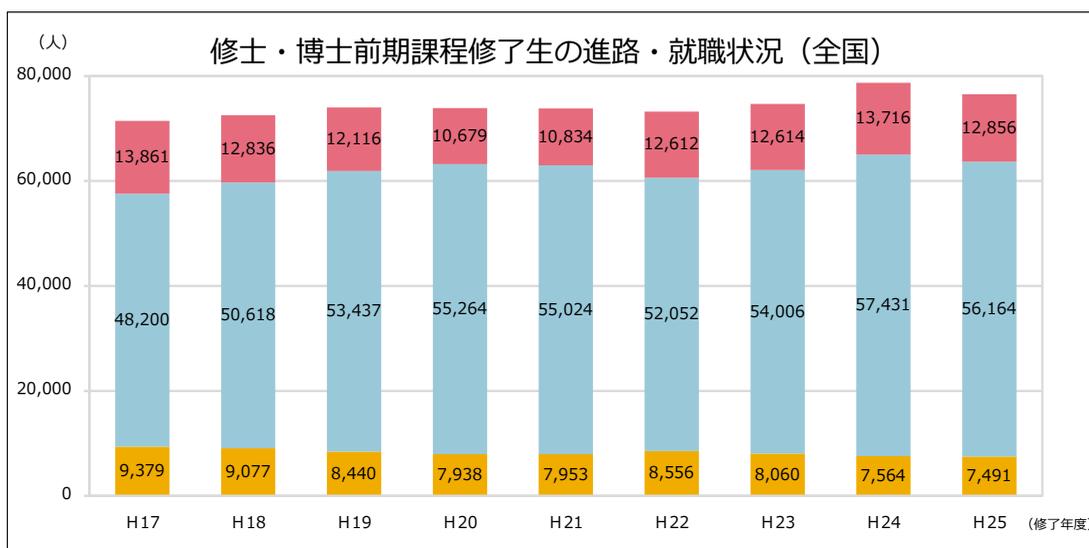
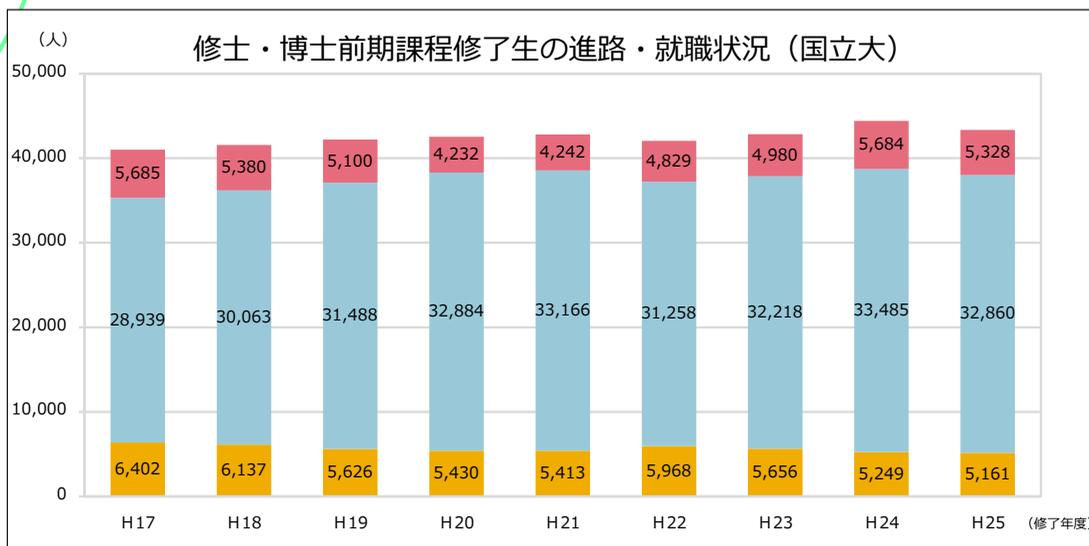
注：
四捨五入により小数第一位までの数値を出しているため、合計が100%にならないものもある。

9-4.研究科修了生の進路・就職状況

■進学者 ■就職者 ■その他



※文学研究科，総合人間科学研究科，自然科学研究科（いずれも平成19年度入試より募集停止），医学系研究科（平成20年度入試より募集停止）の修了生についても計上している。



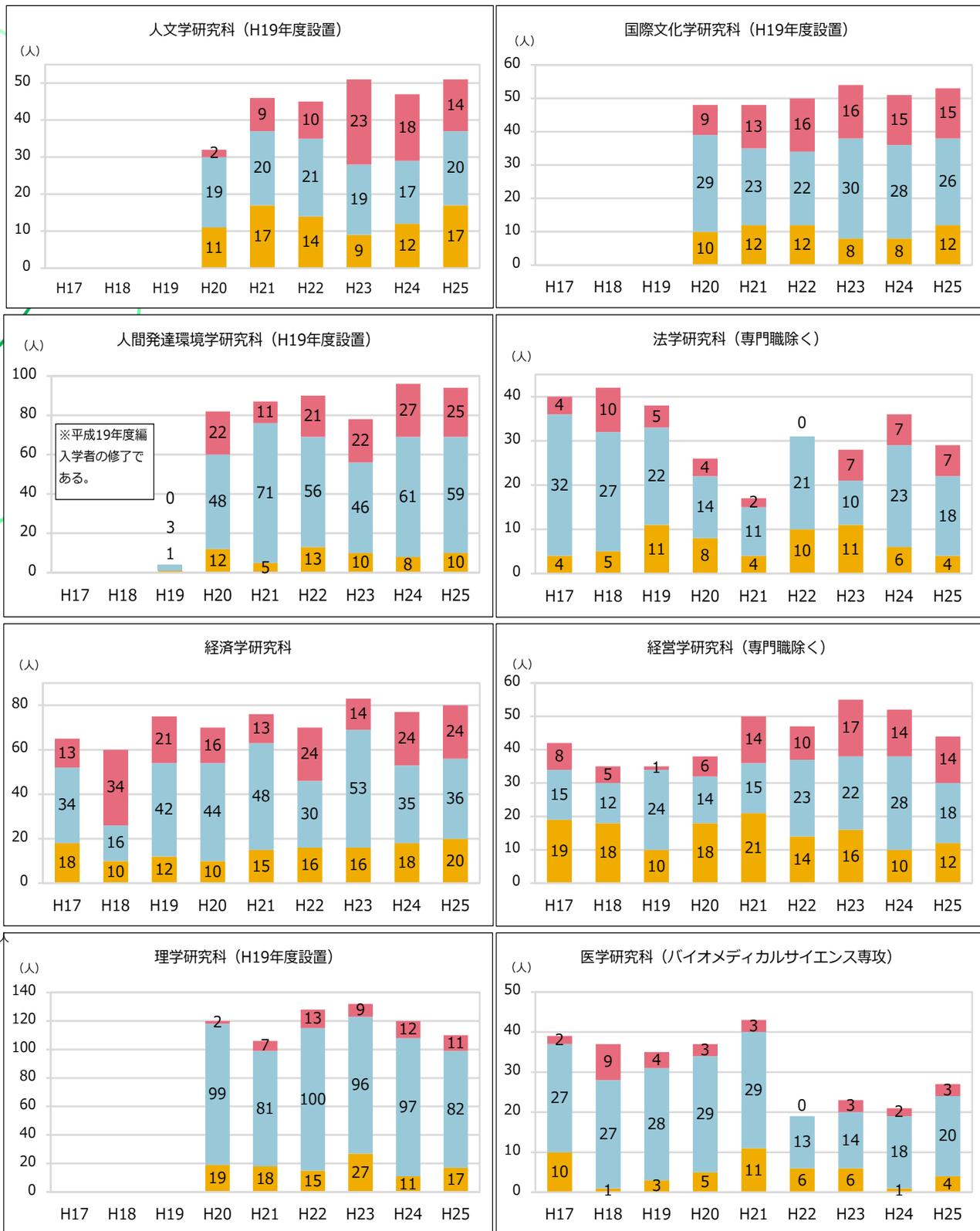
出典：文部科学省 学校基本調査より作成

9-5.研究科修了生の進路・就職状況【研究科別】

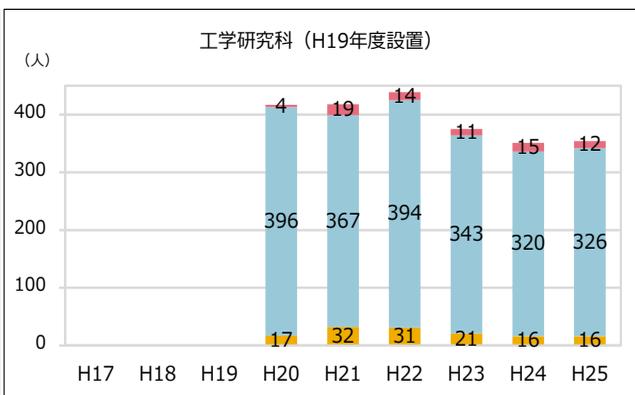
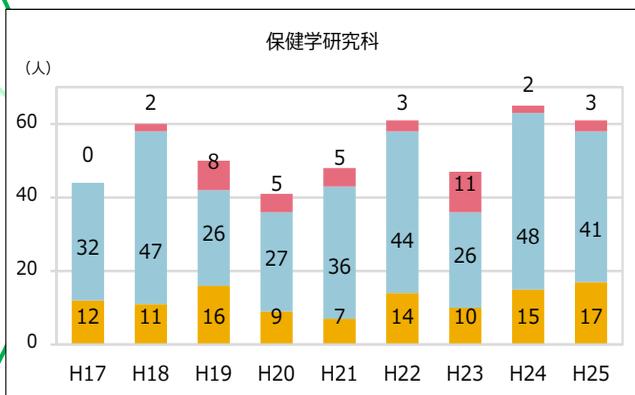
修士・博士前期課程では、文系において進学する学生の割合が比較的高く、学部と逆の傾向が見られる。

◆神戸大学◆（修士・博士前期課程 修了年度）

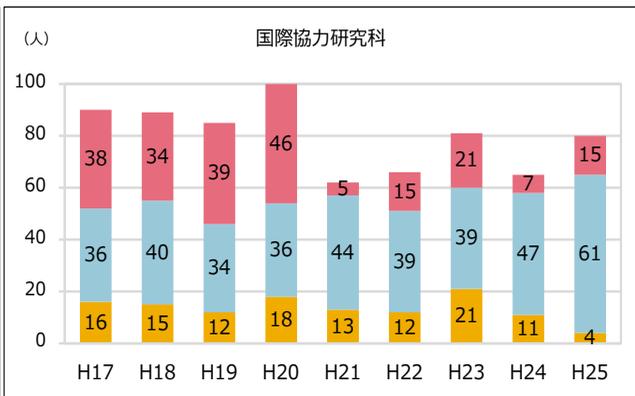
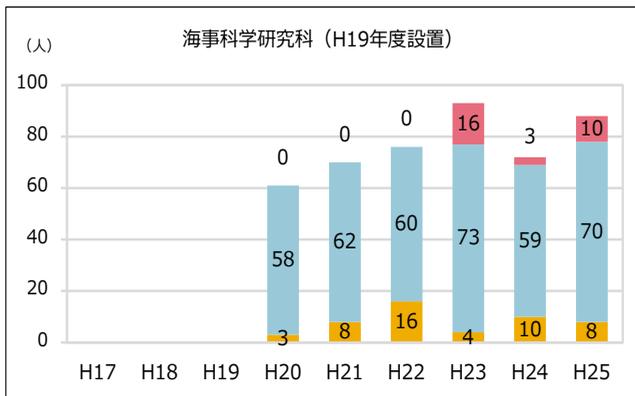
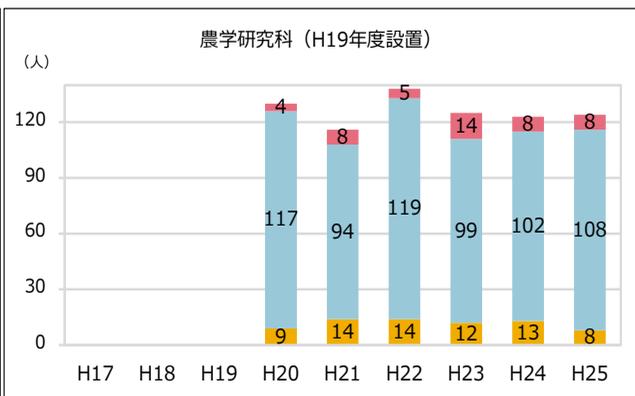
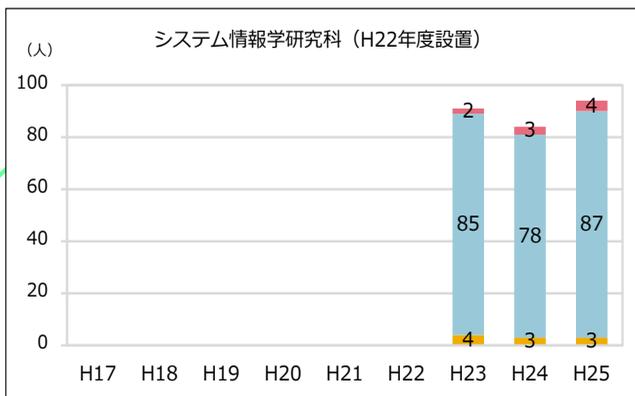
■進学者 ■就職者 ■その他



■進学者 ■就職者 ■その他



※保健学研究科の修了生には、医学系研究科保健学専攻(平成20年度入試より募集停止)の修了生も含む。



※「その他」には、公務員試験受験者、司法試験・公認会計士等の資格試験等受験者、専門学校入学者、海外語学研修生、研究生等を含む。

10.資格試験合格状況

10-1.司法試験合格状況

○合格者数推移（上位20大学）

順位	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	大学名	合格者										
1	東京大	216	東京大	201	東京大	210	中央大	202	慶應義塾大	201	早稲田大	172
2	中央大	162	中央大	189	中央大	176	東京大	194	東京大	197	中央大	164
3	慶應義塾大	147	慶應義塾大	179	京都大	172	慶應義塾大	186	早稲田大	184	東京大	158
4	京都大	145	京都大	135	慶應義塾大	164	早稲田大	155	中央大	177	慶應義塾大	150
5	早稲田大	124	早稲田大	130	早稲田大	138	京都大	152	京都大	129	京都大	130
6	明治大	96	明治大	85	明治大	90	明治大	82	一橋大	67	一橋大	64
7	一橋大	83	大阪大	70	一橋大	82	一橋大	77	明治大	65	明治大	63
8	神戸大	73	一橋大	69	神戸大	69	大阪大	74	大阪大	51	大阪大	55
9	北海道大	63	北海道大	62	同志社大	65	神戸大	60	北海道大	50	神戸大	44
10	立命館大	60	東北大	58	東北大	54	北海道大	54	神戸大	46	東北大	42
11	大阪大	52	同志社大	55	大阪大	49	九州大	53	上智大	46	北海道大	41
12	九州大	46	神戸大	49	北海道大	48	同志社大	44	同志社大	42	九州大	37
13	同志社大	45	名古屋大	49	名古屋大	43	名古屋大	44	名古屋大	40	立命館大	33
14	上智大	40	立命館大	47	九州大	42	立命館大	43	立命館大	40	上智大	31
15	名古屋大	40	九州大	46	立命館大	40	首都大東京	40	九州大	39	名古屋大	30
16	関西学院大	37	関西学院大	37	上智大	39	上智大	38	首都大東京	39	千葉大	26
17	関西大	35	上智大	33	首都大東京	38	東北大	38	東北大	39	同志社大	26
18	首都大東京	34	関西大	32	関西大	35	関西学院大	27	大阪市立大	35	首都大東京	22
19	東北大	30	大阪市立大	31	法政大	31	関西大	22	関西学院大	34	日本大	22
20	立教大	25	千葉大	30	大阪市立大	30	日本大	22	法政大	30	法政大	21

※出典：法務省 「新司法試験の結果について」より作成

注) このランキングは法科大学院卒業生のみを対象とし、予備試験合格者については含めていない。

○合格率推移（上位20大学）

順位	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	大学名	割合										
1	一橋大	62.9%	慶應義塾大	50.4%	一橋大	57.7%	一橋大	57.0%	慶應義塾大	56.8%	京都大	53.1%
2	東京大	55.5%	一橋大	50.0%	京都大	54.6%	京都大	54.3%	東京大	55.2%	東京大	52.0%
3	京都大	50.3%	東京大	48.9%	東京大	50.5%	慶應義塾大	53.6%	一橋大	54.5%	一橋大	47.1%
4	神戸大	49.0%	京都大	48.7%	慶應義塾大	48.0%	東京大	51.2%	京都大	52.4%	慶應義塾大	44.6%
5	慶應義塾大	48.8%	千葉大	43.5%	神戸大	46.6%	神戸大	45.8%	愛知大	42.9%	大阪大	40.1%
6	中央大	46.4%	北海道大	43.1%	中央大	39.2%	大阪大	41.8%	首都大東京	40.6%	早稲田大	35.2%
7	北海道大	43.4%	中央大	43.1%	早稲田大	38.2%	中央大	41.3%	中央大	40.0%	中央大	34.5%
8	首都大東京	40.4%	大阪大	38.9%	東北大	31.9%	首都大東京	39.6%	早稲田大	38.4%	千葉大	31.0%
9	大阪大	39.1%	東北大	36.5%	首都大東京	31.8%	愛知大	37.8%	千葉大	36.9%	神戸大	30.8%
10	名古屋大	37.5%	名古屋大	35.3%	名古屋大	31.7%	北海道大	34.0%	神戸大	36.8%	東北大	26.4%
11	早稲田大	33.5%	神戸大	34.0%	北海道大	31.6%	早稲田大	32.8%	大阪大	36.4%	愛知大	25.9%
12	明治大	33.3%	早稲田大	32.7%	大阪大	31.5%	名古屋大	32.6%	名古屋大	33.3%	創価大	25.7%
13	上智大	32.6%	九州大	31.8%	大阪市立大	30.0%	千葉大	31.8%	北海道大	33.3%	北海道大	25.5%
14	九州大	31.0%	大阪市立大	31.5%	明治大	28.7%	九州大	26.2%	大阪市立大	33.0%	首都大東京	22.9%
15	立命館大	30.5%	明治大	29.7%	同志社大	27.0%	近畿大	24.3%	上智大	26.4%	九州大	22.8%
16	立教大	29.2%	同志社大	27.5%	九州大	26.3%	東北大	22.0%	創価大	25.0%	名古屋大	22.6%
17	東北大	27.8%	関西学院大	26.3%	上智大	25.0%	広島大	20.9%	岡山大	24.3%	上智大	19.6%
18	関西学院大	26.4%	上智大	26.1%	法政大	24.0%	上智大	20.8%	九州大	24.1%	横浜国立大	19.4%
19	同志社大	26.1%	立命館大	25.6%	関西大	23.5%	明治大	20.4%	東北大	22.5%	岡山大	18.1%
20	関西大	25.3%	関西大	25.4%	立命館大	23.4%	中京大	19.5%	同志社大	22.1%	大阪市立大	17.4%

※出典：法務省 「新司法試験の結果について」より作成

注) このランキングは法科大学院卒業生のみを対象とし、予備試験合格者については含めていない。

10-2.各種資格試験・採用試験合格状況

国家公務員総合職			国家公務員総合職（事務）			弁理士			公認会計士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	東京大	454	1 (1)	東京大	237	1 (1)	東京大	65	1	慶應義塾大	121
2 (2)	京都大	172	2 (2)	京都大	75	2 (2)	京都大	51	2	早稲田大	93
3	早稲田大	105	3	早稲田大	74	3 (3)	大阪大	38	3	中央大	77
4	慶應義塾大	91	4	慶應義塾大	70	4 (4)	東京工業大	35	4	明治大	68
5 (3)	東北大	74	5 (3)	東北大	38	5	早稲田大	28	5	同志社大	49
6 (4)	北海道大	70		一橋大	38	6 (5)	東北大	27	6 (1)	神戸大	36
7 (5)	大阪大	67	7 (5)	大阪大	34	6	東京理科大	27	7 (2)	東京大	33
8 (6)	九州大	62	8	中央大	26	8 (6)	北海道大	23	8	関西学院大	32
9	東京理科大	56	9 (6)	九州大	24	9	慶應義塾大	22	9 (3)	京都大	31
10 (7)	東京工業大	45	10	大阪市立大	21	10 (7)	九州大	17	10	青山学院大	26
16 (11)	神戸大	22	18 (10)	神戸大	9	16 (11)	神戸大	11		立命館大	26

技術士			一級建築士			医師国家試験			看護師		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格者
1	日本大	129	1	日本大	212	1	自治医科大	99.1%	1	順天堂大	205
2 (1)	京都大	116	2	東京理科大	130	2	名古屋市立大	98.7%	2	帝京大	152
3 (2)	北海道大	112	3	工学院大	102	3	日本大	98.3%	3	聖隷クリストファー大	151
4 (3)	九州大	107	4	芝浦工業大	96	4	埼玉医科大	98.0%	4	日本赤十字広島看護大	149
5	早稲田大	90	5	近畿大	90		産業医科大	98.0%	5	日本赤十字看護大	139
6 (4)	東京大	89	6	早稲田大	62		順天堂大	98.0%	6	中部大	130
7 (5)	東京工業大	81	7	東海大	60	7	福島県立医科大	96.6%	7	日本赤十字豊田看護大	128
8 (6)	大阪大	78	8	明治大	57	8	東京医科大	96.4%	8	埼玉県立大	119
9 (7)	東北大	76	9	法政大	55	9 (1)	筑波大	96.3%	9	熊本保健科学大	116
10	東京理科大	61	10 (1)	京都工芸繊維大	49	10	東京慈恵会医科大	95.8%		広島化学学園大ほか	116
12 (8)	山口大	57	12 (2)	神戸大	47	13 (2)	旭川医科大学	95.2%	63 (1)	千葉大	83
13 (9)	熊本大	56	13 (3)	千葉大	45		千葉大学	95.2%		名古屋大	83
14 (10)	岡山大	51	15 (4)	広島大	44	17 (4)	東京大学	94.4%	66 (3)	山口大	82
15 (11)	名古屋大	50	16 (5)	九州大	40	19 (5)	新潟大学	93.8%	69 (4)	大阪大	81
20 (15)	神戸大	42	17 (6)	京都大	39	39 (19)	神戸大	91.4%	85 (9)	神戸大	76

保健師			作業療法士			理学療法士			臨床検査技師		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1	順天堂大	214	1	帝京平成大	82	1	帝京平成大	157	1	熊本保健科学大	100
2	聖隷クリストファー大	167	2	国際医療福祉大 [保健医療]	65	2	国際医療福祉大 [保健医療]	99	2	岐阜医療科学大	98
3	埼玉県立大	161	3	東北文化学園大	52	3	北海道文教大	98	3	藤田保健衛生大	94
4	帝京大	159	4	首都大学東京	48	4	国際医療福祉大 [福岡保健医療]	95	4	帝京大	89
5	日本赤十字看護大	155	5	国際医療福祉大 [小田原保健医療]	46	5	帝京大	90	5	北里大	88
6	日本赤十字広島看護大	150		目白大	46	6	了徳寺大	87	6	文京学院大	84
7	日本赤十字豊田看護大	141	7	兵庫医療大	44	7	新潟医療福祉大	86	7	杏林大	83
8	中部大	130	8	次城県立医療大	43		目白大	86	8	神戸常盤大	73
9	熊本保健科学大	125		新潟医療福祉大	43	9	文京学院大	85	9	麻布大	66
10	九州看護福祉大ほか	124	10	熊本保健科学大	42	10	健康科学大	83	10	大東文化大	58
48 (1)	千葉大	96	23 (1)	広島大	30	52 (1)	広島大	33	13 (1)	岡山大	47
	名古屋大	96	40 (2)	神戸大	21	61 (2)	神戸大	23	16 (2)	鳥取大	41
62 (3)	三重大	89		名古屋大	21		京都大	23	17 (3)	名古屋大	40
66 (4)	金沢大	88	44 (4)	弘前大	20	63 (4)	名古屋大	22	18 (4)	神戸大	39
93 (15)	神戸大	80	46 (5)	群馬大	19	65 (5)	鹿児島大	21		山口大	39

※合格者数は（人）

カッコ内は国立大学内の順位

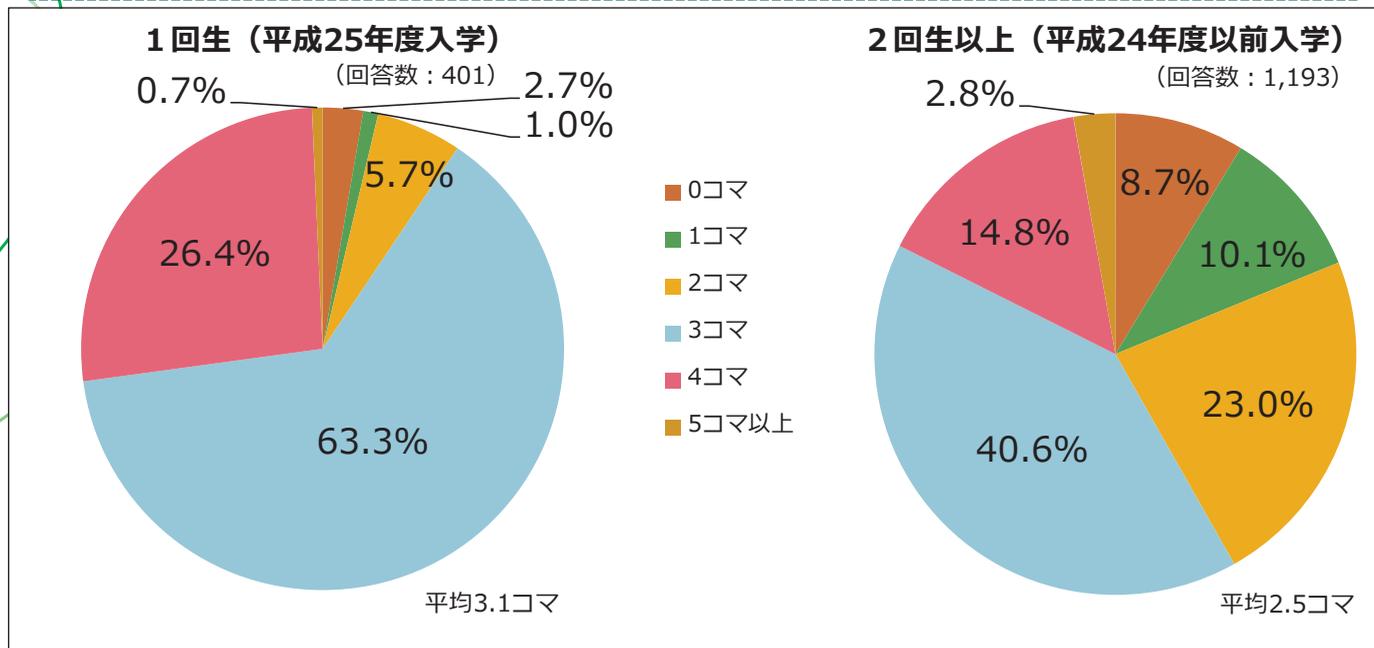
出典：公認会計士については、公認会計士三田会「公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表」より作成。

その他の項目については、朝日新聞出版「大学ランキング2015」より作成。

11. 学生生活状況

11-1. 学部学生平日 1 日当たりの授業時間 (1 コマ90分)

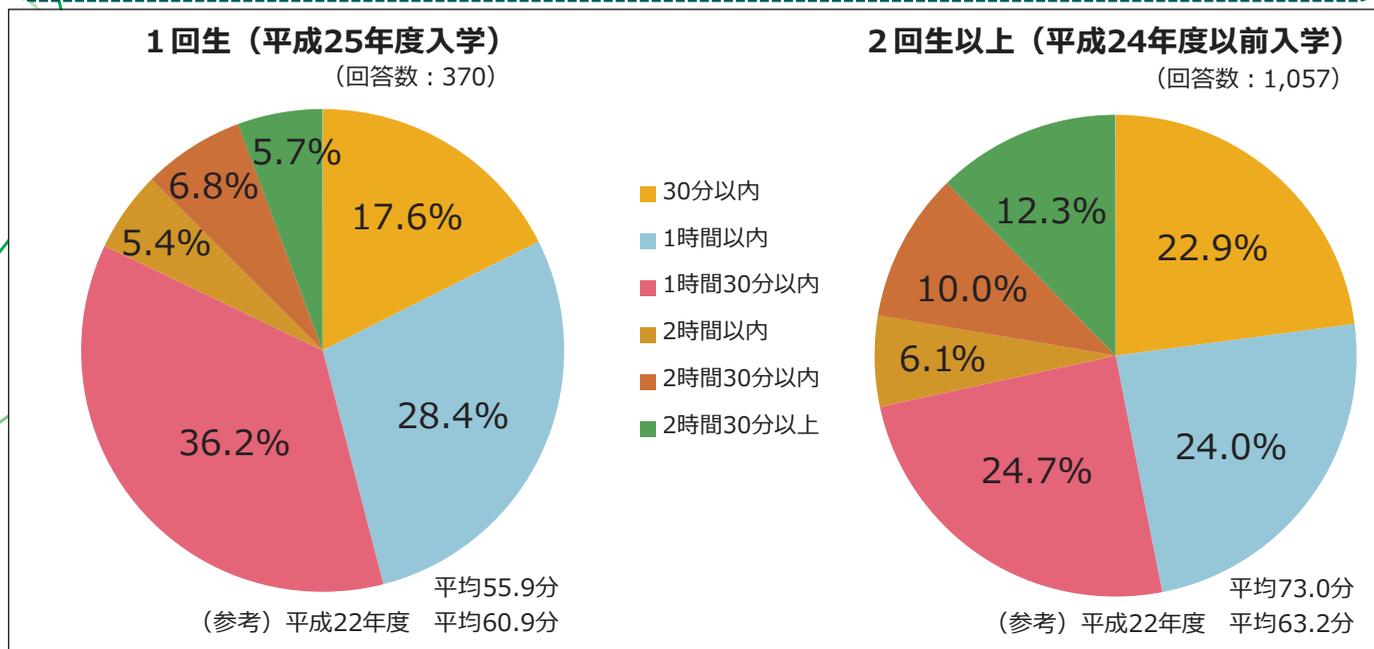
1 回生と 2 回生以上の双方において「1 日当たり 3 コマ」と回答した学生が最も多い。2 回生以上になると、「1 日当たり 2 コマ以下」または「1 日当たり 5 コマ以上」と回答した学生の割合が、1 回生と比べて 4 倍程度になっており、学生による差がより明確に現れている。



注：四捨五入により小数第一位までの数値を出しているため、合計が100%とまらないデータも存在する。
出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

11-2. 学部学生平日 1 日当たりの自主学習時間

1 回生と 2 回生以上の双方において「1 時間30分以内」の回答比率が最も多い。また、2 回生以上の学生の方が、「30分以内」と回答または 1 時間30分以上勉強すると回答した学生の割合が 1 回生よりもやや大きく、分散化していると言える。



出典：平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

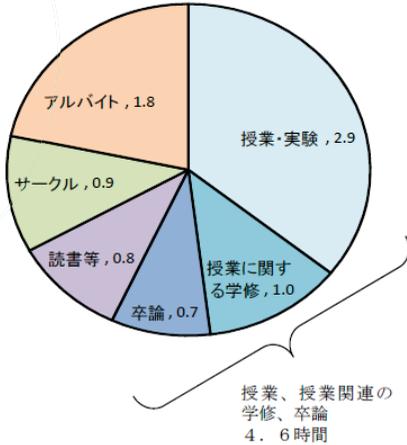
11-3. 【参考】新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

平成24年8月28日 中央教育審議会 答申より

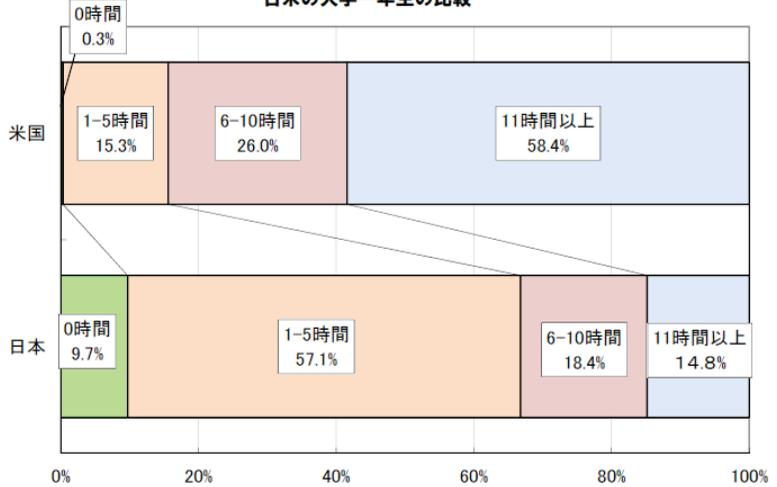
学生の学修時間の現状

我が国の学生の学修時間(授業、授業関連の学修、卒論)は一日4.6時間とのデータもある。
これは例えばアメリカの大学生と比較しても短い。

学生の活動時間の分布(計 8.2時間)



授業に関連する学修の時間(1週間あたり)
日米の大学一年生の比較



出典:東京大学 大学経営政策研究センター(CRUMP)『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人 <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
NSSE(The National Survey of Student Engagement)

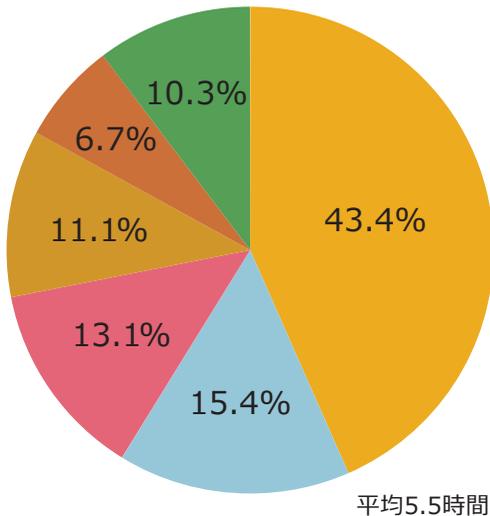
11-4.学部学生の1週間当たりの就業時間

2回生以上になると就業の時間が増える傾向にある。特に15時間以上の割合をみると、2倍程度に増加しており、自宅での学習時間に影響が出ている可能性も考えられる。

○神戸大学学部学生の入学年度別就業時間

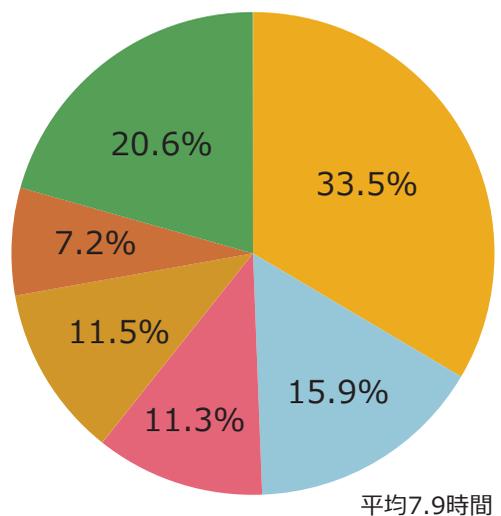
1回生(平成25年度入学)

(回答数: 495)



2回生以上(平成24年度以前入学)

(回答数: 1,444)

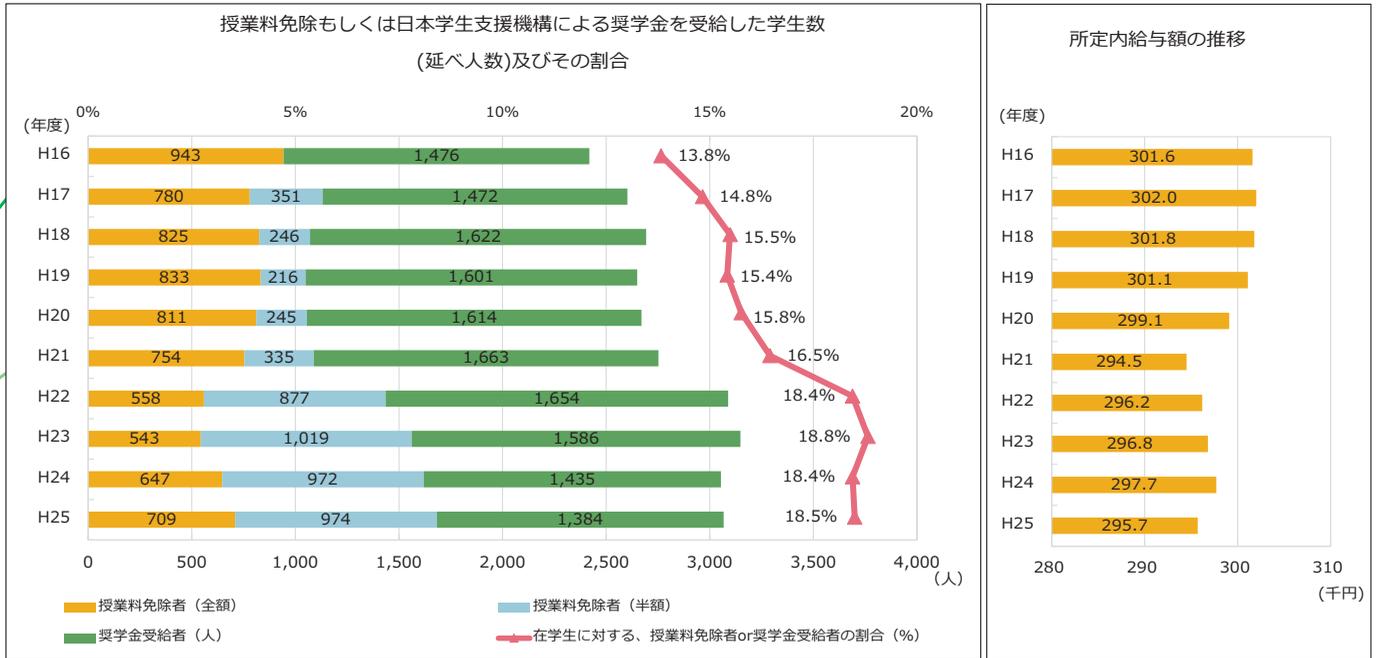


出典:平成25年度神戸大学学生生活実態調査より作成

11-5. 経済支援について

近年の一般労働者の所定内給与額の減少に伴い、神戸大学においても授業料の免除や奨学金を受給する学生数は増加傾向にある。神戸大学では平成22年度より授業料の半額免除枠を拡大し、多くの学生の経済的支援を行っている。

◆神戸大学◆



出典 (右) : 厚生労働省 賃金センサス(賃金構造基本統計調査)より作成

11-6. 学生アンケートについて

神戸大学教育憲章で掲げている “養成しようとする人材像”

高い倫理性、知性と感性が調和した豊かな教養 自ら課題設定、創造的に解決できる能力

人間性 創造性 専門性 国際性

深い学識、高度な専門技能 多様な価値観を尊重、異文化に対する理解、コミュニケーション能力

3つのポリシー

DP (Depth) AP (Academic Proficiency) CP (Communication Proficiency)

「養成しようとする人材」が育成できているか、どの場面が有効であったかを確認

獲得能力	H25卒業・修了生		卒業生	就職先
	学部	研究科		
幅広い教養/深い学識	3.9	4.3	20.4%	4.0
専門知識・技能	4.2	4.2	25.3%	3.9
英語等の外国語能力	2.8	3.3	3.0%	3.4
総合的な見地	3.9	4.2	-	4.1
高い倫理観	3.5	3.7	-	4.0
課題設定・解決能力	4.0	4.2	15.2%	4.0
コミュニケーション	3.9	3.9	12.3%	4.1
価値観・異文化理解	3.6	3.8	-	3.7
プレゼンテーション	3.6	4.2	2.7%	3.7
情報処理	3.7	4.1	1.7%	3.4

H26年度入学・受験 (進学) 理由

学部: 国立大学だから、志望する分野がある、大学の雰囲気・環境が良い

研究科: 志望する分野がある、国立大学だから、優れた教員が多い

入学満足度

学部: 4.3 研究科: 4.5

項目	H24後期		H25前期	
	学部	研究科	学部	研究科
授業理解度	3.9	4.4	3.9	4.1
総合判断	4.1	4.7	4.1	4.4

卒業・修了時アンケート (年1回) Web

卒業生アンケート (年1回) ※ホームカミングデイにおいて実施

就職先機関アンケート (隔年) ※就職ガイダンスにおいて実施

多層的アンケートを実施し、教育成果・効果の把握及び教育改善に活用

入学時アンケート (年1回) Web

授業評価アンケート (前期・後期) Web

卒業・修了時アンケート (年1回) Web

卒業生アンケート (年1回) ※ホームカミングデイにおいて実施

就職先機関アンケート (隔年) ※就職ガイダンスにおいて実施

入学者

在学者

卒業・修了予定者

卒業・修了者

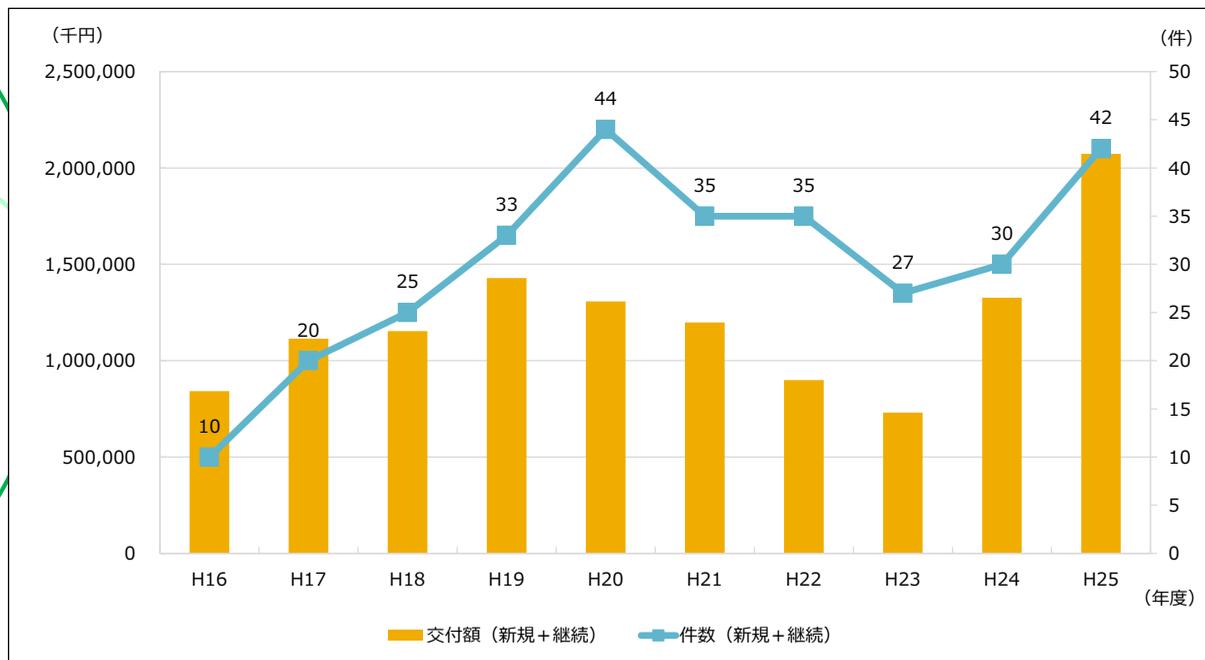
就職先機関

中からのチェック ←→ 外からのチェック

12.教育プログラムの採択状況

12-1.大学教育改革支援プログラム等

◆神戸大学◆



※科学技術イノベーション創出基盤構築事業以外で、獲得総額が1億円を超えるプログラムを計上している。(21世紀COE・グローバルCOEを含む。)

12-2.大学教育改革支援プログラム等採択状況

【平成23年度新規採択分】

(単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
大学の世界展開強化事業 「キャンパス・アジア」中核拠点形成支援東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	国際協力研究科	148,115	H23～ H27	本プログラムは神戸大学大学院国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院、高雄大学国際大学院がコンソーシアムを形成し、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスクマネジメント専門家の養成に向けた同一かつ質の高い協働教育を展開する取組である。博士課程前期課程の大学院生を対象に12か月間、交換留学およびダブル・ディグリープログラムを実施する受入・派遣モデルを三大学の協働により開発し、インターシップを含めた講義等を履修し、各大学で定めた単位を相互認定することにより、将来の東アジアおよび世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家を養成する。また、神戸大学大学院国際協力研究科の国内外での実績を前提に、WHO神戸センター、人と未来防災センター、アジア防災センター、JICA兵庫等のリスクマネジメントに関わる多彩な研究機関やNPO諸機関、既にネットワークが構築されている国際機関でのインターンシップなどプログラム参加者により充実した教育の機会を提供する。

【平成24年度新規採択分】

(単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
大学の世界展開強化事業 ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	医学研究科	98,179	H24～ H28	神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学、WHO健康開発総合センター(WHO神戸センター)、兵庫県立健康生活科学研究所(Hyogo-IPHES)がコンソーシアムを構成し、既に神戸大学がインドネシア拠点及び大阪大学がタイ拠点を有する優位性を活用し、神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を通して、ASEAN諸国との連携・協働による「次世代医学・保健学グローバルリーダー」を育成する。
国際化拠点整備事業 スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (旧グローバル人材育成推進事業)	取組学部・研究科等： 国際文化学部、文学部、 発達科学部、法学部、経 済学部、経営学部、人文 学研究科、経済学研究科	178,635	H24～ H28	本事業では、教育目的に掲げる「人間性の教育」、「創造性の教育」、「国際性の教育」、「専門性の教育」を踏まえつつ、人文科学系及び社会科学系の6学部(国際文化学部、文学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部)がそれぞれの教育プログラムを通じて互いの専門性を越えて協力し、深い教養と高度な専門性、グローバルな視野と卓越したコミュニケーション能力を備えた「問題発見型リーダーシップ」を発揮できる「グローバル人材」を育成することを目的とする。
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成プログラム 基礎・臨床融合による基礎医学研究の養成	医学部	37,110	H24～ H28	本事業は、本医学部医学科学生への基礎医学研究に対する興味を喚起し、研究に魅力を感じる学生が、積極的に研究に参加できるよう「基礎医学研究医養成コース」を設置し、本コースを履修する学生が研究に必要な実験手技、科学的思考法そして学術的研究発表を行うために必要な技能を身につけるための学生教育支援を行う取組である。この取組により研究に興味を持つ医学科学生は、他の学生と同様に医師になるために必要な教育を受けると同時に、基礎医学分野に於いて少人数で個別研究指導を受け、新知見を得る喜びを体験し基礎研究に必要な技能を習得する。卒業後は 平後臨床研修を受けながら大学院を修了できる大学院ダブルコースに進み、更に基礎臨床融合教員(学術研究員や特定助教)として、基礎医学系分野で研究を続けるとともに大学附属病院で臨床活動を行う真のクリニシャン・サイエンティストの養成を目指す。
地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域) 「関西ライフイノベーション戦略推進地域」	連携創造本部/ 医学研究科	131,036	H24～ H28	生命医学系研究領域の専門性に加え、国内外の医薬品、医療機器ならびに健康科学関連産業の現状や最先端の研究開発動向、将来展望等について幅広い知識・情報を有し、産業界およびアカデミアにおいて医薬品、医療機器および健康製品の研究開発や事業開発の第一線に立ち、イノベーション創出を自ら実践・リードする真のグローバルリーダーを育成する。 ポर्टアイランドの神戸医療機器開発センター(MEDDEC)に設置している、消化器内視鏡システム、超音波内視鏡下穿刺吸引システムの共用化を図る。
「ひょうご環境・エネルギーイノベーション・クラスター」戦略推進地域	工学研究科	146,679	H24～ H28	21世紀は「水」の世紀と言われる水需要は爆発的に拡大すると予想される。我が国が得意とする分離膜水処理システムはこの水需要を満たす上で中心的役割を果たすと期待されている。本提案では、神戸大学の膜工センターを母体として国内外の研究者を集積し、革新的な高機能分離膜(スマート・メンブレン)の開発を推進する研究拠点を形成する。同時に産業界と密接に連携し、水ビジネスにおけるグリーンイノベーションの創出を図る。

【平成25年度新規採択分】

(単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部署	補助金 交付済総額	採択 期間	概要
国際循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム 国際共同による日本研究の革新 海外の日本研究機関との連携 による若手研究者養成	人文学研究科	6,711	H25～ H27	世界の日本研究をリードする有力な諸大学として位置づけられる、海外の3大学(オックスフォード大学・ハンブルク大学・ヴェニス大学)に若手研究者を派遣し、これら諸大学と神戸大学がこれまでに築いてきた協力関係をさらに強化・発展させながら、世界における日本研究を自覚した新たなタイプの日本研究者を養成する。

13.研究論文

13-1.インパクトの高い論文数による日本の研究機関ランキング

神戸大学の2003年1月から2013年10月の約11年間の高被引用論文数は国内で16位にランクインしている。

順位	機関名	高被引用論文数	割合
1	東京大学	1,219	1.53%
2	(独) 科学技術振興機構	771	2.41%
3	京都大学	710	1.21%
4	大阪大学	613	1.28%
5	(独) 理化学研究所	523	2.25%
6	東北大学	457	0.98%
7	(独) 産業技術総合研究所	354	1.25%
8	名古屋大学	340	1.11%
9	東京工業大学	315	1.17%
10	筑波大学	246	1.25%
11	九州大学	241	0.76%
12	(独) 物質・材料研究機構	222	1.59%
13	広島大学	200	1.15%
14	北海道大学	193	0.61%
15	岡山大学	175	1.18%
16	神戸大学	148	1.09%
17	早稲田大学	147	1.41%
18	自然科学研究機構	146	1.20%
19	高エネルギー加速器研究機構	132	2.12%
20	慶應義塾大学	125	0.79%

※出典：トムソン・ロイター社のプレスリリース「インパクトの高い論文数による日本の研究機関ランキングを発表」より

当データは同社のデータベース「InCites Essential Science Indicators™」に収録されている世界の研究機関情報から、同データベースの22研究分野において被引用数が上位1%の高被引用論文を集計し、ランキング化したものである。

※注：「13.研究論文」に関しては、自然科学・生命医学系の学術論文を中心に集計したデータである。学問分野によって論文作成の在り方が異なることもあり、論文数・被引用数だけで大学の研究活動を評価できるものではないことに留意が必要である。

13-2.神戸大学の論文の量と質についての比較（推移）

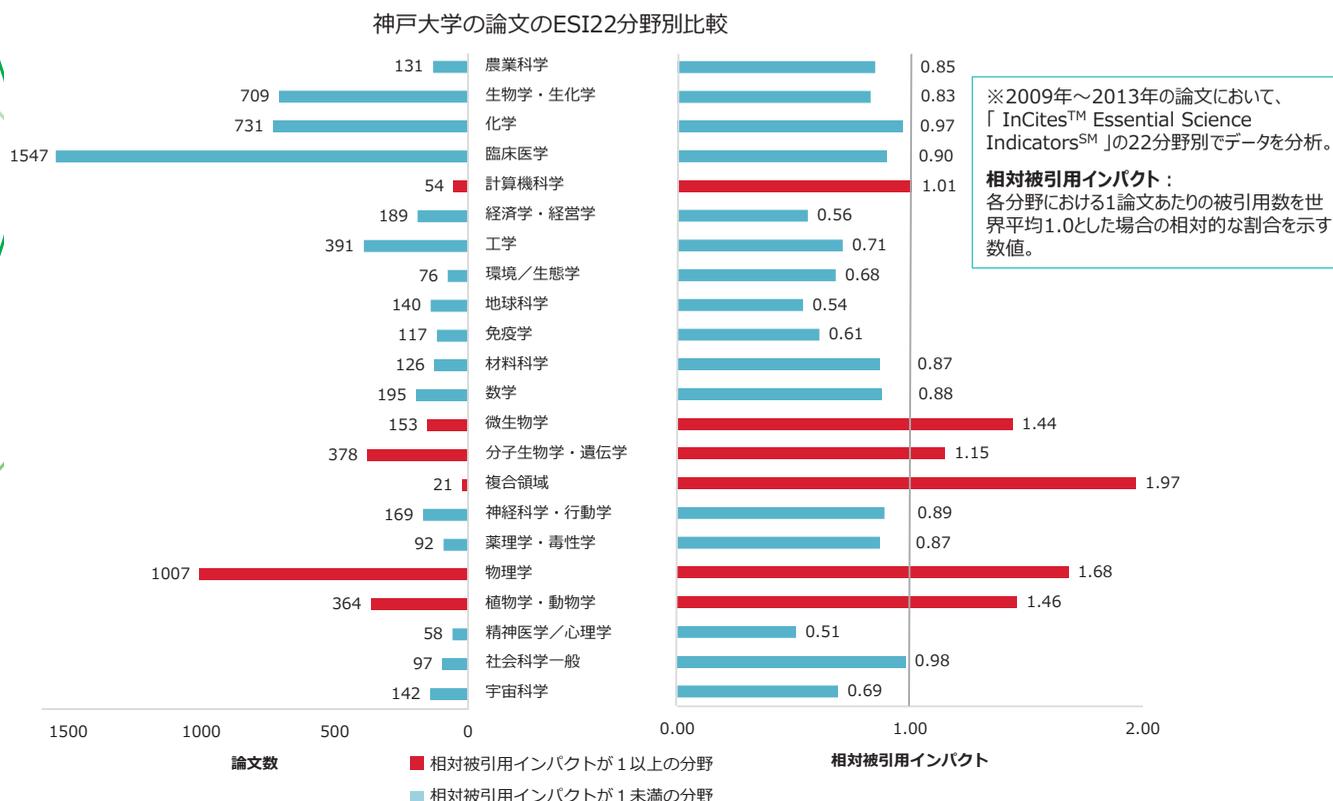
神戸大学は、論文数・高被引用論文数・被引用数の全てにおいて順調な伸びを見せており、大学全体の研究力は年々向上していると言える。



※データ：「InCites™ Essential Science Indicators™」より。
 総論文数、高被引用論文数、総被引用数は5年間の累計値となる。なお、データは2014年7月現在の数値である。
 WoS=Web of Science™（トムソン・ロイター社が提供する学術文献データベース）の略。

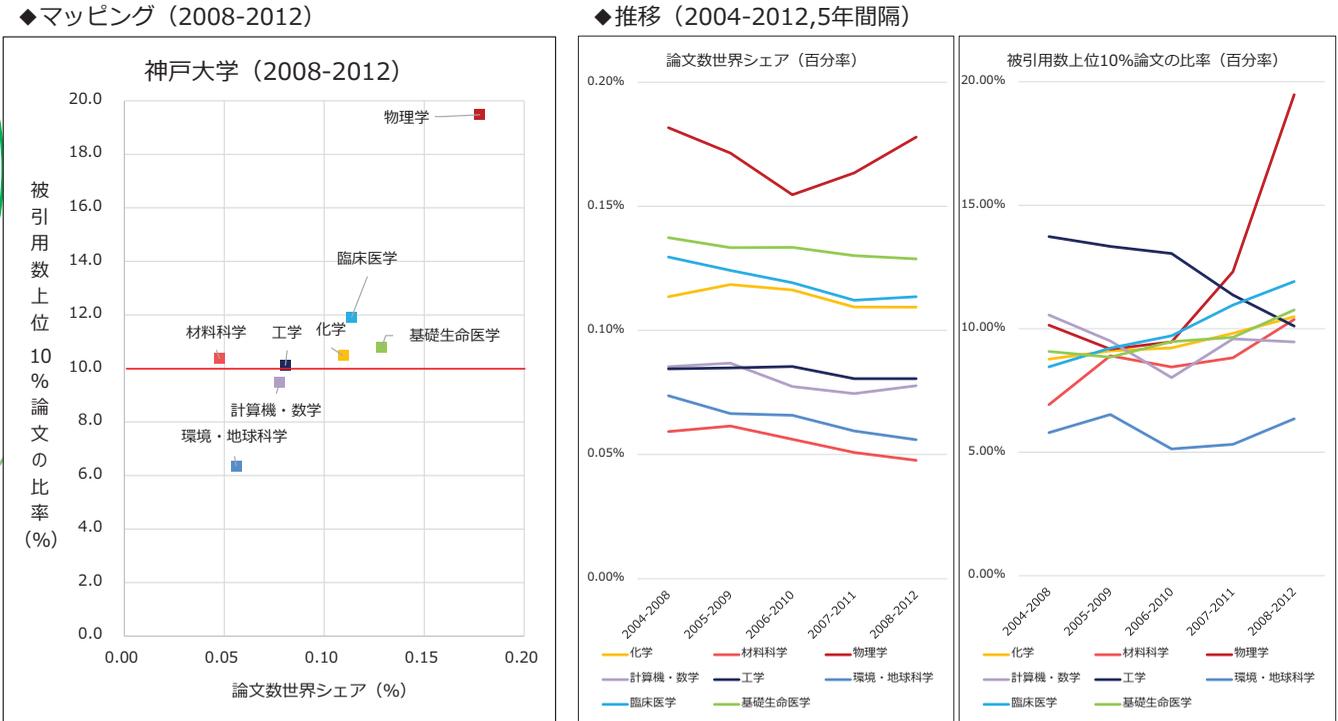
13-3.神戸大学の論文の量と質についての比較（ESI22分野別）

InCites™を用いて、神戸大学の研究をESI22分野別に比較した結果である。グラフ内の赤く塗られた分野においては、特に質の高い研究が行われている。



13-4.神戸大学の論文の量と質についての比較 (NS8分野別)

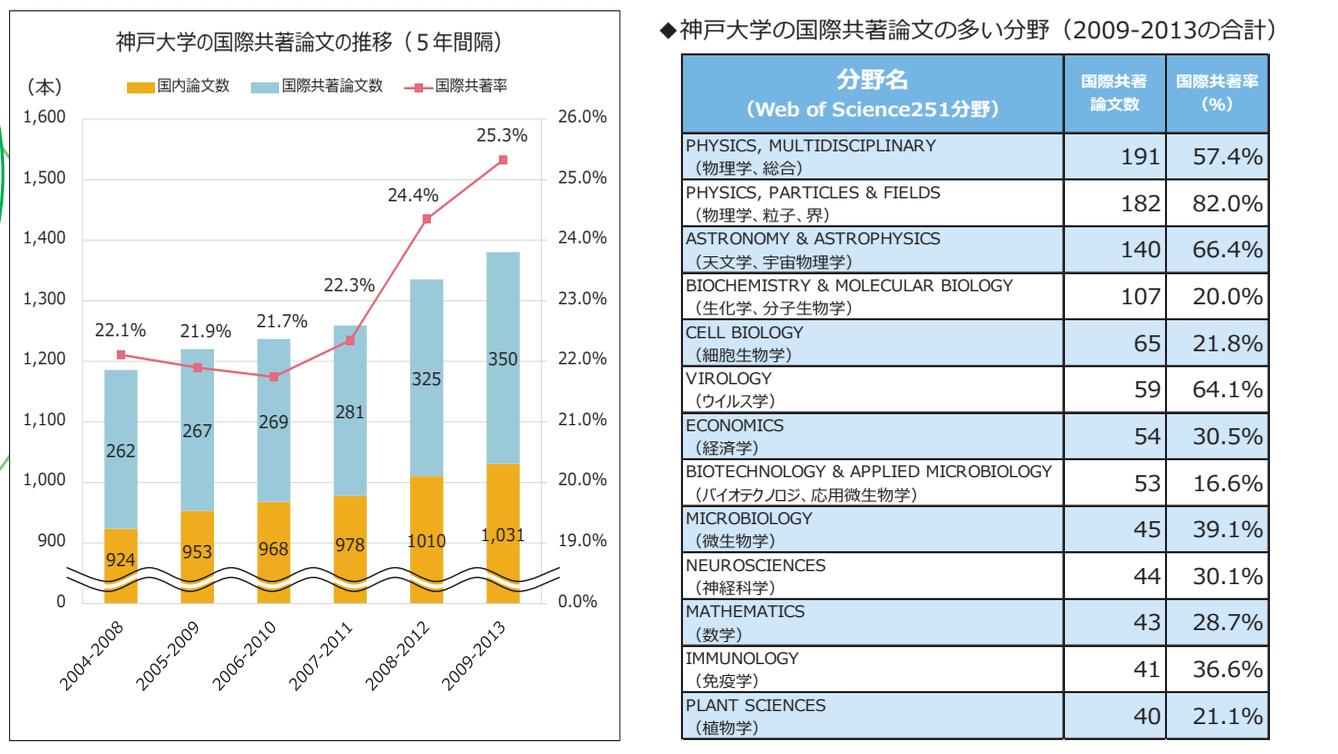
科学技術政策研究所(NISTEP)が定義した、研究ポートフォリオ8分野別に神戸大学の論文を分析した結果である。近年、物理学分野において大きな伸びを見せている。



※ Web of Science™ (SCIE,CPCI:Science) 収録論文のうち、5つのドキュメントタイプ (Article,Letter,Note,Proceedings Paper,Review) の論文について、科学技術政策研究所「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」において用いられていた「研究ポートフォリオ8分野 (ESI22分野のうち19分野を再分類したもの)」別にデータを分析した。共著論文のカウント方法は整数カウント法である。また、本データは2014/8/29時点のデータである。被引用上位10%に入る論文の被引用数のラインについては、InCites™ Essential Science IndicatorSMにて調べた。
(注:「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」にて用いられていた指標である「TOP10%補正論文数」ではない点に注意。)

13-5.神戸大学の論文の量と質についての比較 (国際共著)

神戸大学の国際共著論文数・国際共著率はともに増加傾向にある。分野別で見ると、物理学や生物学、経済学などの広い分野で積極的に国際連携して研究を行っていることがわかる。



※データ:「InCites™ Global Comparisons」より
(注) 左のグラフ内の国内論文数および国際共著論文数は5年間の平均値、右の表では5年間の累計値を示している。

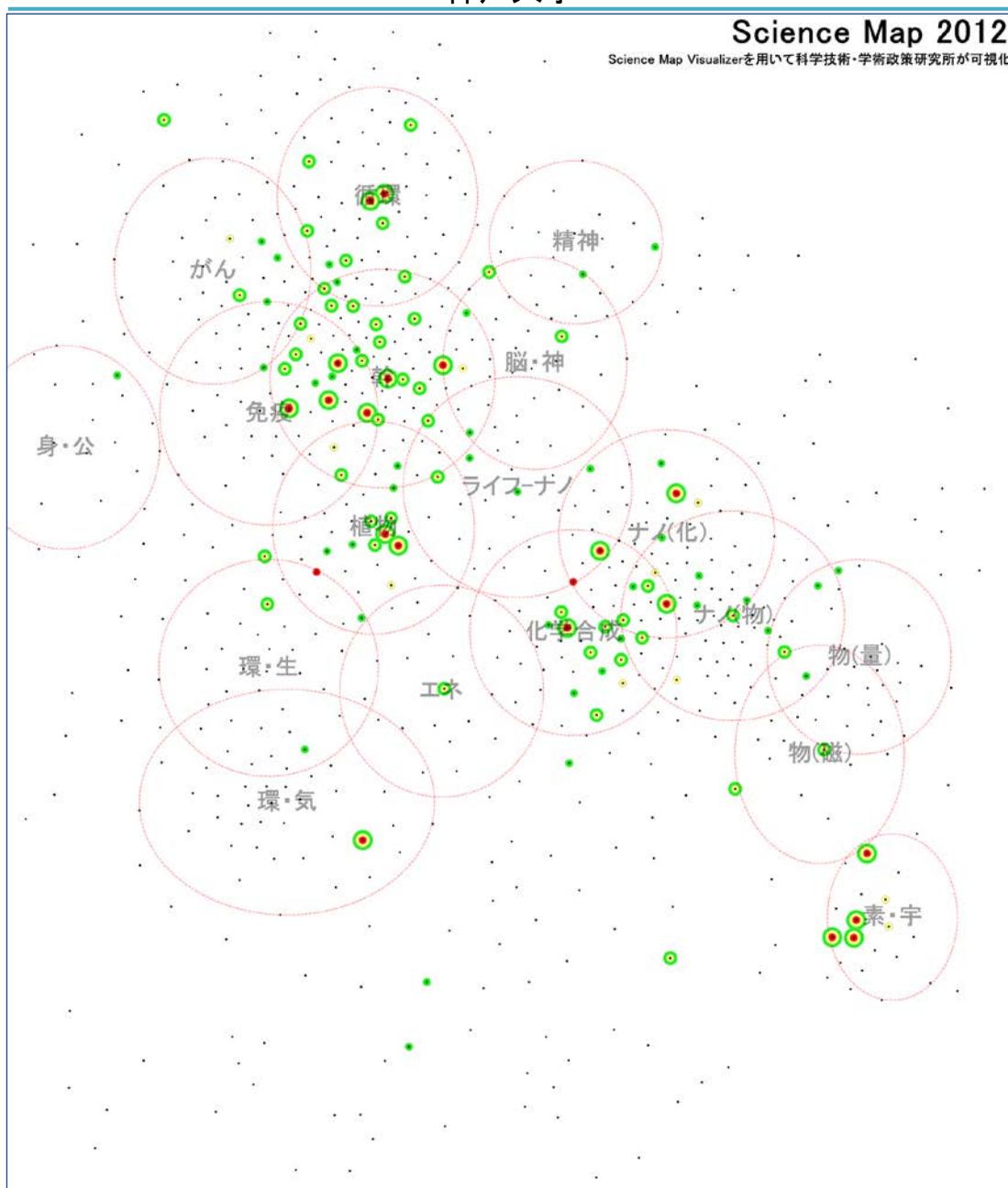
13-6.サイエスマップから見る神戸大学の強みである研究領域

NISTEP（科学技術・学術政策研究所）が2014年7月に公表した「サイエスマップ2010&2012」によると、神戸大学ではiPS細胞などの幹細胞に関する研究をはじめ、幅広い分野において世界をリードする研究が行われていることがわかる。

サイエスマップとは？

論文データベース分析により国際的に注目を集めている研究領域を定量的に把握し、それらが、互いにどのような位置関係にあるのか、どのような発展を見せているのかを示した科学研究の地図。

神戸大学



- 研究領域のコアペーパー、サイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)に1件入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパーに入っている場合 (2件以上)
- 参画していない場合

◆研究領域群名

- ①がん（がん研究）
- ②循環（循環器疾患研究）
- ③身・公（身体活動・公衆衛生）
- ④免疫（免疫・感染症研究（遺伝子発現制御を含む））
- ⑤幹（遺伝子発現制御・幹細胞研究）
- ⑥脳・神（脳・神経疾患研究）
- ⑦精神（精神疾患研究）
- ⑧植物（植物・微生物研究（遺伝子発現制御を含む））
- ⑨環・生（環境・生態系研究）
- ⑩環・気（環境・気候変動研究（観測、モデル））
- ⑪ライフ・ナノ（生物メカニズムとナノレベル現象の交差（ライフ・ナノブリッジ））
- ⑫エネ（バイオ・化学的アプローチによるエネルギーの創出）
- ⑬化学合成（化学合成研究）
- ⑭ナノ（化）（ナノサイエンス研究（化学的アプローチ））
- ⑮ナノ（物）（ナノサイエンス研究（物理学的アプローチ））
- ⑯物（量）（物性研究（量子情報処理・光学））
- ⑰物（磁）（物性研究（磁性・超電導））
- ⑱素・宇（素粒子・宇宙論研究）

◆用語

研究領域
2007～2012年の6年間に発行された論文の中で、各年、ESI22分野の被引用数Top1%論文に対し、「共引用」を用いたグループ化を行うことにより得られた823の領域

コアペーパー
各研究領域を構成している論文

サイティングペーパー
コアペーパーを引用している論文

神戸大学	コアペーパー		サイティングペーパーのうちTop10%論文		サイティングペーパー	
	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数
サイエスマップ2008	12	21	79	188	100	592
サイエスマップ2010	26	33	100	207	118	642
サイエスマップ2012	21	53	76	284	106	821

(出典)文部科学省 科学技術・学術政策研究所、サイエスマップ2010 & 2012、NISTEP REPORT No.159、2014年7月

14.科学研究費

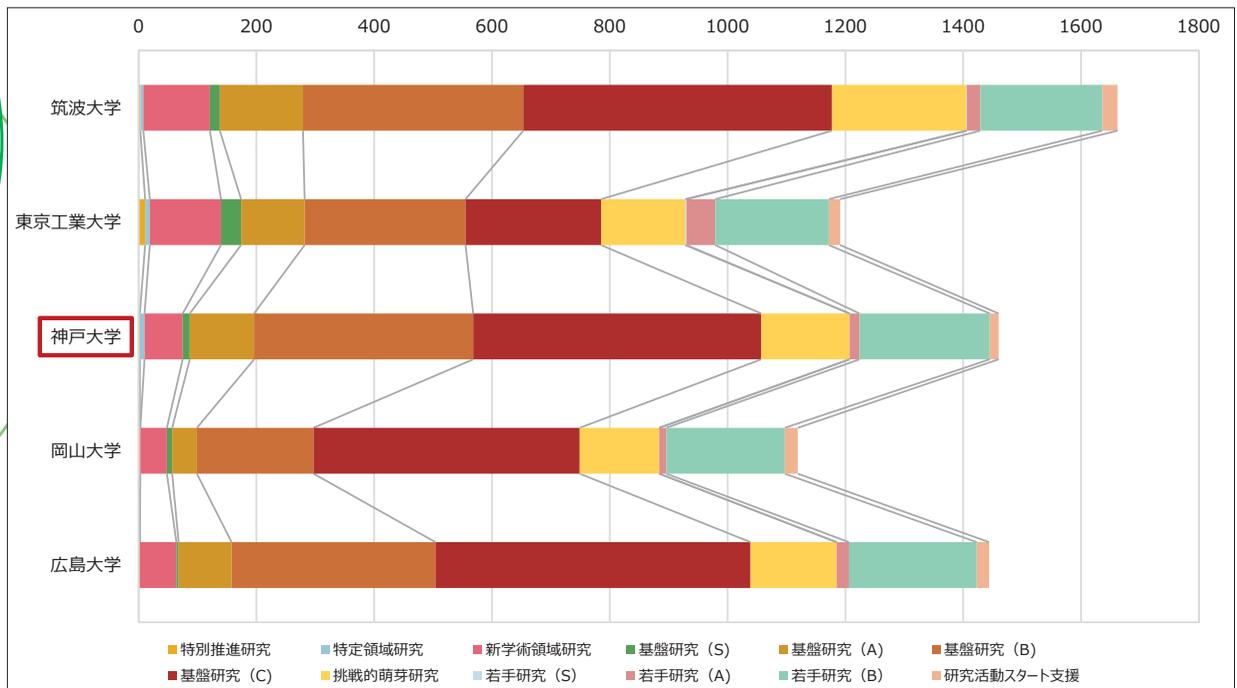
14-1.平成26年度科学研究費助成事業獲得状況

種 目	新規申請件数	採択件数			新規採択率	配分額（新規+継続）		
		新規	継続	合計		直接経費（千円）	間接経費（千円）	合計（千円）
特別推進研究	0	0	0	0	-	0	0	0
	0	0	0	0	-	0	0	0
新学術領域研究	107	18	27	45	16.8%	364,760	109,428	474,188
	119	17	19	36	14.3%	338,800	101,640	440,440
基盤研究(S)	6	1	3	4	16.7%	111,400	33,420	144,820
	2	0	5	5	-	138,700	41,610	180,310
基盤研究 (A)	36	8	22	30	22.2%	241,000	72,300	313,300
	25	5	25	30	20.0%	256,700	77,010	333,710
基盤研究 (B)	173	41	121	162	23.7%	577,800	173,340	751,140
	151	52	111	163	34.4%	607,000	182,100	789,100
基盤研究 (C)	365	141	326	467	38.6%	527,600	158,280	685,880
	342	161	286	447	47.1%	517,270	155,181	672,451
挑戦の萌芽研究	190	51	76	127	26.8%	146,600	43,980	190,580
	181	61	71	132	33.7%	163,730	49,119	212,849
若手研究 (A)	11	1	14	15	9.1%	66,200	19,860	86,060
	18	7	8	15	38.9%	70,300	21,090	91,390
若手研究 (B)	249	84	124	208	33.7%	220,700	66,210	286,910
	242	82	127	209	33.9%	231,200	69,360	300,560
研究活動スタート支援	49	0	11	11	-	8,761	2,628	11,389
	46	10	12	22	21.7%	21,461	6,438	27,899
合 計	1,186	345	724	1,069	29.1%	2,264,821	679,446	2,944,267
	1,126	395	664	1,059	35.1%	2,345,161	703,548	3,048,709

※上段：平成26年度採択状況（H26.7現在）
下段：平成25年度採択状況（最終版）

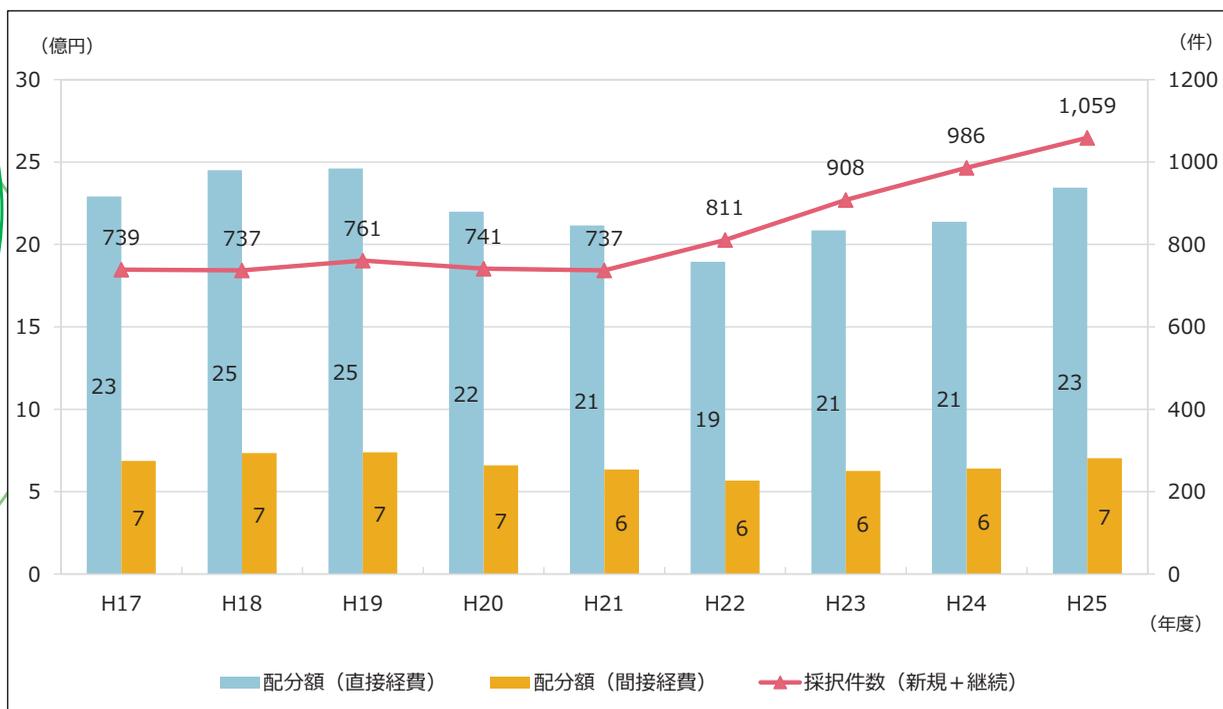
14-2.平成24年度科学研究費助成事業獲得状況

<件数（新規+継続）>



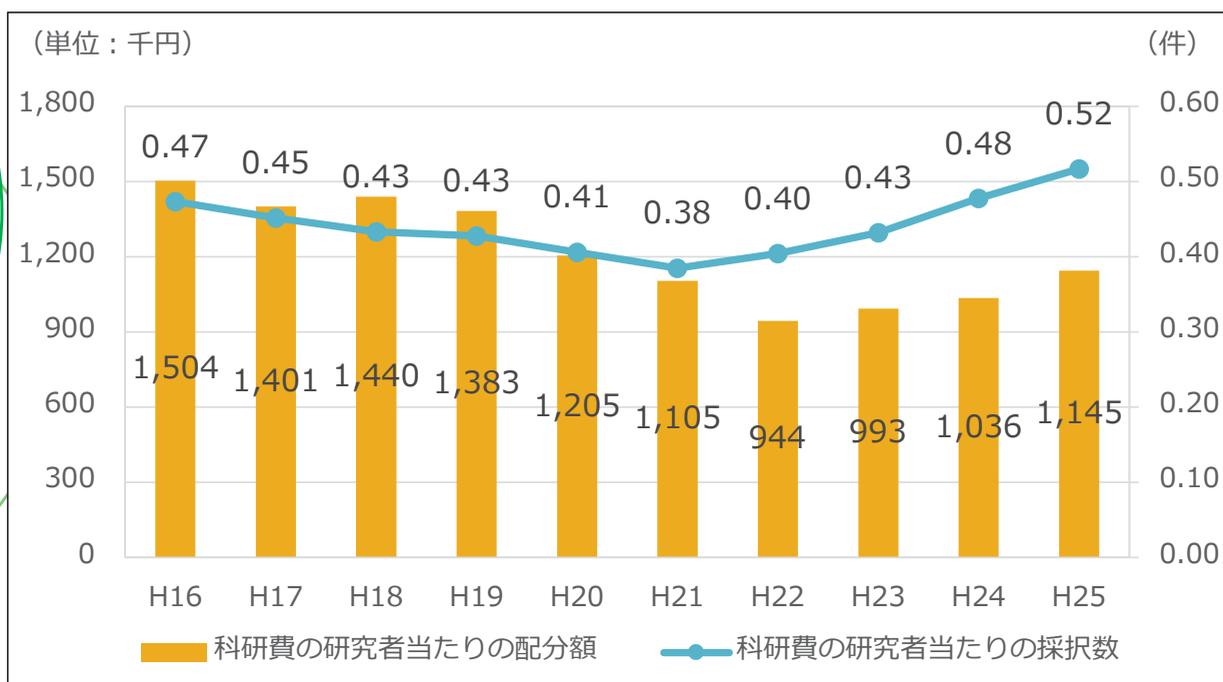
出典：各大学財務諸表（平成24年度版）より作成
※基金化された課題を含む。

14-3. 科学研究費助成事業採択状況（推移）



※基金化された課題についても計上。

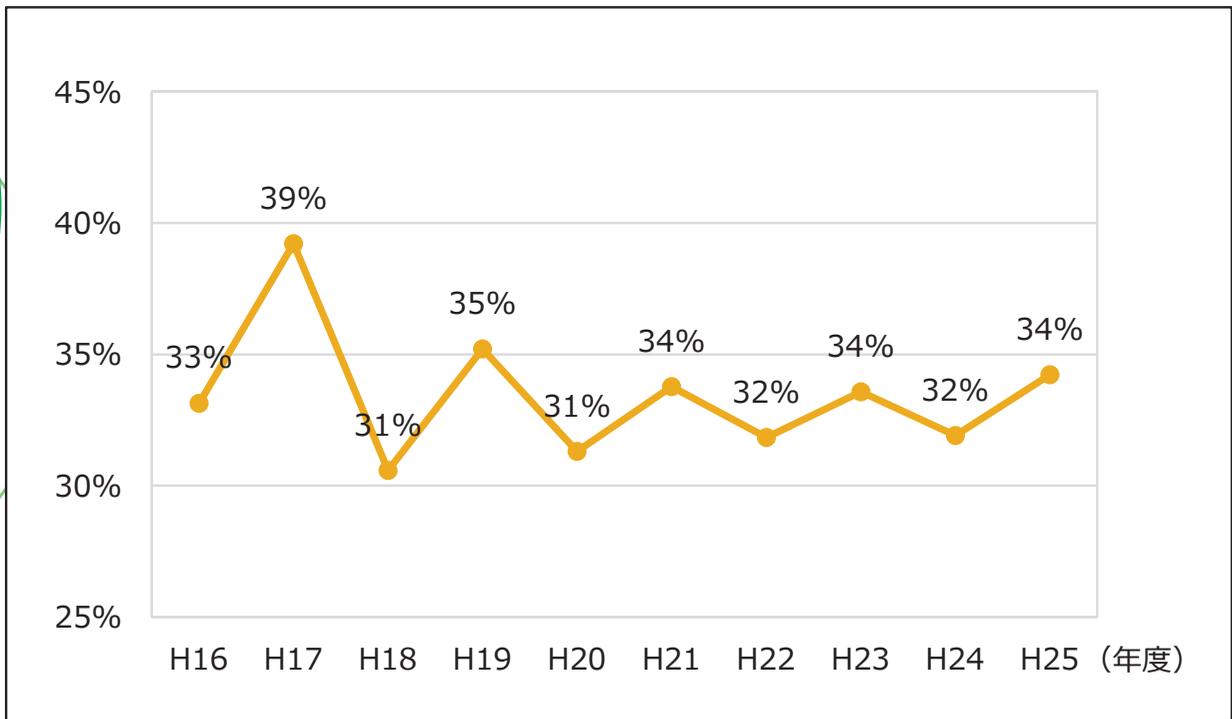
14-4. 科研費の研究者当たりの配分額・採択数（推移）



※科研費の研究者当たりの配分額：分子＝採択額（直接経費）
分母＝科研費応募資格者

科研費の研究者当たりの採択数：分子＝科研費採択件数（新規+継続）
分母＝科研費応募資格者

14-5. 科研費の若手種目の新規採択率（推移）



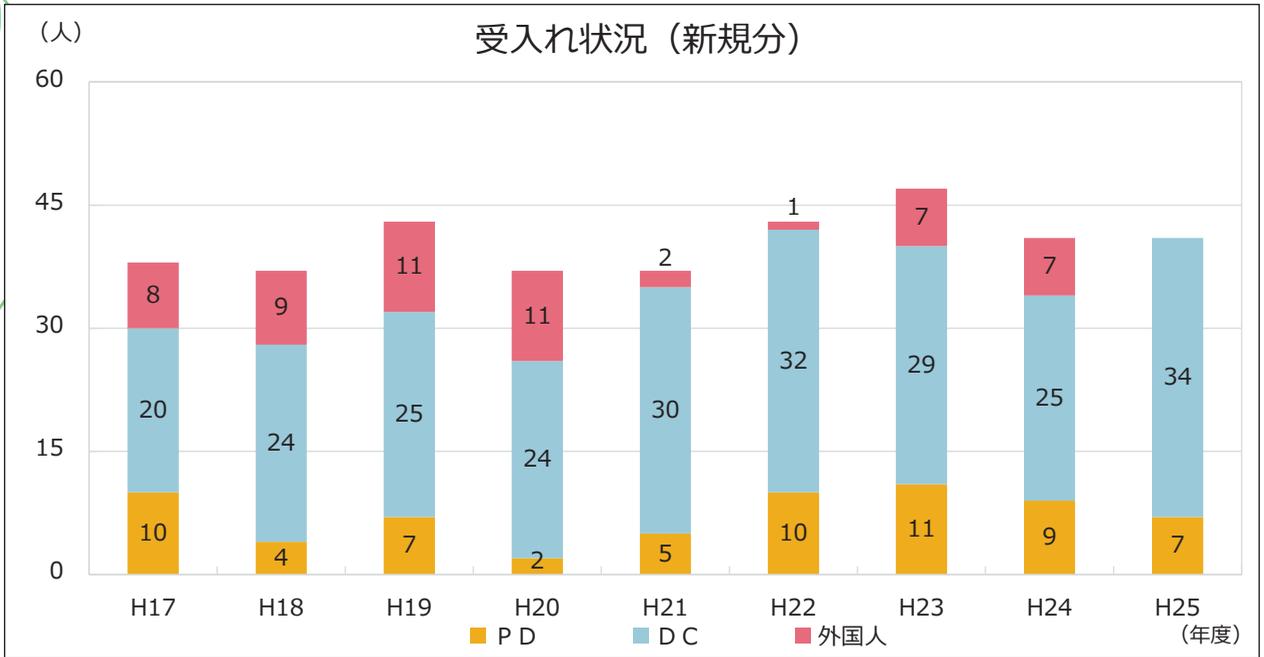
※分子：新規採択件数（若手研究（A）+若手研究（B））
分母：応募件数（若手研究（A）+若手研究（B））

15. 日本学術振興会特別研究員

15-1. 受入れ状況（新規分）

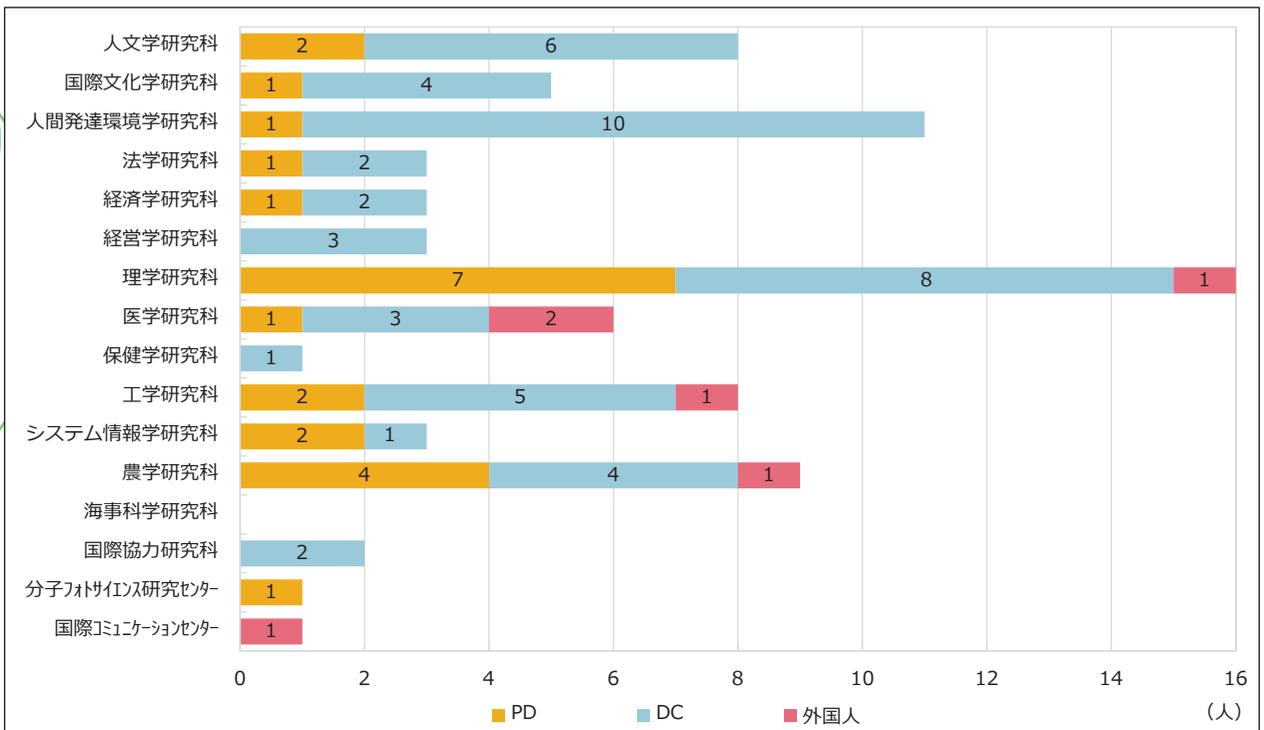
研究科別に見ると、人文系・自然科学系で数多くの特別研究員の受入れを行っていることがわかる。受入れ人数全体としては、毎年一定の水準を確保している。

◆神戸大学◆



15-2. 研究科別受入れ状況（在籍者）

◆神戸大学（平成25年度）◆

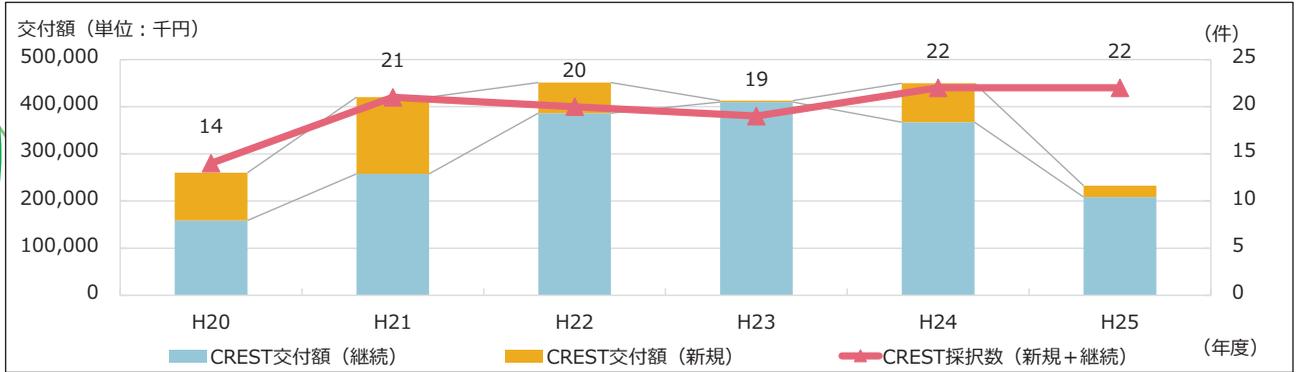


※平成26年3月31日時点での在籍者を記載。

16.研究プログラムの採択状況

16-1.戦略的創造研究推進事業（CREST）

◆神戸大学（採択件数・交付額）◆



◆神戸大学（採択状況）◆

【平成21年度新規採択分】 (単位: 千円)

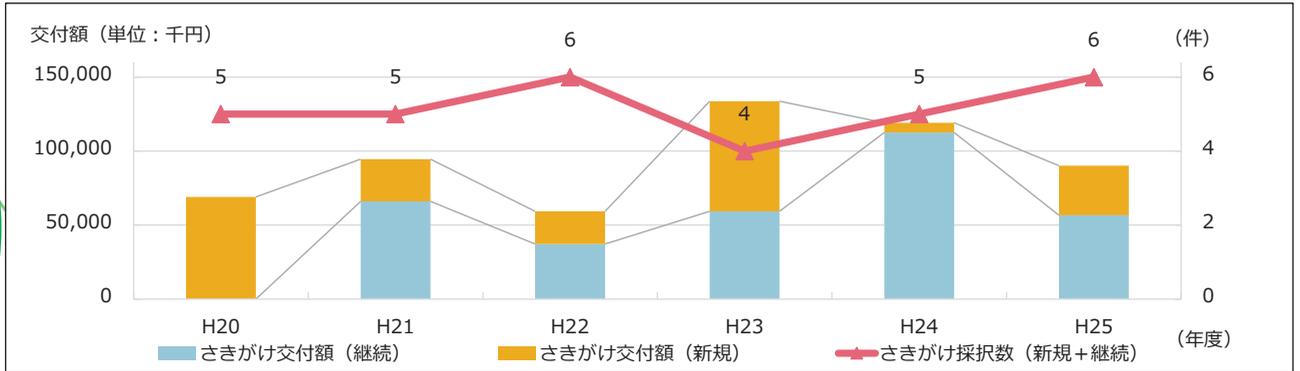
プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概 要
戦略的創造研究推進事業 チーム型研究CREST				
合成生物学による海洋性微細藻からのバイオエタノール生産	工学研究科	170,056	H21～ H27	ラン藻グリコーゲンの分解に最適な酵素を選出し、当該酵素を酵母細胞表面に提示発現させることにより、糖化同時発酵によるバイオエタノール生産システムの確立を目指す。

【平成22年度新規採択分】 (単位: 千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概 要
戦略的創造研究推進事業 チーム型研究CREST				
ネクチンとアフアディンによる海馬神経回路形成と可塑性の機構	医学研究科	202,410	H22～ H27	研究全般の統括。本研究計画における中心的な役割を果たし、生化学、分子生物学、細胞生物学や電気生理学およびライブイメージング技術などを用いた研究全般を行う。海馬神経回路形成と機能発現における、ネクチンとアフアディンおよびその関連分子による神経細胞の標的細胞認識や、シナプスの形態形成と機能制御およびシナプス可塑性に着目して研究を行う。また、ノックアウトマウスの作成と維持・管理を行い、動物個体を用いた研究全般を行う。分子・細胞レベルで明らかにされた結果をもとに変異マウスの作成および解析を行い、海馬における神経回路の形成と機能発現の分子機構を個体レベルで明らかにする。

16-2.戦略的創造研究推進事業（さきがけ）

◆神戸大学（採択件数・交付額）◆



◆神戸大学（採択状況）◆

【平成22年度新規採択分】 (単位: 千円)

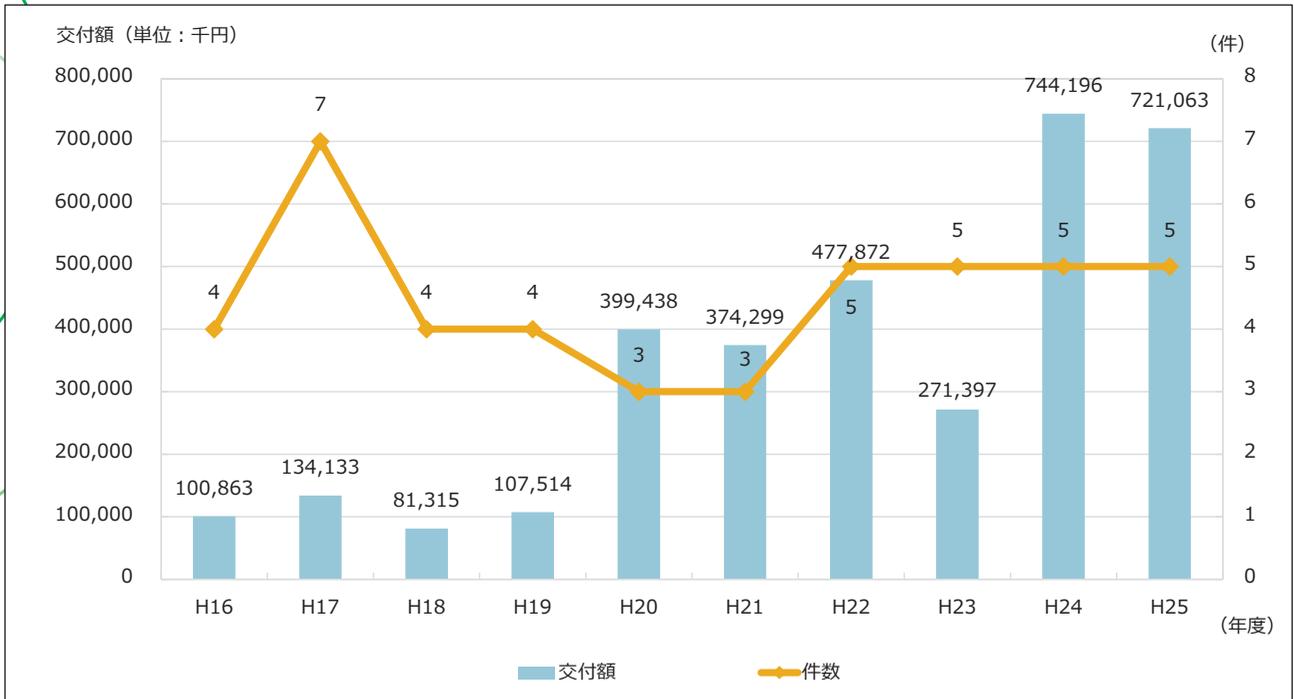
プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概 要
戦略的創造研究推進事業 個人型研究さきがけ				
実世界指向ユーザインタフェース実現のための動作認識基盤の確立	工学研究科	62,985	H22～ H27	実世界における人とコンピュータとの自然なインタラクションを実現するために、ユーザの状況や動作を高度に理解し、それをユーザインタフェースに応用するための基盤技術を確立する。人間の複合動作の分解や、即時性を高めた動作認識などの要素技術により、実世界において認識技術をインタフェースに適用する場合に生じる問題を解決したシステムプラットフォームを構築する。

【平成24年度新規採択分】 (単位: 千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金 交付済総額	採択 期間	概 要
戦略的創造研究推進事業 個人型研究さきがけ				
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	附属病院	30,030	H24～ H27	脳・神経による骨代謝制御を介した骨髄造血システムコントロールという多臓器間ネットワークを解明し、これまでの脳の制御機能とは違った角度から体中を俯瞰する末梢臓器「骨」の新たな制御機能の知見を創造することにより、臓器間ネットワークを利用し、既存の薬剤による本来の薬効と違った利用法による新たな治療や効果的に予防する先制医療へ応用する。

16-3. 科学技術イノベーション創出基盤構築事業 (※)

◆神戸大学 (採択件数・交付額) ◆



※平成22年度までは「科学技術振興調整費」、平成24年度までは「科学技術戦略推進費」。平成25年度より現在の名称。

◆神戸大学 (採択状況) ◆

【平成20年度新規採択分】

(単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金交付済総額	採択期間	概要
イノベーションシステム整備事業・先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム				
バイオプロダクション 次世代農工連携拠点	自然科学系 先端融合研究環	2,014,344	H20～H30 (予定)	バイオテクノロジーは、従来、日本が世界にリードしてきた技術分野である。本拠点では、バイオテクノロジーの基礎を固める生物資源 (=バイオマス) や遺伝子資源の開発・利用を担う農学と、実証的な化学物質生産に必須な発酵・反応・分離技術を培う工学を融合的に発展させ、すべての生物資源を可能な限り有効活用する物質生産 (バイオプロダクション) の実学の確立を目指し、バイオプロダクションの基礎から製品化までを一環したプロセスの体系化を行う。具体的には、バイオマスを原料とした「次世代燃料・化成品原料」、「バイオプラスチック・バイオ繊維」及び「バイオファインケミカル」の物質生産に関わる研究拠点化を目指す。

【平成22年度新規採択分】

(単位：千円)

プログラム名・取組名	実施担当部局	補助金交付済総額	採択期間	概要
ポストドクター・キャリア開発事業				
生命医学イノベーション 創出リーダー養成	医学研究科	213,569	H22～H26	21世紀の成長産業として注目されている生命医学分野の研究開発をリードする若手イノベーション人材の養成は、我が国の経済成長を左右する喫緊の課題である。本取組では、医学研究科を始めとする神戸大学の生命医学関連研究科と関西エリアに集積する関連企業が連携することにより、従来の大学院教育では成しえなかった、企業マインドあふれる若手イノベーション人材を養成する。
女性研究者養成システム改革加速				
レポリューション! 女性教員養成神戸スタイル	男女共同参画推進室	178,850	H22～H26	本学独自の育成研究員 (教員採用候補者として育成) も対象として、新規養成女性教員を女性枠により公募で21名以上 (准教授、講師、助教)、理工農学系研究科に採用する。同女性教員を採用した研究科にはインセンティブとして同女性教員1名に対して1名の任期付き助教を学内経費により配置する (5年間)。全ての女性研究者を対象に「神戸キャリアアップカフェ」を開催し、更なる研究意欲・昇進意欲の向上を促す。新規養成女性教員に研究費 (スタートアップ及び2・3年目) を支給、メンター2名 (研究・ライブ) を配置し、理工農学系のすべての女性教員に研究スキルアップ経費を補助、全学の子育て中の女性研究者に研究支援員を配置する。
先導的創造科学技術開発費補助金				
企業を牽引する 計算科学高度技術者の養成	システム情報学研究科	214,381	H22～H26	地域に集約する「ものづくり産業」を次世代型製造業に転換させるために、神戸大学、兵庫県、地域企業の密な連携協力のもとで、社内で最先端数値シミュレーション技術の導入・利活用を牽引するリーダーの養成を目指します。シミュレーションの本質の理解を目的に、プログラム開発から既製アプリ・ソフトの活用まで、受講者に最適なテーラーメイドの教育カリキュラムで指導する。また、プログラム相談室の設置など手厚い指導体制で、最先端スーパーコンピュータを駆使し、新産業を創出する人材を育成する。

17.文化勲章等受章者一覧

○所属教員

賞名等	氏名	決定年	旧所属	官職
【文化勲章】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【文化功労者】	西塚 泰美	昭和62年	医学部	教授・学長
	五百旗頭 真	平成23年	法学研究科	名誉教授
	中井 久夫	平成25年	医学部	名誉教授
【紫綬褒章】	岩井 誠三	平成元年	医学部	教授
	三嶋 豊	平成6年	医学部	教授
	天野 明弘	平成12年	経営学部	教授
	岡村 均	平成19年	医学系研究科	教授
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	清野 進	平成23年	医学研究科	教授
	西村 和雄	平成24年	経済経営研究所	特命教授
	【ウルフ賞】	西塚 泰美	平成6年	医学部
【アルバート・ラスカー-医学研究賞】 基礎医学研究賞	西塚 泰美	平成元年	医学部	教授・学長
【ガードナー-国際賞】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【朝日賞】	西塚 泰美	昭和61年	医学部	教授・学長
	戸田 達史	平成20年	医学研究科	教授
【京都賞】基礎科学部門	西塚 泰美	平成4年	医学部	教授・学長
【女性化学賞】	相馬 芳枝	平成23年	自然科学研究科	客員教授・特別顧問
【武田医学賞】	西塚 泰美	昭和57年	医学部	教授・学長
	井村 裕夫	昭和61年	医学部	教授
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	高井 義美	平成26年	医学研究科	教授

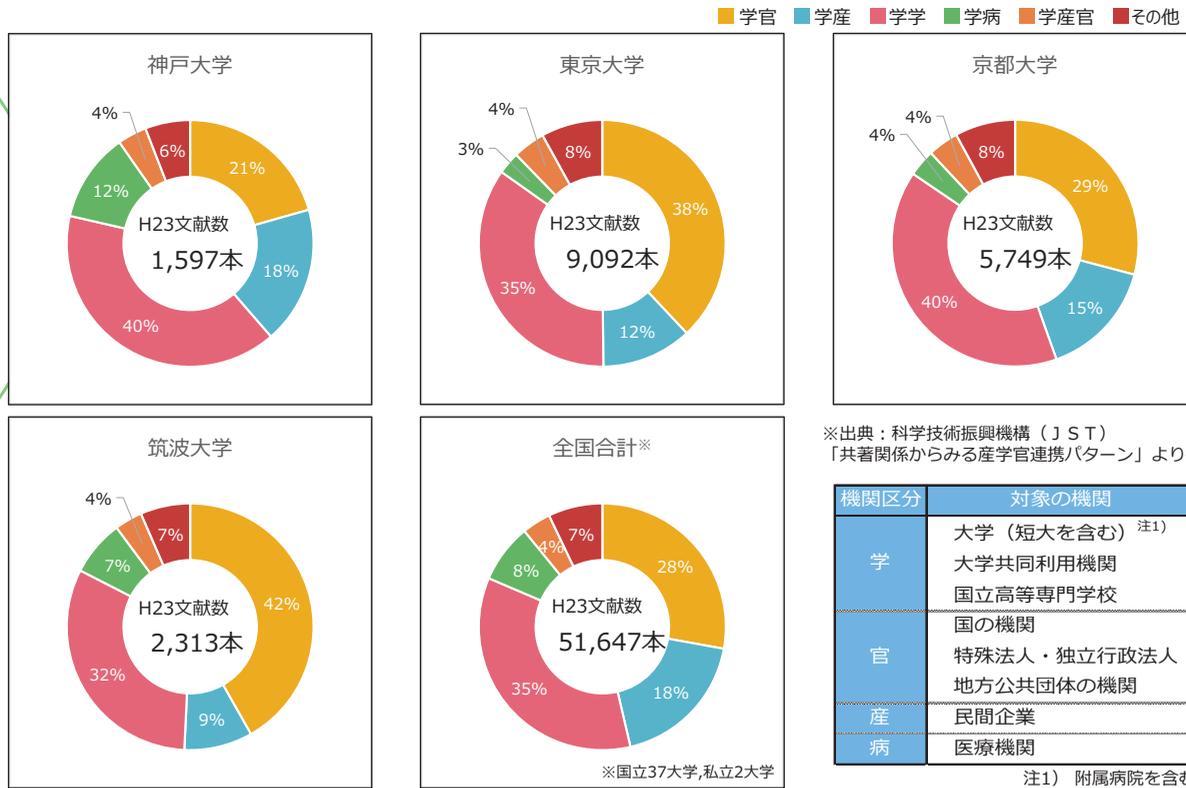
○神戸大学出身者の主な受賞一覧

氏名	賞名等	受賞部門	決定年	卒業校等
江崎 玲於奈	【ノーベル賞】	物理学賞	昭和48年	兵庫県師範学校附属小学校高等科 (神戸大学附属中等教育学校の前身)
	【文化勲章】		昭和49年	
	【日本国際賞】		平成10年	
野依 良治	【ノーベル賞】	化学賞	平成13年	兵庫師範学校男子部附属小学校卒 (神戸大学附属小学校の前身)
	【文化勲章】		平成12年	
	【ウルフ賞】	化学部門	平成13年	
	【朝日賞】		平成4年	
河合 隼雄	【朝日賞】		平成9年	神戸工業専門学校卒 (神戸大学工学部の前身)
山中 伸弥	【ノーベル賞】	生理学・医学賞	平成24年	神戸大学医学部卒
	【文化勲章】		平成24年	
	【ウルフ賞】	医学部門	平成23年	
	【アルバート・ラスカー-医学研究賞】	基礎医学研究賞	平成21年	
	【ガードナー-国際賞】		平成21年	
	【ミレニアム技術賞】		平成24年	
	【京都賞】	先端技術部門	平成22年	
	【武田医学賞】		平成20年	
	【朝日賞】		平成19年	
脇田 晴子	【文化勲章】		平成22年	神戸大学文学部史学科卒
佐川 真人	【朝日賞】		平成2年	神戸大学工学部電気工学科卒
	【日本国際賞】		平成24年	神戸大学大学院工学研究科電気工学専攻修了

18.産学官連携状況

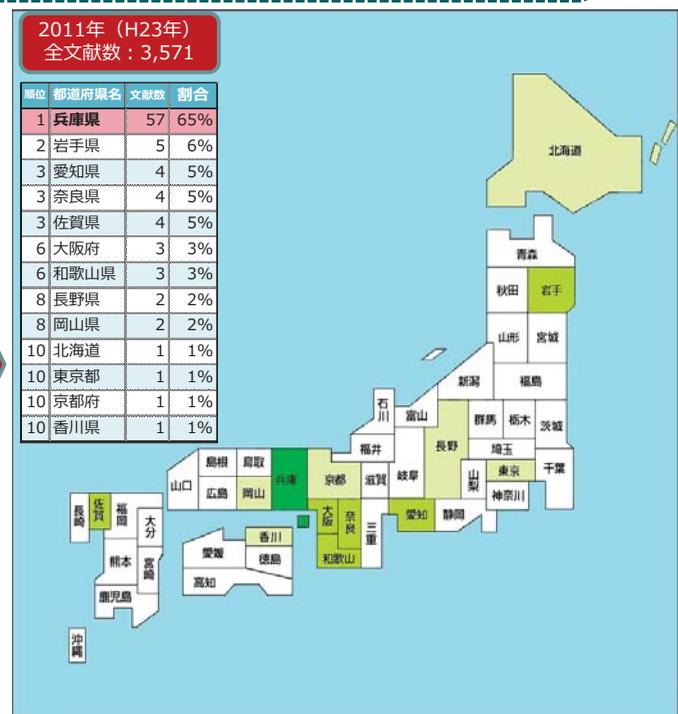
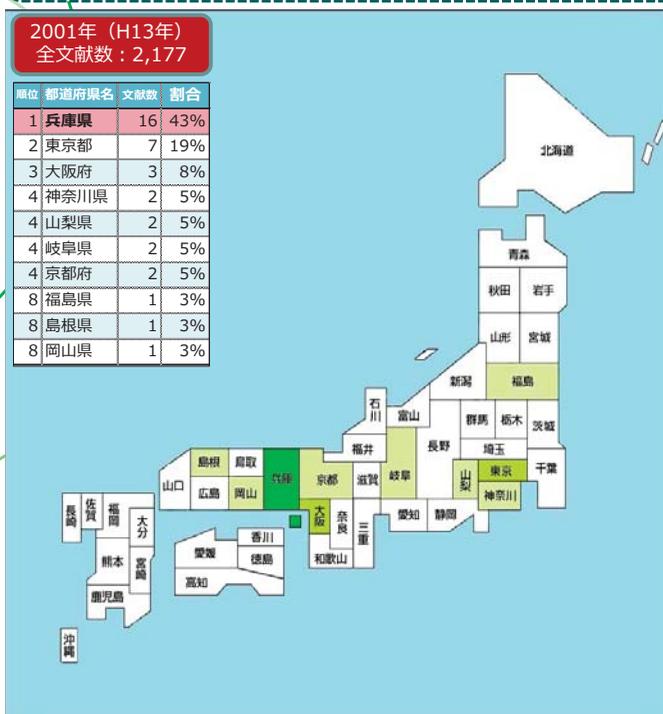
18-1.共著関係から見る産学官連携パターン

JSTが収集しデータベース化している予稿集・会議録記事の書誌データを用いて、神戸大学と他大学との共著関係を比較してみると、学官連携の比率が低く、学病連携の比率が高い（全国平均の約1.5倍）ことがわかる。



18-2.神戸大学における地方公共団体関係機関との共著文献数（都道府県別）

神戸大学と公設試験研究機関などの地方公共団体関係機関との共著関係に着目し、大学と各都道府県との連携度合いを色の濃さで判別したものを。神戸大学が「地域のハブ」としてどのくらい連携しているかを捉えており、大学の所在地である兵庫県との連携度合いが最も高い。



出典：科学技術振興機構（JST）「地域との連携（各県の共著関係）」、「地域との連携（対象文献数）」より作成

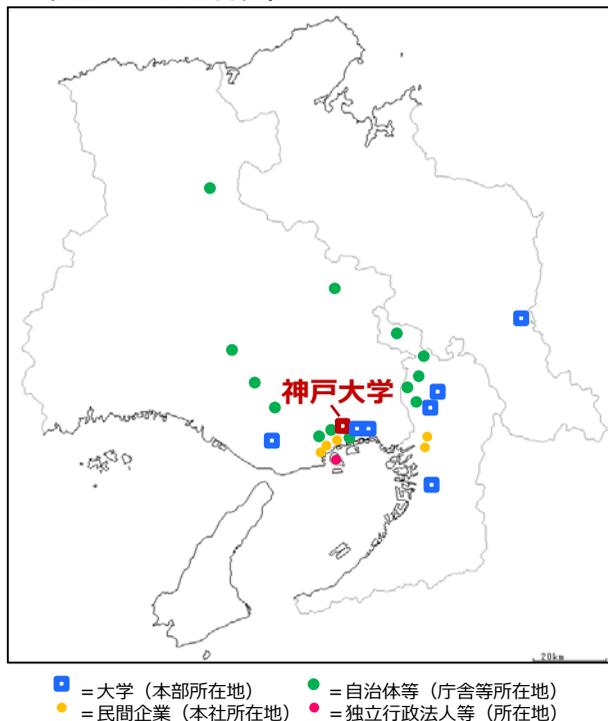
19.国内の大学等との連携協定

神戸大学は、国内の数多くの機関や企業と連携協定を結び、研究・教育・医療の各分野において、充実した社会発展への寄与に取り組んでいる。

◆大学間連携協定等締結状況 (H26.08.01現在)



◆近畿地方の大学間連携協定等締結先 (H26.08.01現在)



(注) このページにて記されている連携協定は神戸大学が締結した「大学間連携協定等」であり、部局において締結された連携協定については記載していない。

○東北地方の連携先との大学間連携協定

協定名称	協定締結機関	締結日
国立大学法人神戸大学と国立大学法人東北大学との災害科学分野における連携協力に関する協定	東北大学	H23.10.23

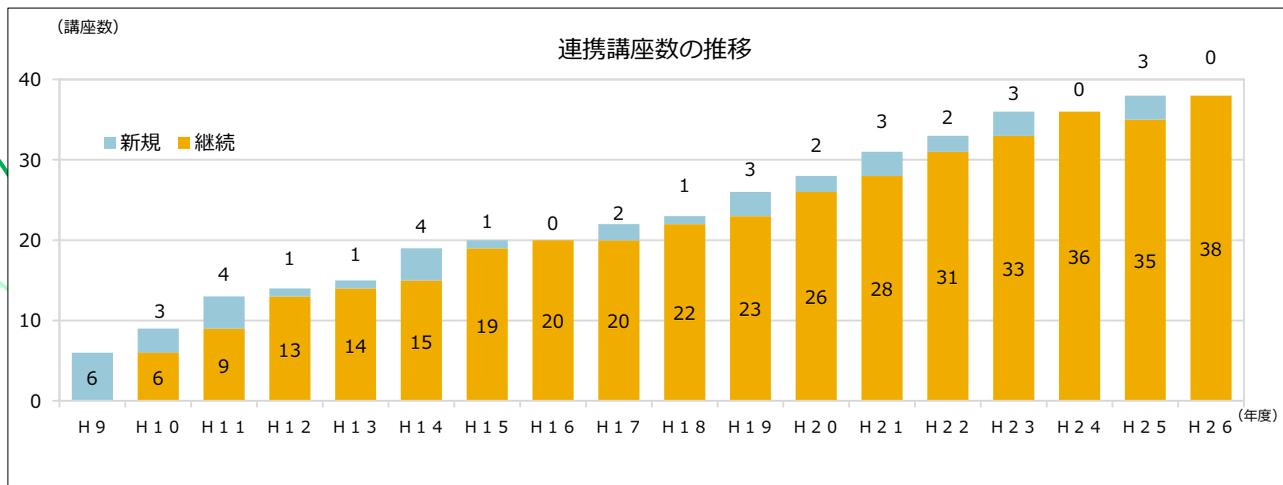
○関東地方の連携先との大学間連携協定等 (一部近畿地方の連携先含む)

協定名称	協定締結機関	締結日
国立大学法人神戸大学、兵庫県立大学及び独立行政法人海洋研究開発機構の教育研究に関する包括協定	兵庫県立大学 (独) 海洋研究開発機構	H19.8.6
〔旧三商大〕一橋大学、神戸大学及び大阪市立大学における教育交流に関する協定	一橋大学 大阪市立大学	H22.2.1
国立大学法人神戸大学と独立行政法人国際協力機構との連携協定	(独) 国際協力機構 (JICA)	H23.3.1
国立大学法人神戸大学と独立行政法人海洋研究開発機構との包括連携協定	(独) 海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H24.12.20
国立大学法人神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協会との連携協力に関する協定	一般社団法人日本プロジェクト産業協会	H26.4.1

○近畿地方の連携先との大学間連携協定等 (大学・自治体等・民間企業・独立行政法人等の順に記載)

協定名称	協定締結機関	締結日
国立大学法人神戸大学と学校法人神戸薬科大学との連携に関する協定	神戸薬科大学	H19.7.17
国立大学法人神戸大学と国立大学法人京都大学との計算科学分野における連携協力に関する協定	京都大学	H22.4.1
大阪大学・神戸大学・関西大学・関西学院大学国際化推進に向けたネットワーク形成に関する協定	大阪大学 関西大学 関西学院大学	H23.7.27
京都大学・大阪大学との三大学における相互の協力に関する協定	京都大学 大阪大学	H25.12.21
国立大学法人神戸大学と神戸市灘区との連携協力に関する協定	神戸市灘区	H16.12.2
国立大学法人神戸大学と小野市との連携協力に関する協定	小野市	H17.1.26
国立大学法人神戸大学と兵庫県朝来郡生野町 (現・朝来市) との連携協力に関する協定	朝来郡生野町 (現・朝来市)	H17.3.23
国立大学法人神戸大学と加西市との連携協力に関する協定	加西市	H21.5.19
国立大学法人神戸大学と兵庫県の連携に関する協定	兵庫県	H22.8.2
国立大学法人神戸大学と篠山市との連携協力に関する協定	篠山市	H22.8.30
教員養成のための連携協力に関する協定	大阪府豊能地区 (豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町) 教育委員会	H24.12.18
国立大学法人神戸大学と神戸市との連携に関する協定	神戸市	H25.5.24
三木市と国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	三木市	H25.6.27
兵庫県教育委員会との包括連携協定	兵庫県教育委員会	H26.1.30
国立大学法人神戸大学と川崎重工業株式会社との産学連携の推進に関する協定	川崎重工業株式会社	H18.10.23
連携協力協定	本州四国連絡高速道路株式会社	H21.7.1
神戸大学と池田銀行 (現・池田泉州銀行) の連携協力に関する協定	池田銀行 (現・池田泉州銀行)	H21.8.6
国立大学法人神戸大学と株式会社カネカとの包括的な産学連携推進に関する協定	株式会社カネカ	H22.12.14
神戸新聞社との包括連携協定	神戸新聞社	H26.7.7
国立大学法人神戸大学と独立行政法人理化学研究所計算科学研究機構との計算科学、計算機科学及びこれらに関連する分野における連携・協力に関する協定	(独) 理化学研究所計算科学研究機構 (AICS)	H24.5.15

20.連携大学院実施状況



◎連携講座一覧

平成26年5月1日現在

研究科名	専攻名	講座名	連携先	開始年度
人文学研究科	社会動態専攻	文化資源論	(財)大和文華館 (独)国立博物館奈良国立博物館	平成19年度
国際文化研究科	グローバル文化専攻	先端コミュニケーション論	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
人間発達環境学研究科	人間環境学専攻	環境先端科学	(独)国立環境研究所 (独)産業技術総合研究所生命情報工学研究センター	平成19年度
経営学研究科	経営学専攻・現代経営学専攻	マネジメント・システム設計	(株)野村総合研究所	平成10年度
		事業価値評価	GCAソリューションズ(株)	平成18年度
		経営戦略システム設計	アクセンチュア(株)	平成11年度
理学研究科	化学専攻	構造解析化学	(財)高輝度光科学研究センター 放射光研究所	平成19年度
		理論生物化学	(独)理化学研究所、計算科学研究機構	平成23年度
	生物学専攻	分子薬理学	(株)塩野義製薬医薬開発本部	平成19年度
		発生物理学	(独)理化学研究所、発生・再生科学総合研究センター	平成19年度
地球惑星科学専攻	惑星地球変動史	(独)海洋研究開発機構、 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台	平成25年度	
	大気海洋環境科学	(独)海洋研究開発機構	平成19年度	
医学研究科	医科学専攻	生理学・細胞生物学	(独)理化学研究所、発生・再生科学総合研究センター (株)カン研究所 アスピオファーマ(株)	平成14年度 平成22年度 平成23年度
		生化学・分子生物学	(財)高輝度光科学研究センター、放射光研究所 (株)カン研究所	平成12年度 平成22年度
		微生物感染症学	(独)医薬基盤研究所	平成19年度
		地域社会医学・健康科学	兵庫県立健康生活科学研究所	平成20年度
		内科学	(独)医薬品医療機器総合機構	平成23年度
		内科系	(株)カン研究所	平成22年度
			兵庫県立粒子線医療センター	平成13年度
			(財)先端医療振興財団、先端医療センター (財)先端医療振興財団、先端医療センター	平成13年度 平成20年度
		外科系	兵庫県立総合リハビリテーションセンター 兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター	平成19年度
			兵庫県立こども病院	平成25年度
保健学研究科	保健学専攻	リハビリテーション科学	(独)情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター	平成25年度
工学研究科	建築学専攻	地域減災計画	総務省消防庁消防大学校消防研究センター	平成19年度
	電気電子工学専攻	機能性薄膜学	パナソニック(株)先端技術研究所	平成19年度
	機械工学専攻	知的製造システム	(株)神戸製鋼所技術開発本部、神戸総合技術研究所	平成19年度
		機能適応モデル	(独)情報通信研究機構	平成19年度
	応用化学専攻	開智型ものづくり	川崎重工業(株)、技術開発本部	平成21年度
		局所場反応・物性解析学	(独)産業技術総合研究所、関西センター	平成19年度
		化学エネルギー変換プロセス学	(独)産業技術総合研究所、関西センター	平成19年度
システム情報学研究科	システム情報学専攻	生物機能工学	(財)サントリー生物有機化学研究所	平成21年度
		製剤設計生産工学	アステラス製薬(株)	平成22年度
		ケミカル・バイオセンシング	(独)産業技術総合研究所 連携研究体H ² イノベーションセンター	平成23年度
システム情報学研究科	システム科学専攻	応用システム	三菱電機(株)	平成19年度
	情報科学専攻	感性アートメディア	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
	計算科学専攻	先端計算科学	(独)理化学研究所	平成22年度
農学研究科	資源生命科学専攻	応用計算科学	(独)海洋研究開発機構	平成22年度
		大規模計算科学	(独)理化学研究所計算科学研究機構	平成25年度
海事科学研究科	海事科学専攻	食料生産フィールド科学	兵庫県立農林水産技術総合センター	平成19年度
		海洋環境計測科学	(独)海洋研究開発機構	平成19年度
		地域環境科学	(財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター	平成21年度

21.教育関係共同利用拠点

平成26年7月、以下の3施設が教育関係共同利用拠点として認定されました。

施設名	拠点名	期間
大学院農学研究科附属 食資源教育研究センター	農場と食卓をつなぐフィールド教育拠点	H26.7.31~H31.3.31
大学院海事科学研究科附属 練習船深江丸	グローバル海上輸送に関わる海事技術・ 海洋環境とヒューマンファクタの教育 のための共同利用拠点	H26.7.31~H31.3.31
自然科学系先端融合研究環 内海域環境教育研究センターマリンサイト	都市域沿岸の海洋生物・生態系と 環境管理に関わる教育共同利用拠点	H26.7.31~H31.3.31



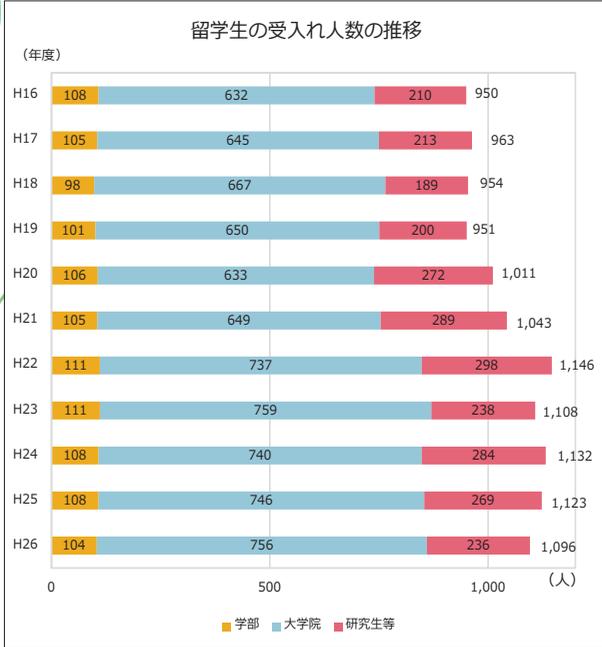
22.留学

22-1.外国人留学生受入れ状況（在籍段階別）

留学生の受入れについて、平成20年度から22年度にかけて増加したものの、近年横ばい傾向となっている。留学生比率は若干ながら増加傾向にあり、大学院留学生の比率に関しては、全国平均を上回っている。

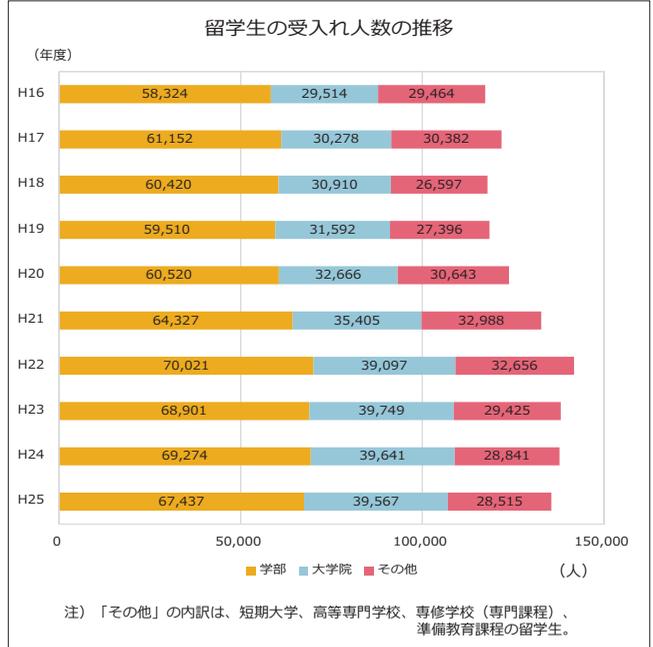
◆神戸大学◆

※各年度5月1日現在



◆全国◆

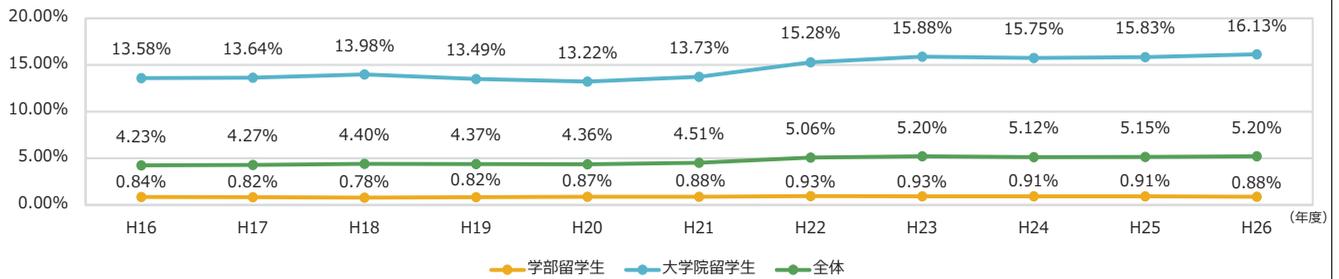
※各年度5月1日現在



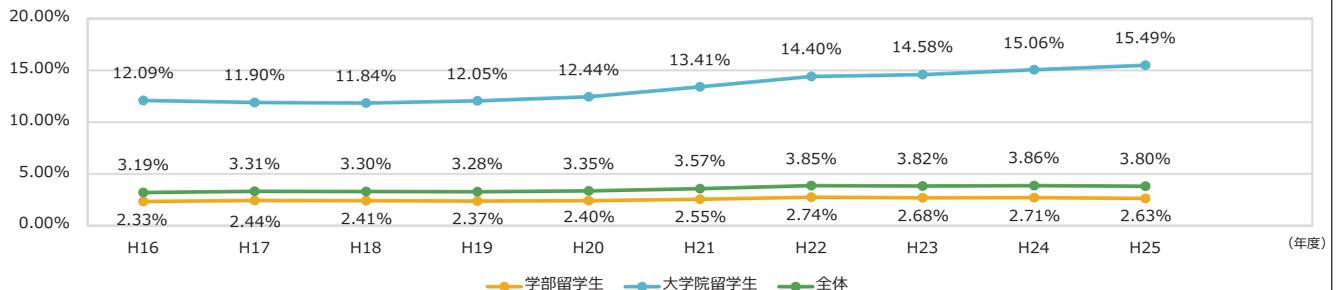
出典（全国）：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」より作成

22-2.在籍学生に占める外国人留学生の比率

留学生比率（神戸大学）



留学生比率（全国）



注) 留学生比率（全体） = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100

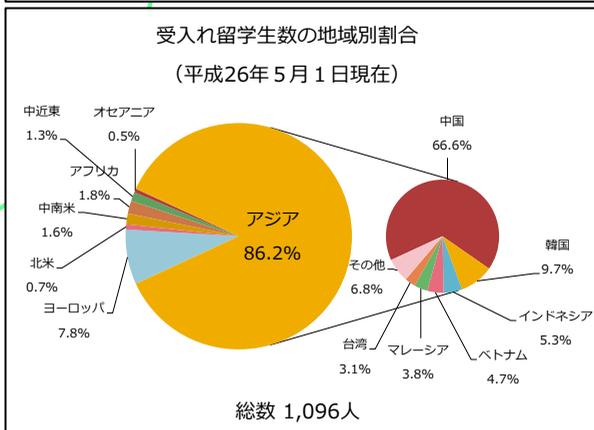
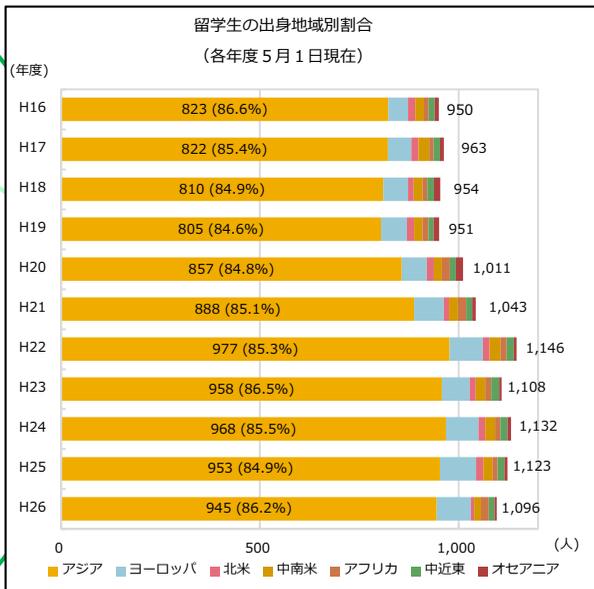
※研究生・聴講生・科目等履修生等は含まない。

出典（全国） 留学生数：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

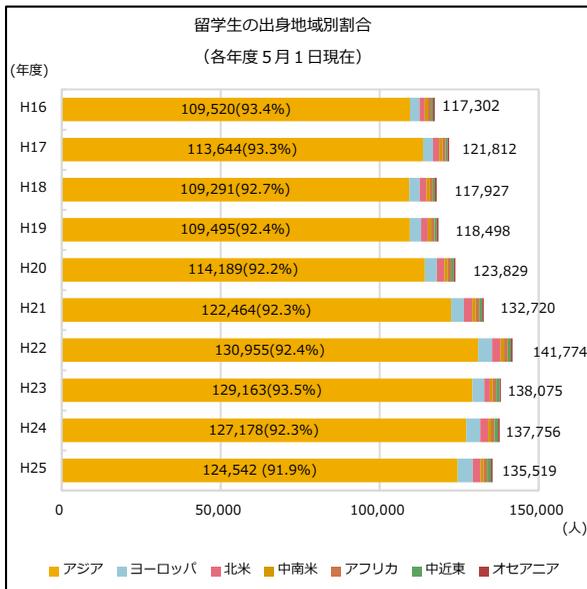
学生数：文部科学省「学校基本調査」

22-3.外国人留学生受入れ状況（地域別）

◆神戸大学◆



◆全 国◆

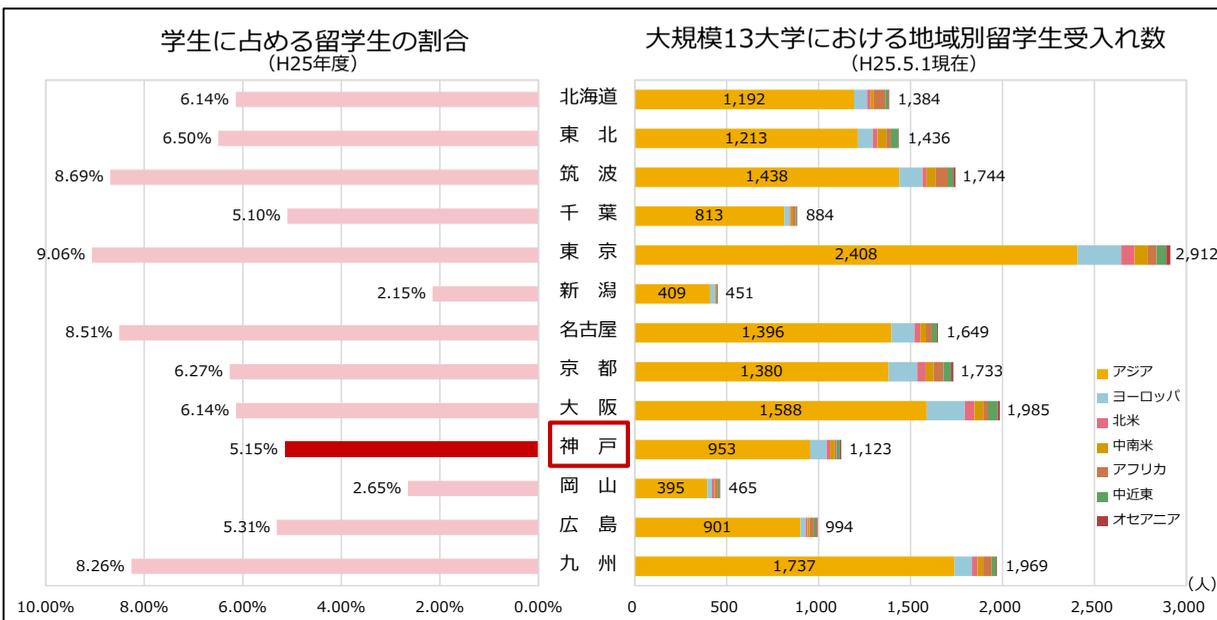


出典（右上）：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」より作成

注1) ()内は各年度における全体に対するアジア出身留学生の割合。

注2) 本学の留学生には、研究生等を含む。全国の留学生には、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、準備教育課程の留学生を含む。

22-4.大規模13大学の外国人留学生受入れ状況



注) 留学生の割合 = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100

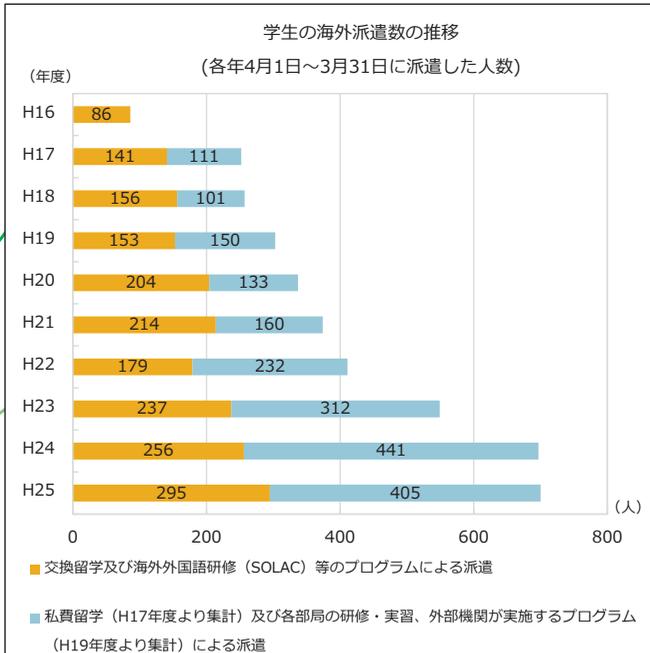
出典（左） 留学生数：朝日大学ランキング2015 学生数：各大学HP

出典（右） 各大学HPより確認（研究生等も含む）

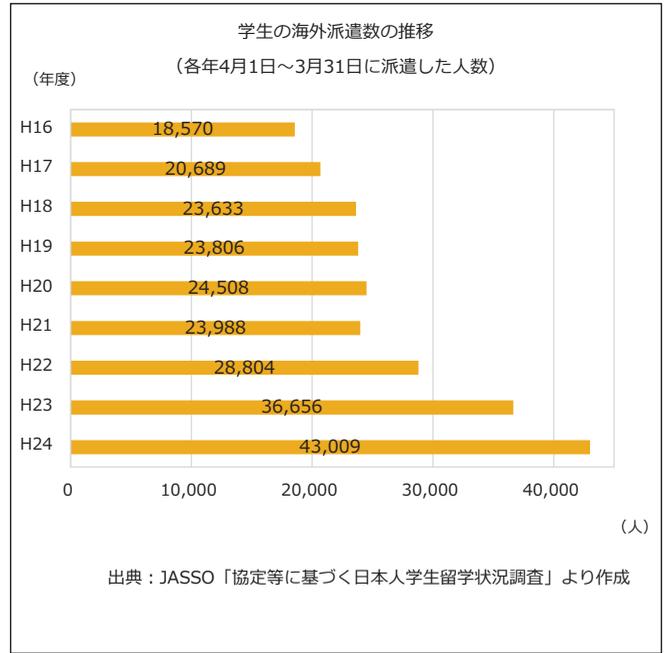
学生派遣数について、神戸大学は年々増加傾向にある。その内訳を見ると、ヨーロッパへの学生派遣比率が他大学と比べて高い点が特徴的である。

22-5.日本人学生の海外派遣数の推移

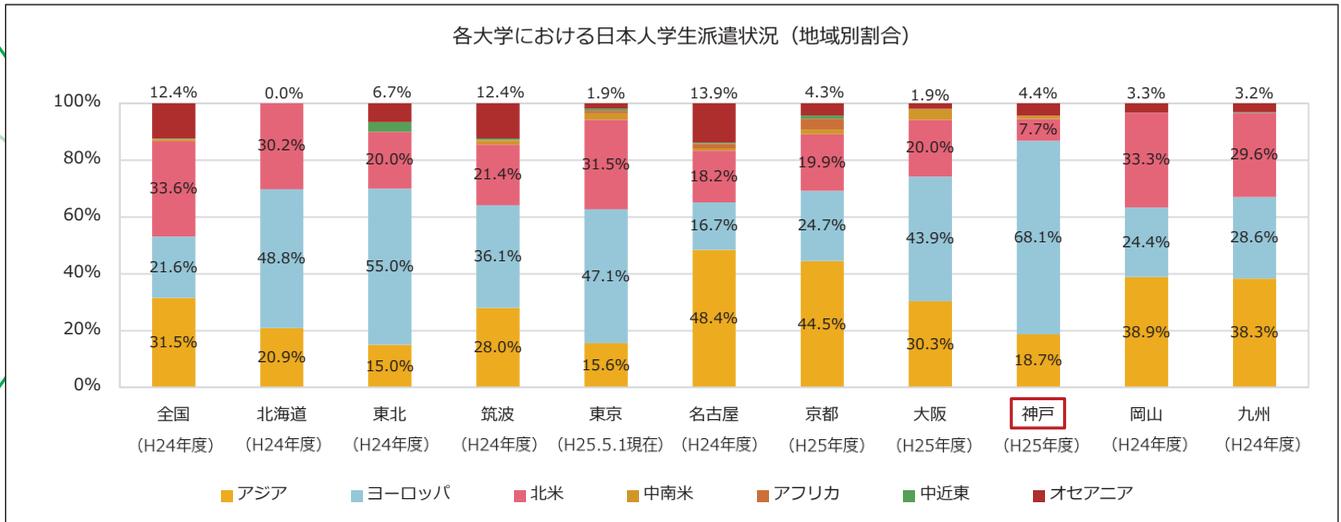
◆神戸大学◆



◆全 国◆



22-6.各大学における日本人学生の海外派遣状況



注) 全国については、JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」より作成した。各大学については、各大学のHP等により確認した。なおグラフ内には、比較的割合の大きいアジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアの割合のみ記載している。

※下記のとおり、大学によって定義が異なるので、単純比較はできない。

北海道大学、東北大学、大阪大学…協定等に基づく交換留学生

筑波大学、東京大学、京都大学…基準の記載なし

名古屋大学…海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等

神戸大学…大学間学術交流協定に基づく留学者数

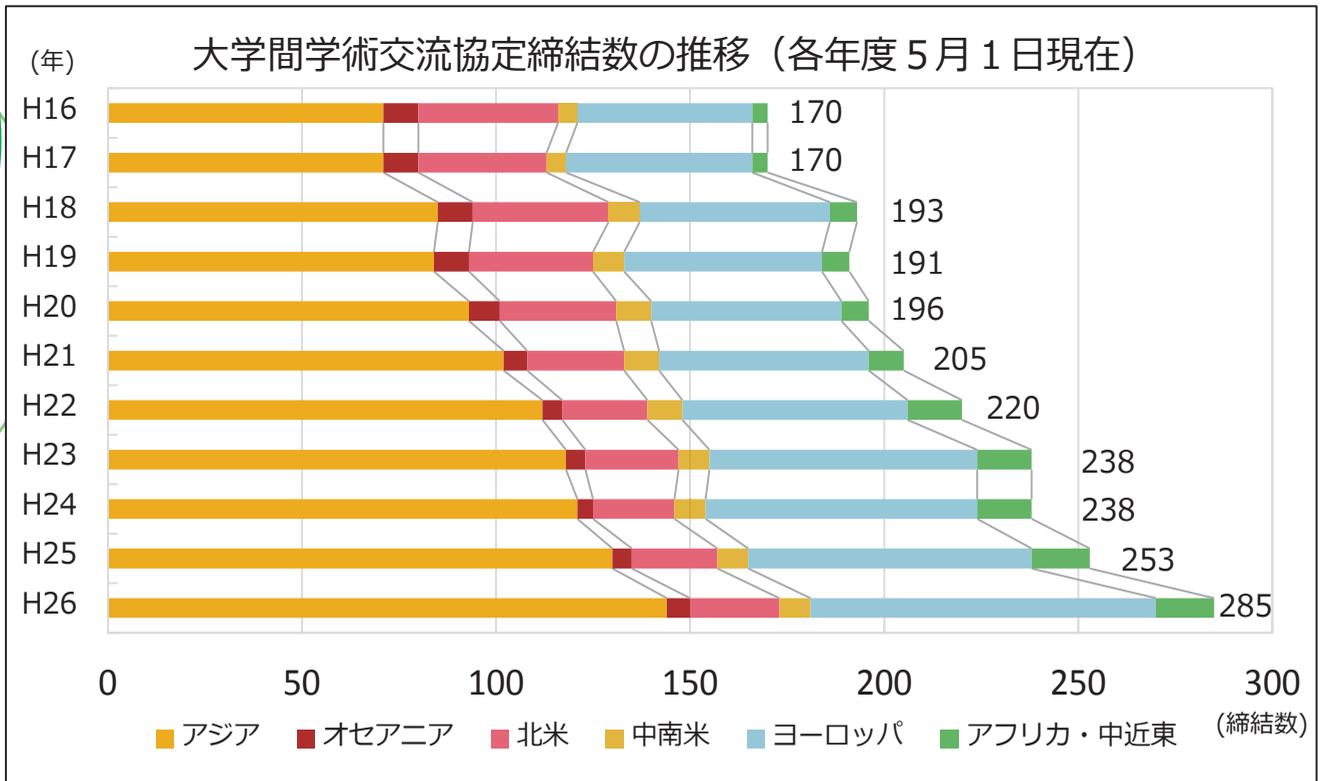
岡山大学…「留学願」受付数より算出

九州大学…過年度に留学を開始した者を含む

23.海外大学との交流状況

23-1.外国の大学等との学術交流協定の締結状況

◆神戸大学◆

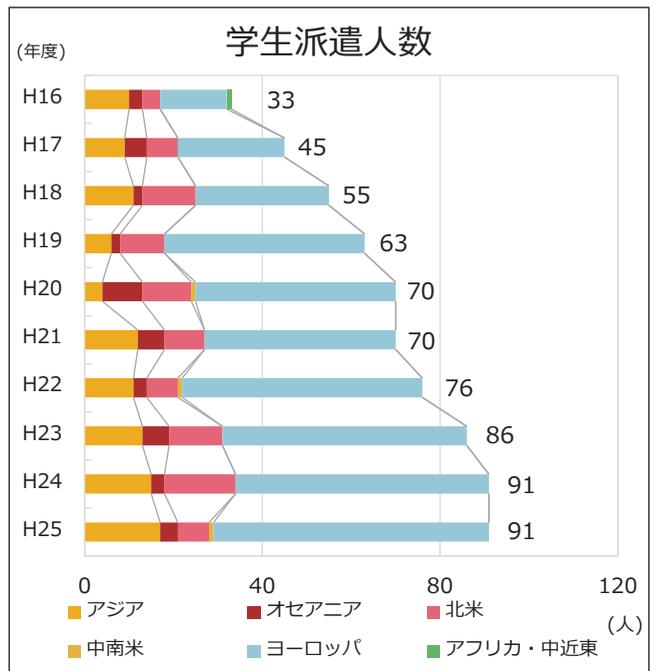
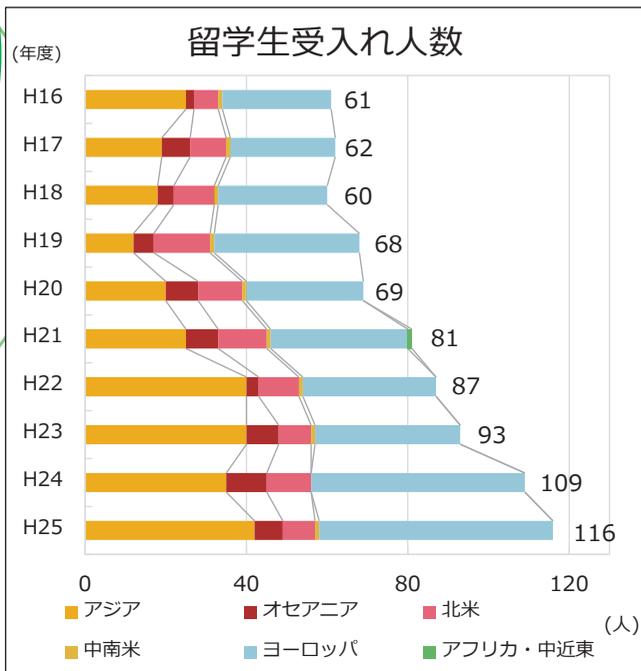


23-2.大学間学術交流協定に基づく留学生受入れ・学生派遣状況

受入れでは、近年ヨーロッパからの留学生の増加が目立つ。一方で、日本人留学生の派遣でも、ヨーロッパの大学への派遣が大幅に増加している。

◆神戸大学◆

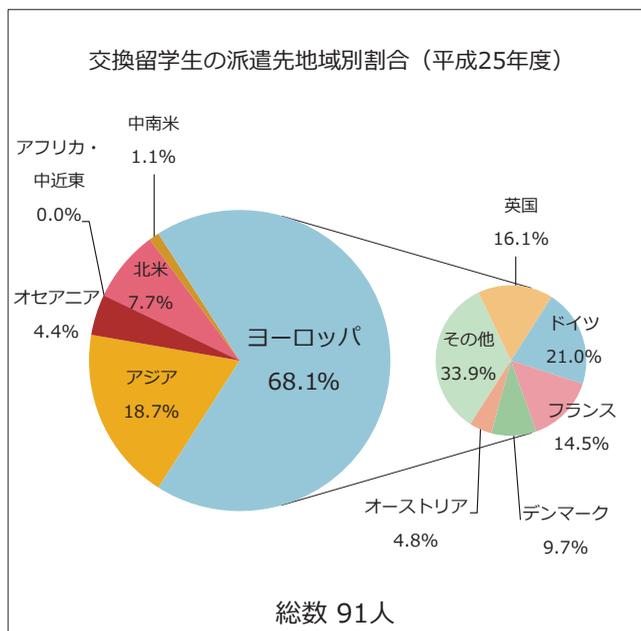
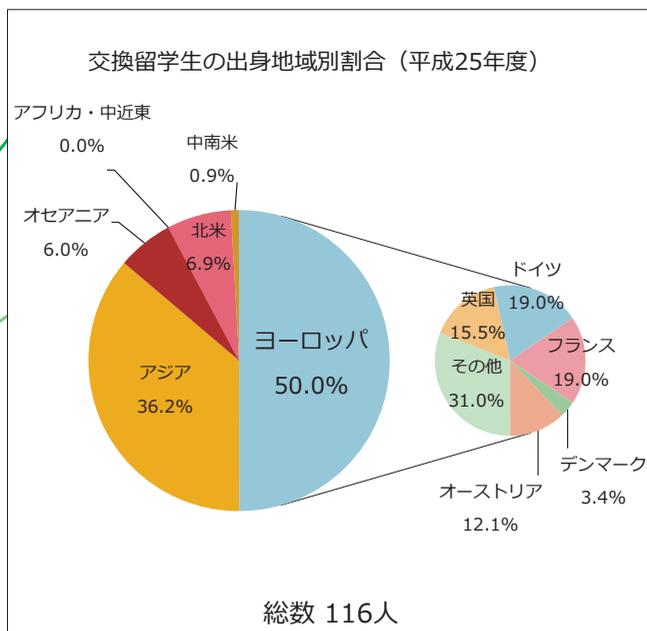
※グラフ内の数値は各年度の総数



23-3. 大学間学術交流協定に基づく 外国人留学生の出身地域・日本人留学生の派遣先地域

外国人留学生の出身地域、日本人留学生の派遣地域ともに、ヨーロッパが多く、神戸大学の特徴となっている。内訳を見ると、半数近くが英国・ドイツ・フランス以外との交流であり、多様な交流が行われていることがわかる。

◆神戸大学◆



23-4. ダブルディグリープログラムによる学生交流者数

○神戸大学におけるダブルディグリー設置状況

※平成26年10月1日現在

部局	課程	共同設置機関	共同設置機関校	先方における関係部局	プログラム発着 締結日	派遣/受入れ 開始日	派遣						受入れ									
							H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26		
国際文化 学研究所	修士	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学※1	人文学研究科	2012/3/28	2012年秋以降	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	0	1		
			中国	浙江大学※1	人文学院	2011/9/28	2012年4月	-	-	-	1	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0	
法学研究 科	修士	英国	エセックス大学※1	政治学部	2013/9/19	2014年秋以降	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			ポーランド	ヤゲウォ大学※1	ヨーロッパ研究研究科	2014/3/11	2014年秋以降	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
経済学研 究科	修士	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学※2	人文学部	2010/1/18	2012年春（受入）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	
			ルーヴァン・カトリック大学※1	ヨーロッパ研究センター	2013/5/8	2014年秋	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		中国	北京外国語大学※2	北京日本語研究センター	2010/5/18	2011年春	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	2	3
			武漢大学※2	外国語文学学院日本語部	2012/12/10	2013年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5
国際協力 研究科	修士	インドネシア	インドネシア大学※3	経済学研究所	2006/6/28	2007年秋	-	1	0	0	0	0	1	3	2	2	2	1	1	0		
			ガジャマダ大学※3	経済経営研究科	2006/6/28	(受入)	-	0	0	0	0	0	1	2	3	2	3	3	4	0		
			バンドン工科大学※3	都市工学系研究科	2006/6/28	2010年8月	(派遣)	-	0	0	0	0	0	2	2	1	1	2	1	1	0	
				建築計画政策開発研究科	2006/6/28	(派遣)	-	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	1	1	0		
		韓国	ソウル国立大学校※1	国際関係学院	2011/11/25	調整中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			高麗大学校※1	国際研究大学院	2012/3/26	2012年秋	-	-	-	2	2	2	-	-	-	-	-	-	1	3	2	
		中国	復旦大学※1	国際関係・公共事務学院	2012/6/12	2012年秋	-	-	-	2	2	4	-	-	-	-	-	-	3	2	3	
			イーストアングリア大学	開発学部	2008/7/16	2009年秋	1	0	1	0	0	2	-	-	0	0	0	0	0	0	0	
		英国	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院	全部局	2009/9/7	2010年秋	-	0	1	1	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	0	
			サセックス大学	教育社会福祉学部	2010/2/25	2010年秋	-	2	0	0	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	0	
米国	ピッツバーグ大学	公共国際関係学研究所	2009/9/24	2013年秋	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	1	0			
エジプト	カイロ大学	経済政治学研究所	2009/7/16	調整中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
計							1	3	2	6	4	9	7	7	6	6	11	15	19	15		

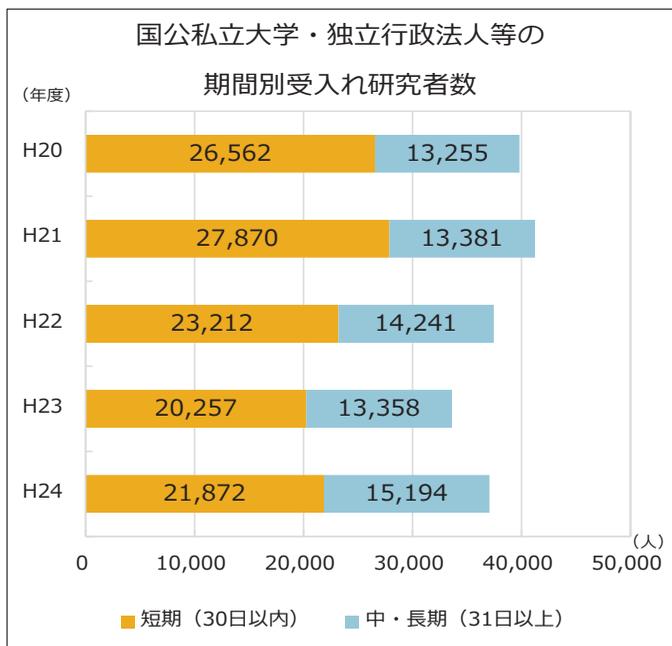
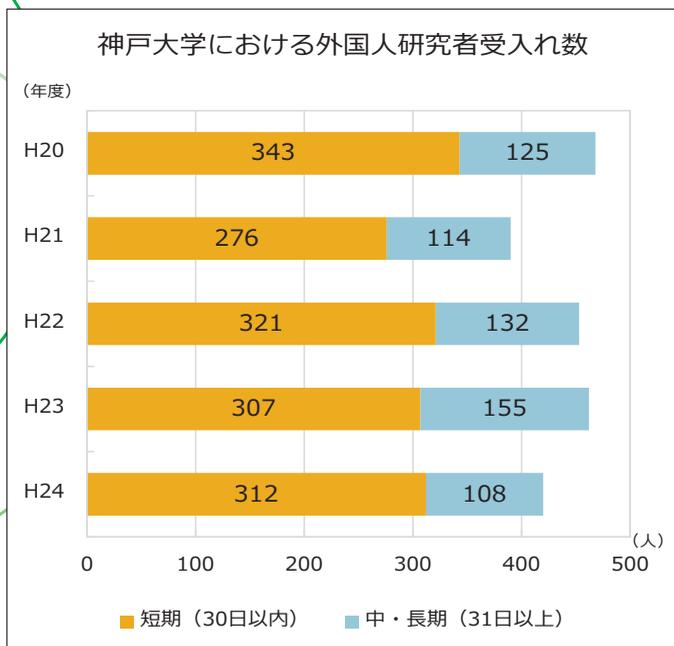
※ 〇 は、受入れ・派遣を開始していないことを示す。

- ※1 授業料相互不徴収によるダブルディグリープログラム。
- ※2 受入のみのダブルディグリープログラムであり、日本語学科の修士課程に在籍の学生を対象として、最短2年間で共同設置大学と神戸大学経済学研究所の修士号取得を目指すもの。
- ※3 インドネシア大学経済学研究所、ガジャマダ大学経済経営研究科及び都市工学系研究科、バンドン工科大学とは、2006年に日本の国際協力銀行(当時の円借款)による支援を受けてダブルディグリー取得を目指す学生の受入れのために覚書を交わし、2007年秋学期から、7名を受入れ。これらの大学とは、別途私費でダブルディグリー取得を目指す学生の相互派遣・受入れを目指した覚書も締結している。

24.研究者等交流状況

24-1.外国人研究者受入れ数の推移

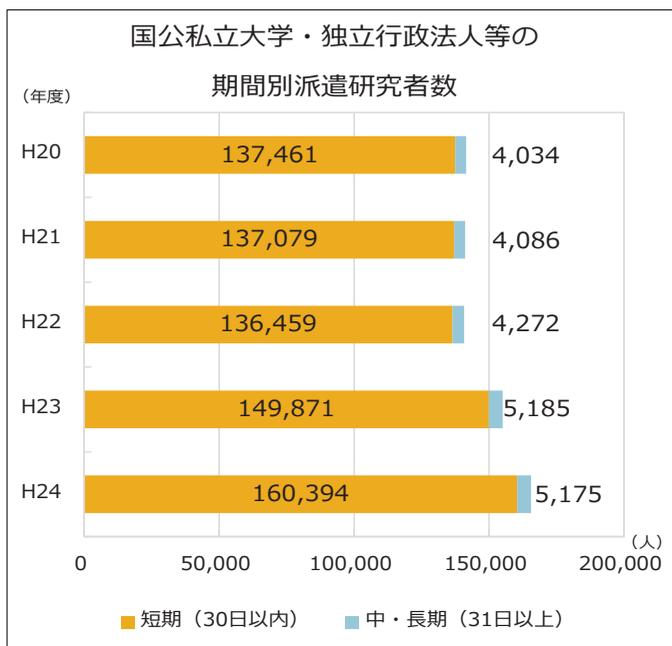
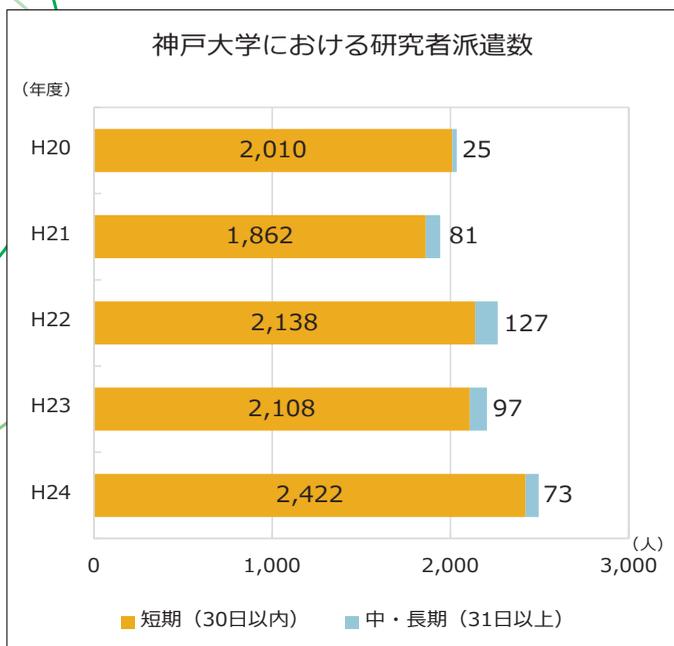
国際



右：出典 文部科学省 「国際研究交流の概況」より作成

24-2.研究者海外派遣数の推移

神戸大学では、平成21年度に開始した若手教員長期海外派遣制度により、中・長期派遣研究者数を大幅に増加させている。



右：出典 文部科学省 「国際研究交流の概況」より作成

25. 附属病院

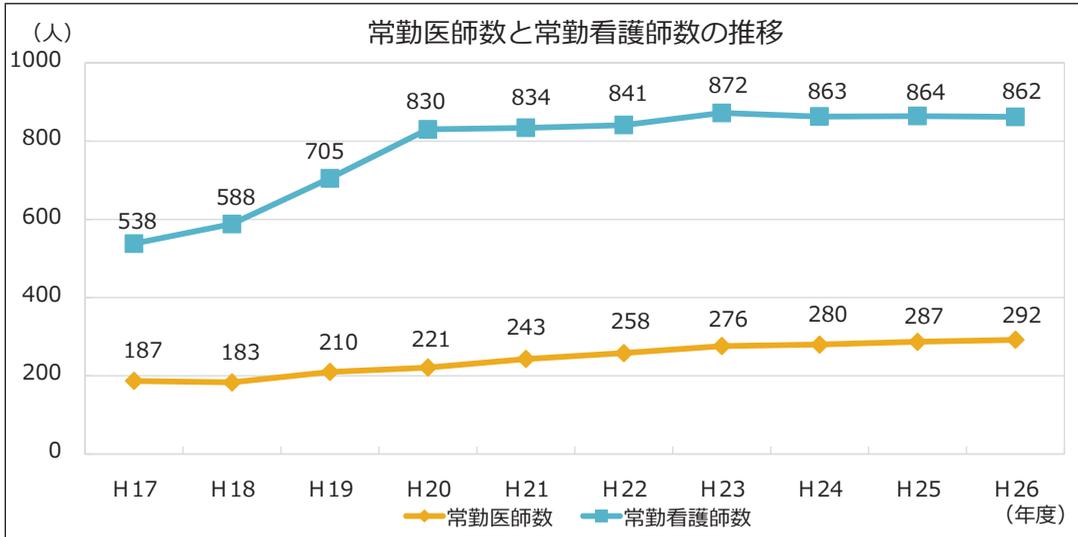
25-1. 附属病院データ

(病床数・常勤医師数・常勤看護師数)

◆神戸大学◆

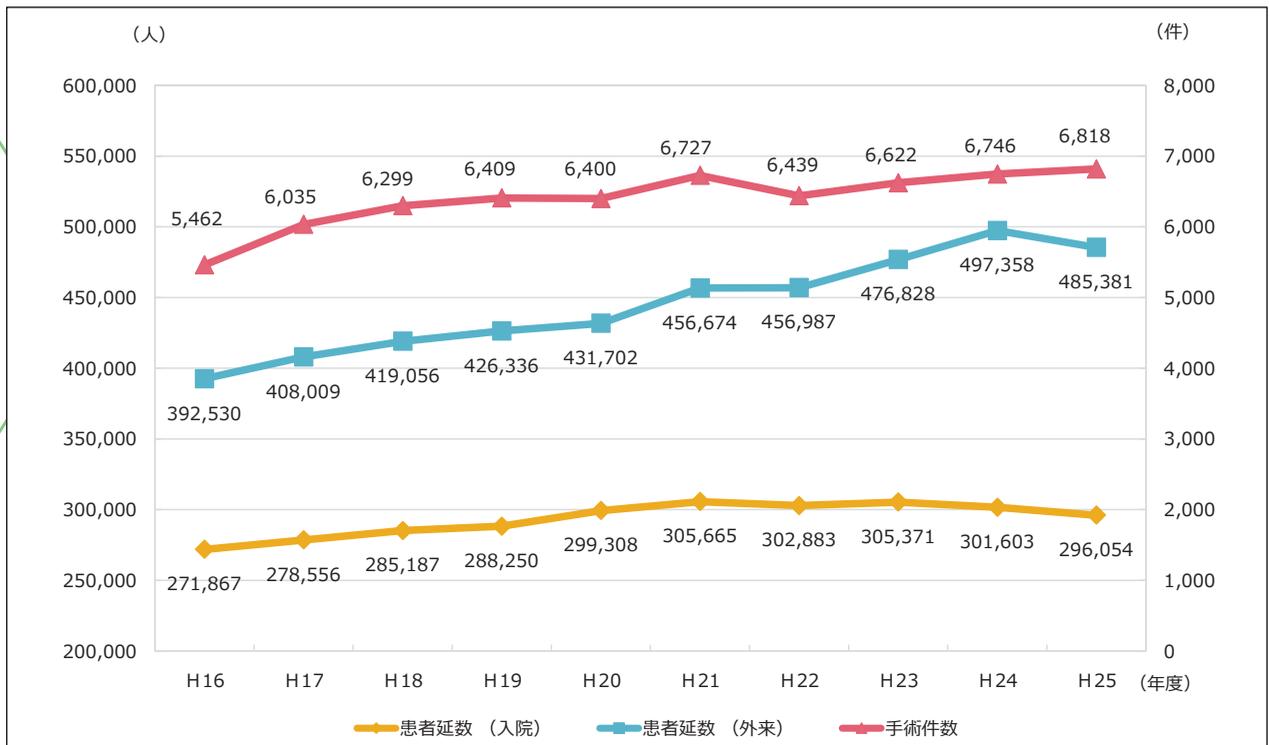
平成26年5月1日現在

病床数		常勤医師数	常勤看護師数
一般病棟	精神病棟		
882床	46床	292名	862名



25-2. 附属病院データ (総手術件数と患者数の推移)

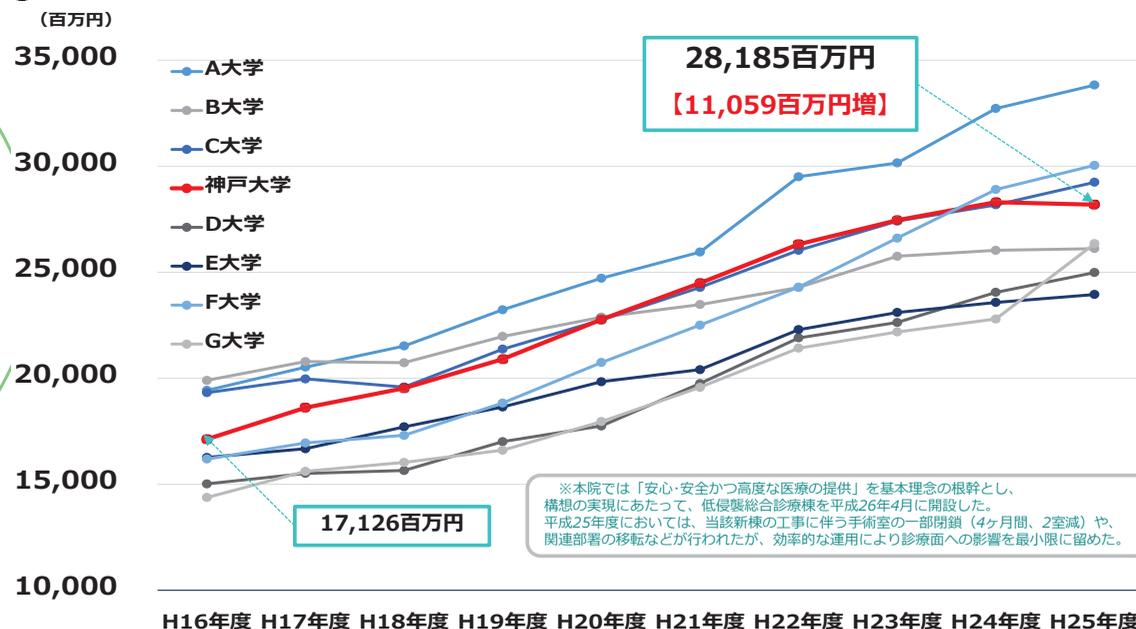
◆神戸大学◆



25-3.国立大学法人病院診療報酬請求額等の推移

診療報酬請求額の推移 (H16~H25年度)

●病床数が同規模である8大学について比較をした。



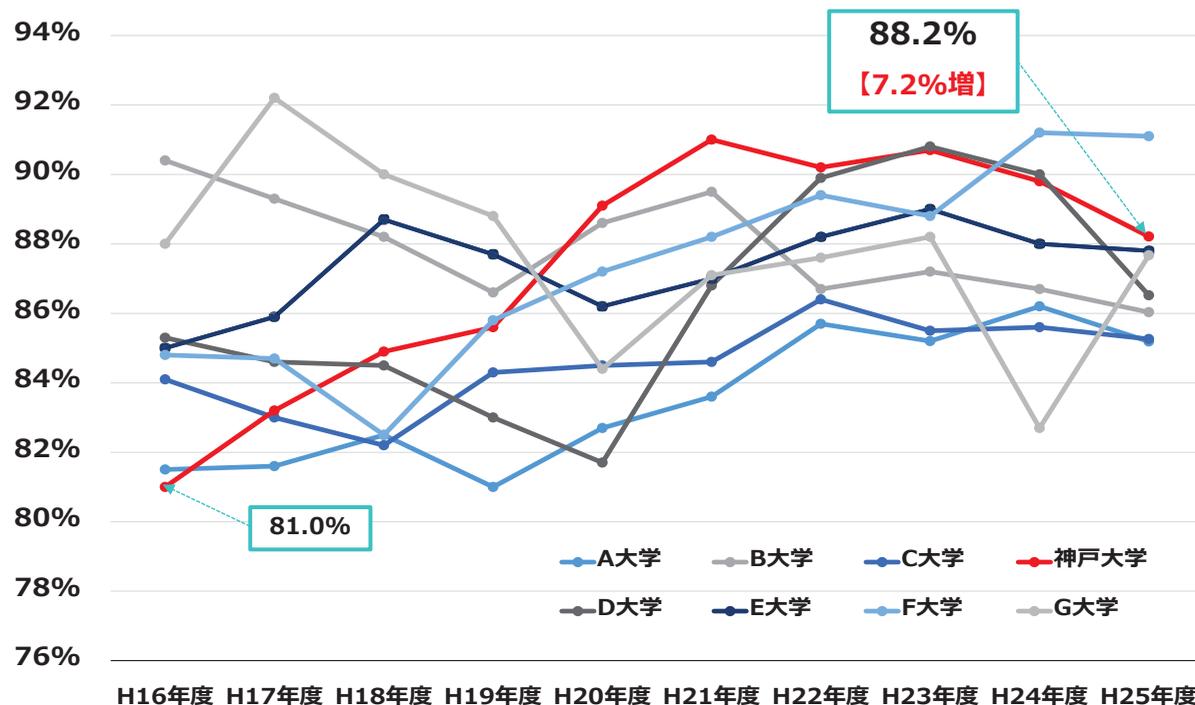
《参考》 (千円)

大学名	病床数	運営費交付金 (H24年度)	大学名	病床数	運営費交付金 (H24年度)
A大学	1,035床	3,204,847	D大学	862床	2,193,768
B大学	946床	2,932,708	E大学	838床	3,063,593
C大学	909床	3,545,587	F大学	835床	3,044,885
神戸大学	920床	2,861,158	G大学	800床	3,012,091

【出典】
 ・診療報酬請求額・・・H16~H24：国立大学病院DBC病院資料
 H25：国立大学病院DBC診療報酬稼働額Webページ
 ・病床数・・・国立大学病院DBC病院資料（H25.6.1現在）
 ・運営費交付金・・・各国立大学法人HP掲載資料

病床稼働率の推移 (H16~H25年度)

●病床数が同規模である8大学について比較をした。

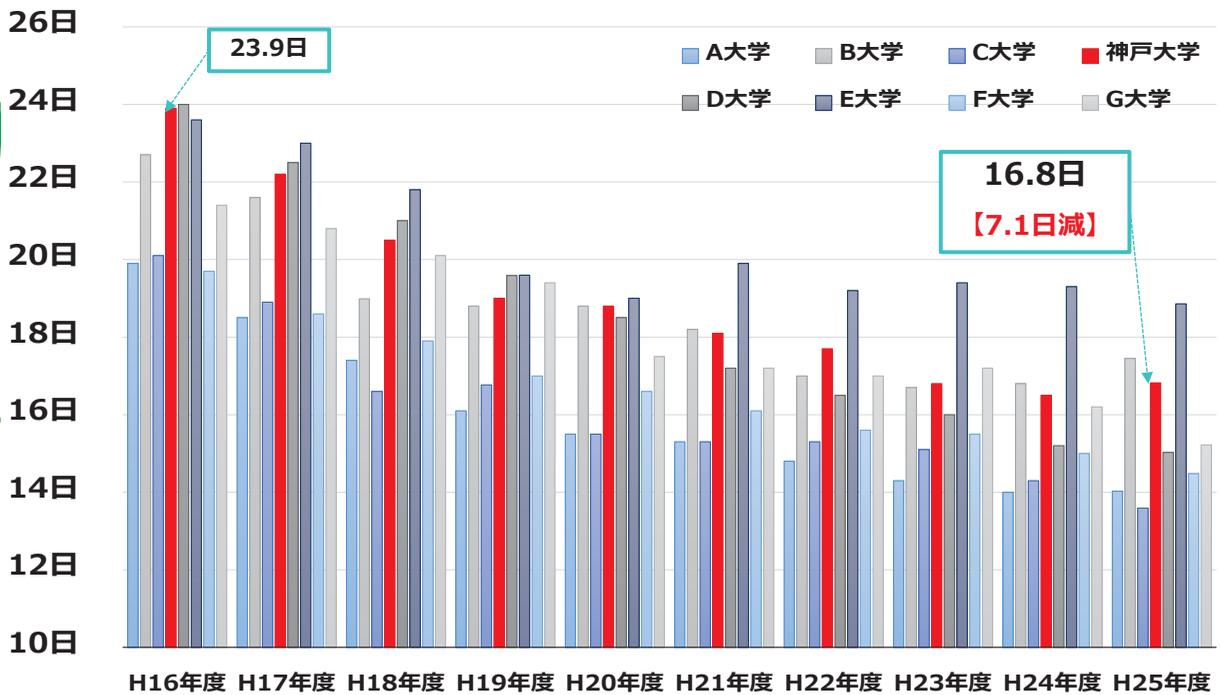


H16年度 H17年度 H18年度 H19年度 H20年度 H21年度 H22年度 H23年度 H24年度 H25年度

【出典】
 ・病床稼働率・・・H16~H24：国立大学病院DBC病院資料、H25：UMINページ

平均在院日数（一般病床）の推移（H16～H25年度）

● 病床数が同規模である8大学について比較をした。



【出典】
 ・平均在院日数（一般病床）・・・H16～H24:国立大学病院DBC病院資料
 H25:UMINデータ

神戸大学医学部附属病院は、教育・研究・高度医療・地域医療に貢献しています

教育

- 将来の医療を担う医療従事者の育成
- ・医学生、看護学生等の教育
 - ・初期研修医(110名)の指導
 - ・専門医の養成(プログラム登録者541名)
 - ・エキスパートコメディカルの育成 (H26.5.1現在コース修了者99名)



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」

研究

- 臨床医学発展の推進と医療技術水準の向上への貢献
- ・新薬等開発のための臨床試験(治験)
 - ・先進医療の開発
 腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術
 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術
 ロボット支援手術 ほか

診療

- ・地域の中核病院として専門性を有した質の高い医療の提供
- ・小児科、産科、救急医療など地域医療の充実のための診療部門における医療の提供
- ・中央診療棟の増築により基盤強化した診療の提供



中央診療棟（増築部分）

社会貢献

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・2次救急医療機関（3次的機能病院）
- ・医師が不足している地域に医師を派遣

26.附属学校

附属中等教育学校では、神戸大学dayを開催しています。

平成25年6月

中等教育学校において3・4年生の生徒を対象とした、神戸大学全体及び各学部のガイダンスや講義を実施する「神戸大学day」を開催しました。本取組は平成24年度から開催しており、平成25年度は神戸大学全学部から12名の教員と27名の学生が協力しました。生徒は、大学生活や自分が希望する学部の話を聞いて、神戸大学への理解を深めるとともに、自分の進路について考える機会となりました。

- 【内容】
- ◇教育担当理事による神戸大学の概要等説明
 - ◇各学部ガイダンス・講義・質問対応
 - ◇神戸大学落語研究会によるアトラクション
 - ◇生徒代表挨拶・コーラス部発表



附属学校では、大学との連携授業を実施しています。

平成25年10月

人文学研究科の協力の下、六甲台第2キャンパスにある瀧川記念学術交流会館において、約60名の小学生・中等教育学校生及び保護者が大学の授業を受けました。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 【授業内容】 | 【体験実習・見学】 |
| 『<他者（たじゃ）>ってなに？』 | 『心理学実験を体験してみよう』 |
| 『絆を科学する』 | 『江戸時代の古文書に触れてみよう』 |
| | 『大学図書館に潜入せよ』 |



平成26年2月

人間発達環境学研究科の協力の下、鶴甲第2キャンパスにある発達科学部において、約60名の小学生・中等教育学校生及び保護者が大学の授業を受けました。

- | |
|------------------------|
| 【授業内容】 |
| 『健康的生活習慣をつくりだそう』 |
| 『音楽の創造と聴取』 |
| 【体験実習】 |
| 『深海の堆積物から小さな化石を探してみよう』 |
| 『環境にやさしいプラスチック』 |
| 『環境DNAってなんだろう？』 |



27.学内施設等

山口誓子記念館

(平成25年度利用者数：609人)

近代俳句に大きな足跡を残した山口誓子氏の居宅の母屋を、ほぼ忠実に復元した施設。俳句俳諧文学を中心とする国文学研究の振興や海外との学术交流等に広く寄与することを目的とし、句会や茶会などにも利用できます。



海事博物館

(平成25年度来館者数：2,880人)

海事に関する資料を幅広く収集・展示して教育と研究の参考に資するとともに、海事の啓発に寄与することを目的とする施設です。毎年、海の日を記念して開催する企画展では、常設展示に加えて企画展のテーマに沿った特別展示を行います。

附属図書館大学文書史料室

(平成25年度来場者数：2,770人(常設展のみ))

特定歴史公文書等その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することを目的とする施設。神戸大学の110年を超える伝統ある歴史を、貴重な歴史資料や写真等で振り返ることができる展示を実施。常設の展示会だけでなく、年1回の特別展や東京等での巡回展も開催。



附属図書館

地域・社会との連携協力の一環として、平成16年度より毎年資料展を実施。平成25年度はパネル展「近代神戸点描」を開催。

28.公開講座等

神戸大学では、公開講座を数多く開催しています。

《大学主催の公開講座（平成25年度実施分）》

部局名	講座名	受講対象者	時間数 (時間)	募集人数 (人)	受講者数 (人)
全学	神戸大学研究最前線	一般市民、学生	9	150	145
人文学研究科	人と「こころ」の人文学	一般市民、学生	6	100	76
	まちづくり地域歴史遺産活用講座	(指定無し)	9	20	20
	古文書解読初級講座	(指定無し)	6	20	21
国際文化学研究科	あらためて震災と文化・社会を考える	一般社会人、学生(中学生以上)	6	100	87
経営学研究科	ユニークな経営学研究の世界	一般社会人、学生等	12	100	245
医学研究科	再生医学で作る医療の未来	一般市民、学生等	10	100	56
保健学研究科	平成25年度神戸大学大学院保健学研究科市民講座 「最新の研究から家庭の保健・医療へ」 -地域在宅での健康を支える保健・医療-	一般市民・学生(高校生以上)	4	100	93
工学研究科	20X0年の暮らしを支える工学	一般社会人、学生・生徒	15	100	69
農学研究科	大学院農学研究科公開講座 (第3回神戸大学食の安全・安心科学センター/東京大学食の 安全研究センター共同開催フォーラムとの連携開催)	(指定無し)	約4	—	30
海事科学研究科	再生可能エネルギーの利用に向けて	高校生以上	3	50	45
	ヨットクルージング	軽い運動の可能な人(15歳~70歳)	42	18	18
	海事科学研究科公開講座・海事博物館市民セミナー 「進水式の絵葉書に見る船の変遷-船舶の過去から現在-」	一般社会人・学生(高校生以上)	各1.5 (全5回)	各100	47/日※

※海事博物館市民セミナーの公開講座受講者数 10/5=49、10/12=53、10/19=43、11/2=41、11/16=51、5日間で計237人により47/日と表記

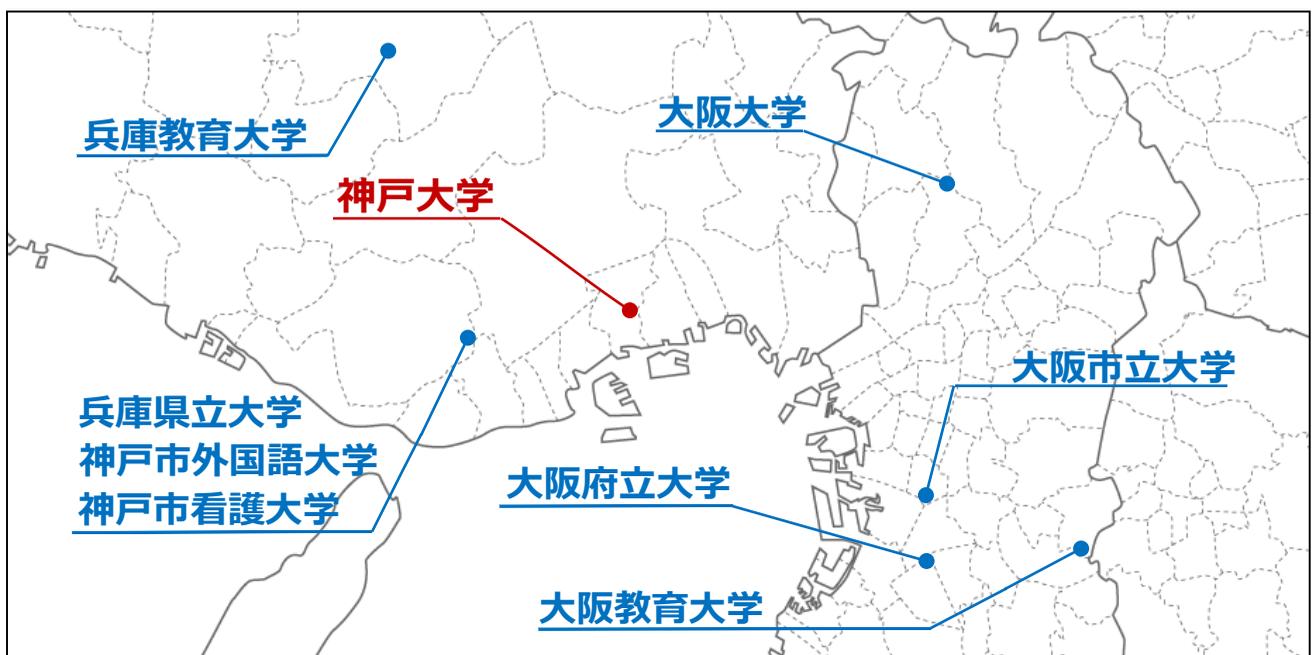
《その他の主な講座、セミナー、シンポジウム等（平成25年度実施分）》

部局名	講座名	受講対象者	時間数 (時間)	募集人数 (人)	受講者数 (人)
国際文化学研究科	神戸大学国際シンポジウム 高等教育における外国語教育の課題と展望—グローバル人材 育成への貢献—	一般市民、学生等	4	70	54
人間発達環境学研究科	公開シンポジウム—発達研究の展望(その3)—発達研究と 現場実践との共創(コラボレーション):「子どもの心と発 達」を掴む	学生・院生・研究者・一般	7	100	124
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトタウンミーティング	鶴甲地区住民、教員、学生、行政関係者	各2(全2回)	—	各50
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト アカデミックサロン 神戸大学人間発達環境学研究科アクティブエイジング・プロ ジェクト 学術プログラム	鶴甲地区住民、教員、学生、行政関係者 教員、学生、行政関係者	1.5 各1.5 (全2回)	—	50 30
法学研究科	神戸大学社会科学系教育研究府・法学部主催 模擬安保理大会 2013	高校生	8	30	15
経済学研究科	神戸大学経済学部・日本経済研究センター 共催講演会「日 本とアジアの経済関係—企業・個人ベースでの緊密化を考え る-」	学生、一般市民	1.5	200	約40
経営学研究科	グッドプラクティスセミナー 第24回~第31回	一般市民	各1.5	各75	420
理学部	サイエンスセミナー2013「サイエンス最前線」	高校生・一般市民	40分×5	120	78
医学研究科	神戸大学医学部附属病院市民公開講座 (地域がん診療連携拠点病院機能強化事業)	一般市民	2	500	130
	第4回神戸医療イノベーションフォーラム	一般、学生、教員、企業(一般公開)	6	300	276
システム情報学研究科	システム情報学研究科3周年記念シンポジウム	教員、企業関係者、学生など	6	300	355
経済経営研究所	特別公開講座「アベノミクスとTPP」	(指定なし)	2	500	435
附属学校部	教育講演会	在園児保護者	2	—	92
附属幼稚園	「乳幼児期の発達に適した家庭教育を考える」	乳幼児をもつ地域の保護者	2	—	92
社会科学系教育研究府	社会科学系教育研究府一周年記念シンポジウム	一般市民、学生等	3.5	300	約250
	神戸大学社会科学系教育研究府・東北大学震災共同シンポジ ウム「震災からの経済復興」	一般市民、学生	4.5	200	約50
留学生センター	神戸大学留学生センター創立20周年記念事業国際シンポジウ ム「世界の日本学の発展と日本語教育の課題~留学生セン ターの今後の役割~」	一般市民、学生等	3	100	110
広報室	第2回シンポジウム「神戸大学のミリオク」	中学生・高校生とその保護者	4	200	150

近隣国公立大学のデータ・地図

大学名	神戸大学	大阪大学	大阪府立大学	大阪市立大学	兵庫県立大学
学部	文学部	文学部	現代システム科学域	商学部	経済学部
	国際文化学部	人間科学部	工学域	経済学部	経営学部
	発達科学部	外国語学部	生命環境科学域	法学部	工学部
	法学部	法学部	地域保健学域	文学部	理学部
	経済学部	経済学部		理学部	環境人間学部
	経営学部	理学部		工学部	看護学部
	理学部	医学部		医学部	
	医学部	歯学部		生活科学部	
	工学部	薬学部			
	農学部	工学部			
	海事科学部	基礎工学部			
大学院	人文学研究科	文学研究科	工学研究科	経営学研究科	経済学研究科
	国際文化学研究科	人間科学研究科	生命環境科学研究科	経済学研究科	経営学研究科
	人間発達環境学研究科	法学研究科	理学系研究科	法学研究科	工学研究科
	法学研究科 (法科大学院)	経済学研究科	経済学研究科	(法科大学院)	物質理学研究科
	経済学研究科	理学研究科	人間社会学研究科	文学研究科	生命理学研究科
	経営学研究科 (経営専門職大学院)	医学系研究科	看護学研究科	理学研究科	環境人間学研究科
	理学研究科	歯学研究科	総合リハビリテーション学研究科	工学研究科	看護学研究科
	医学研究科	薬学研究科		医学研究科	応用情報科学研究科
	保健学研究科	工学研究科		生活科学研究科	シミュレーション学研究科
	工学研究科	基礎工学研究科		創造都市研究科	地域資源マネジメント研究科
		言語文化研究科		看護学研究科	会計研究科(専門職)
	システム情報学研究科	国際公共政策研究科			経営研究科(専門職)
	農学研究科	情報科学研究科			緑環境景観マネジメント 研究科(専門職)
	海事科学研究科	生命機能研究科			
国際協力研究科	高等司法研究科(専門職)				
	大阪大学・金沢大学・浜松 医科大学・千葉大学・福井 大学連合小児発達学研究科				
附属学校	附属幼稚園				附属中学校
	附属小学校				附属高等学校
	附属中等教育学校				
	附属特別支援学校				

出典：平成26年度全国大学一覧・各大学HP等により確認



※図中の丸は本部所在地を示す。



データと資料が語る神戸大学の今の姿

－神戸大学データ資料集－

平成26年度

神戸大学企画部企画課

(平成26年9月作成)